

富谷町社会福祉協議会 地域福祉活動推進計画

基本理念

心ふれあう

暮らしやすい

福祉のまちづくり

社会福祉法人富谷町社会福祉協議会

目 次

I 計画策定に寄せて

- ・地域福祉活動推進計画の策定にあたって 会 長 山 田 吉 邦 …………… 1
- ・地域福祉活動後期実施計画策定によせて 委 員 長 千 葉 芳 樹 …………… 2
- ・地域福祉活動後期実施計画策定によせて 富谷町長 若 生 英 俊 …………… 3

II 計画策定にあたって

- 1 計画策定の概要について…………… 5
- 2 計画の位置づけ…………… 5
- 3 計画策定の目的…………… 6
- 4 計画の期間…………… 6
- 5 計画策定体制…………… 6
- 6 後期実施計画策定方針…………… 6
- 7 計画策定の期間…………… 7
- 8 計画策定体制…………… 7

III 富谷町地域福祉活動推進計画（10年）

- 基本理念・基本目標・基本計画（10年計画）一覧 …………… 10
- 基本目標1 基本計画（1）～（4）…………… 11
- 基本目標2 基本計画（1）～（4）…………… 12
- 基本計画3 基本計画（1）～（2）…………… 13
- 基本計画4 基本計画（1）～（4）…………… 14

IV 富谷町地域福祉活動推進計画（4年）

- 後期実施計画…………… 15

V 資料編

- 地域福祉活動計画後期実施計画策定のための調査報告…………… 29
- 二人暮らし交流会（さわやか交流会）に関する聞き取り調査・集計表…………… 30
- 障害者福祉事業に関する聞き取り調査・集計表…………… 37
- 子育てサロン「とことこ」に関する聞き取り調査・集計表…………… 44
- 地域福祉の推進に関するアンケート調査・集計表…………… 52
- ボランティアに関するアンケート調査・集計表…………… 60
- 福祉座談会（説明資料①・説明資料②）…………… 68
 - 町上町内会・鷹乃杜地区会・成田第三地区…………… 78
- 策定委員会日程（後期実施計画）…………… 84
 - 会議報告書（第1回～第5回）…………… 85
- 策定委員会設置要綱…………… 97
- 策定委員会委員名簿…………… 99
- 富谷町社会福祉協議会のあゆみ…………… 102
- 用語解説…………… 105

I 計画策定によせて

地域福祉活動推進計画の策定にあたって

社会福祉法人 富谷町社会福祉協議会

会 長 山 田 吉 邦



日頃は富谷町社会福祉協議会の地域福祉事業の運営に深いご理解と温かいご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

近年の少子高齢化の急速な進展、近隣との結びつきや地域社会との関わりの希薄化、更には地域福祉を取りまく社会環境は大きく変化する中、社会福祉協議会では、子供から高齢者まで、障がいの有無にかかわらず、人と人との繋がりを大切にした取り組みを展開し、行政当局との連携を深めつつ、町内会長、民生児童委員、ボランティア団体等関係機関と協働し、地域の福祉力を一層高める努力が求められています。

そこで、平成20年度に策定した地域福祉活動推進計画の成果や課題を受け継ぎ、多様化する福祉ニーズに対応するため、「心ふれあう暮らしやすい福祉のまちづくり」を基本理念として、平成26年度から平成29年度までの4か年間の取組みとして、地域住民や地域福祉に関わる団体などが実践する具体的な活動内容を踏まえた後期地域福祉活動推進計画を策定したところであります。

今回の見直しでは、新たな施策として、3つの町内会に協力をお願いして「福祉座談会」を開催し、社会福祉協議会に対する要望やご意見等をお聴かせいただいたところであり、住民からのアンケート調査とも合わせて、今後とも継続して実施してまいりたいと考えております。

今後の計画実現に向け、住民の皆様と地域福祉に関わるあらゆる団体と連携して進めてまいりたいと考えておりますので、さらなるご協力とご参加をお願い申し上げます。

最後に、本計画の策定にあたり貴重なご意見と多大なご協力を賜りました策定委員の皆様をはじめ、福祉座談会やアンケート調査にご協力をいただきました皆様に心より感謝とお礼を申し上げます。

地域福祉活動後期実施計画策定によせて

社会福祉法人富谷町社会福祉協議会
地域福祉活動推進計画策定委員会

委員長 千葉芳樹



夢と期待いっぱいの平成28年「幸せを実感でき、笑顔輝くあったか「富谷市」の誕生。富谷市に向けて、さらなる幸せの実感を町民の皆さんと共有・協働で、充実感の伴ったより確かな福祉活動環境の基盤づくりが望まれています。

富谷町社会福祉協議会では、町民の皆さんの福祉活動への意を汲み取り、「温もり色の愛しいふるさと富谷」の育みと継承を活動の道しるべとして、基本理念に「心ふれあう暮らしやすい福祉のまちづくり」を掲げました。そして、実践具体的目標として平成20年に地域福祉活動計画10ヶ年計画（前期3年、中期3年、後期4年）策定に基づき「信民参加の福祉」・「共に支え合う福祉」・「安心して暮らせる福祉」・「安定した地域福祉」を継承・発展と位置づけました。

前期・中期の実践過程にて、町民の皆さんはもとより、富谷町・福祉関係機関・団体福祉活動サークルの方々からのお力添えにより実り多い実績を積み上げてまいりました。さらなる福祉活動の前進に向けて前期・中期の実績の検証・評価と町民の皆さん・関係者の方々からアンケート調査・地域座談会等をベースとして後期（平成26年～29年）の地域福祉推進計画を策定委員会にて熟慮を重ね策定しました。

つきましては、「みんなで支える福祉のとみや」を実践の合い言葉とし、富谷町の福祉行政とさらなる一体化を図り福祉関係の皆さんと「感謝・責任・前進」の心を共有し力強く推進に力いっぱい努力してまいりますので、なお一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

むすびに推進計画策定にあたり、富谷市への福祉活動の確かな方向性へ向けて精力的に検討いただきました策定委員の皆様、そして準備等にきめ細やかなご配慮をいただきました事務局の皆様に心から感謝申し上げます。

地域福祉活動推進後期実施計画策定によせて



富谷町長 若 生 英 俊

富谷町社会福祉協議会の日頃の活動に敬意と感謝を申し上げます。

法人化30周年の記念すべき年に「地域福祉活動推進後期実施計画」が策定されましたことは、介護保険法や障害者総合支援法などの公的制度で対応しきれないきめ細かい福祉事業が更に充実するものと大いに期待いたします。

また、権利擁護センターの充実、障害者支援事業の実施、福祉活動支援ネットワークの構築等の具体的な実施計画は、町民の皆さんの社会福祉協議会活動の理解と共に、自助・共助・公助による「皆さんのやさしさに支えられて育つ地域福祉事業」につながるものと思います。

富谷町といたしましても、平成28年の市制移行を視野に、「輝く未来50年」を描きながら町民の福祉向上を目指し、町民の皆さんと確かな歩みを進めておりますので、更なる推進にご支援をお願い申し上げます。

むすびに、富谷町社会福祉協議会ならびに地域福祉活動推進計画策定委員をはじめ、策定にご協力いただきました皆様に心から敬意を表しますと共に、富谷町の地域福祉推進になお一層のご協力をお願い申し上げまして、ご挨拶いたします。

Ⅱ 計画策定にあたって

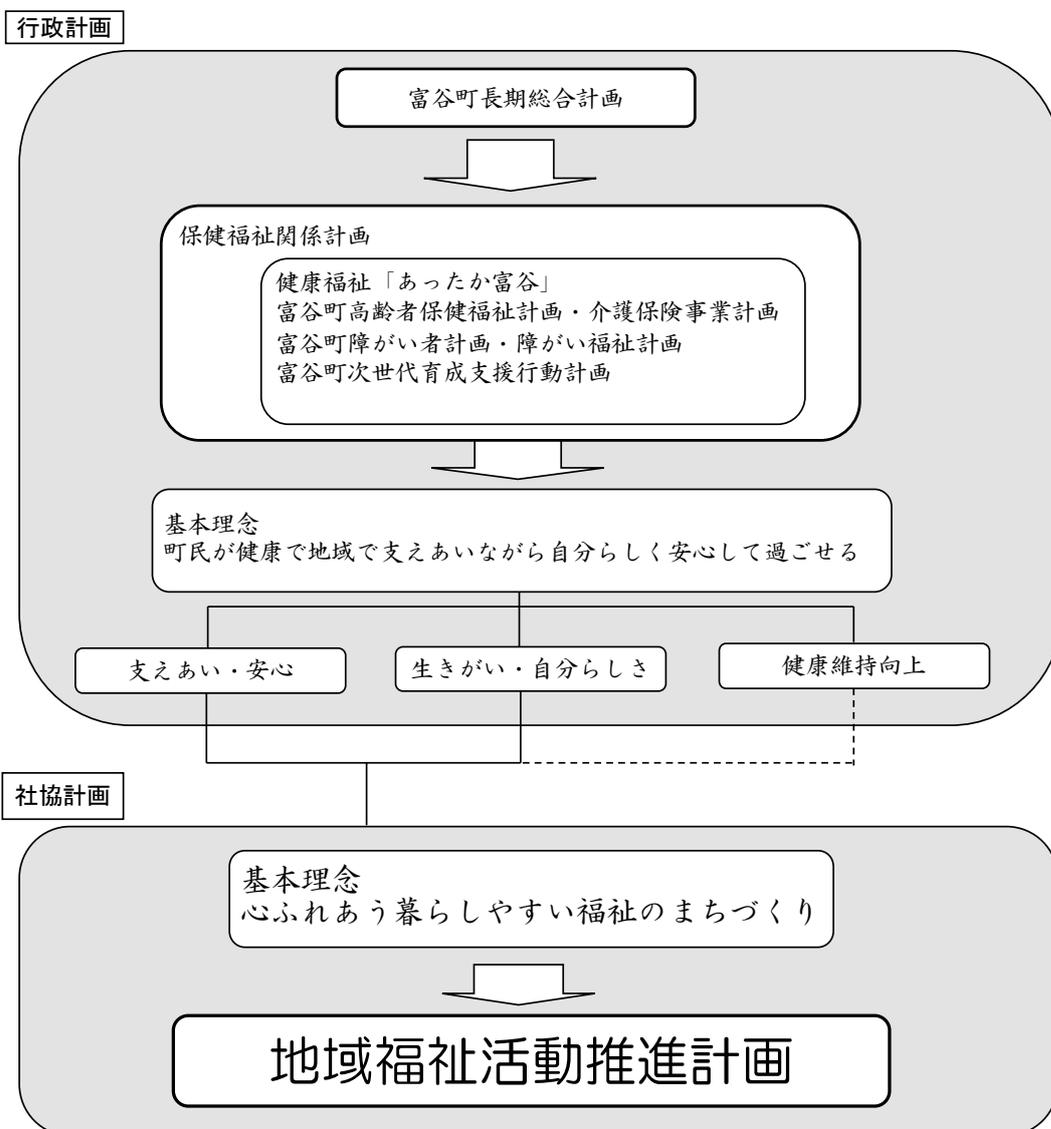
1 計画策定の概要について

人口の少子高齢化、住民意識の多様化等による生活様態の変化に伴い、福祉環境も大きく変化してきています。住民の福祉ニーズの多様化、増加傾向が顕著となり、このような変化に的確に対応するためには、きめ細かな福祉活動の展開が急務であります。

このような中で、社会福祉法人富谷町社会福祉協議会は、基盤の強化を図りながら、地域住民の自発的な福祉活動を促進するため、人間尊重を基本として、将来の社会を担う子供達の健全育成を図るとともに、高齢者や障害者等が住み慣れた家庭や地域の中であって、温かい心のふれあいを保ちながら、生きがいのある暮らしができるような、一生涯にわたる地域福祉の実現を目指して、富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画（以下「地域福祉活動推進計画」とする。）を策定します。

2 計画の位置づけ

計画策定にあたっては、以下の行政が策定している計画と連携・協働のもと、社会福祉協議会の目指すべき目標と方向性を明らかにしたものとします。



3 計画策定の目的

- (1) 長期的展望に立って富谷町社会福祉協議会としての基本理念を示す。
- (2) 当面する課題について段階的な計画の策定と実践活動を進める。
- (3) 住民の福祉ニーズが多様化している中、現状を把握し、体制基盤を整える。

4 計画の期間

- (1) 検討期間及び計画期間

検討期間 平成18年12月～平成20年3月（1年4ヶ月）

計画期間 平成20年度～平成29年度（10ヶ年）

- (2) 計画の構成

地域福祉活動推進計画の基本理念と基本目標を基にした基本計画と短期の事業実施についての実施計画とからなります。基本理念・基本目標・基本計画は10年間を目標年次とし、実施計画は3年を区切りの期間として設定し、3年ごとに行政計画との整合性や見直しを行い、最終年度は、10年間の見直しを行い、新たな地域福祉活動推進計画（第2次）の検討・策定作業に入るものとする。

前期：平成20年度～平成22年度（3ヶ年）

中期：平成23年度～平成25年度（3ヶ年）

後期：平成26年度～平成29年度（4ヶ年）

富谷町社会福祉協議会 地域福祉活動推進計画



5 計画策定体制

- (1) アンケート調査

地域福祉活動推進計画の策定に関して、現在の活動状況・事業の現状を把握し、住民の方々から幅広いご意見やご要望を伺う為、社協会員台帳の中から抽出した1割程度の世帯を対象として、アンケート調査を実施しました。

調査期間 平成19年4月23日（月）～5月11日（金）

配布数 1,117人 回収数 445人 回収率 39,8%

- (2) 策定委員会

地域福祉活動推進計画の策定に関して、行政計画との整合性や現状の事業の見直しを図る為、策定委員会を設置し、審議及び計画策定を行いました。

6 後期実施計画策定方針

- (1) 中期の実施計画による事務事業等の評価及び課題分析・充実強化。
- (2) 地域住民参加による地域福祉活動の推進。

7 計画策定の期間

(1) 検討期間及び計画期間

検討期間 平成25年7月～平成26年3月（9ヶ月）
計画期間 平成26年度～平成29年度（4ヶ年・実施計画）

8 計画策定体制

(1-1) アンケート調査

今回は、平成22年度策定の推進計画に対して、地域の方々がどのような感想・印象を持ったかなど、多少なりとも総論的な部分で地域の声を集める手法を取ったほうが、今後の実施計画策定にあたっての参考になると考え、比較的社会福祉協議会の中でも重点項目である地域コミュニティ関係及びボランティア関係については、事業に関わりのある関係者だけではなく、地域の方々の声を計画に反映した方が良いとの判断から、アンケート調査に含めたものとして実施しました。

調査期間 平成25年9月10日（火）～10月9日（水）

1 地域コミュニティ関係「地域福祉の推進に関するアンケート」

配布数 220人 回収数 175人 回収率 80%

2 ボランティア関係「ボランティアに関するアンケート」

配布数 220人 回収数 142人 回収率 65%

(1-2) 聞き取り調査

地域福祉活動推進計画の後期実施計画の見直し策定に関して、現在の社会福祉協議会事業の現状を把握し、参加者の方々から幅広いご意見やご要望を伺う為、事業の聞き取り調査を実施しました。

調査期間 平成25年9月6日（金）～10月30日（水）

1 高齢者支援関係「さわやか交流会」

配布数 87人 回収数 87人 回収率 100%

2 障害者支援関係「身体障害者福祉協会」「手をつなぐ育成会」

配布数 80人 回収数 44人 回収率 55%

3 子育て支援関係「子育てサロンとことこ」

配布数 109人 回収数 109人 回収率 100%

(1-3) 福祉座談会

地域福祉活動推進計画の後期実施計画の見直し策定に関して、現在の社会福祉協議会事業についての意見交換や地域活動の把握及び社協に支援して欲しい事等、地域住民の方々から幅広いご意見やご要望を伺う為、直接3つの地区の会館に出向き、福祉座談会を実施しました。

1 町上町内会 参加者 20名

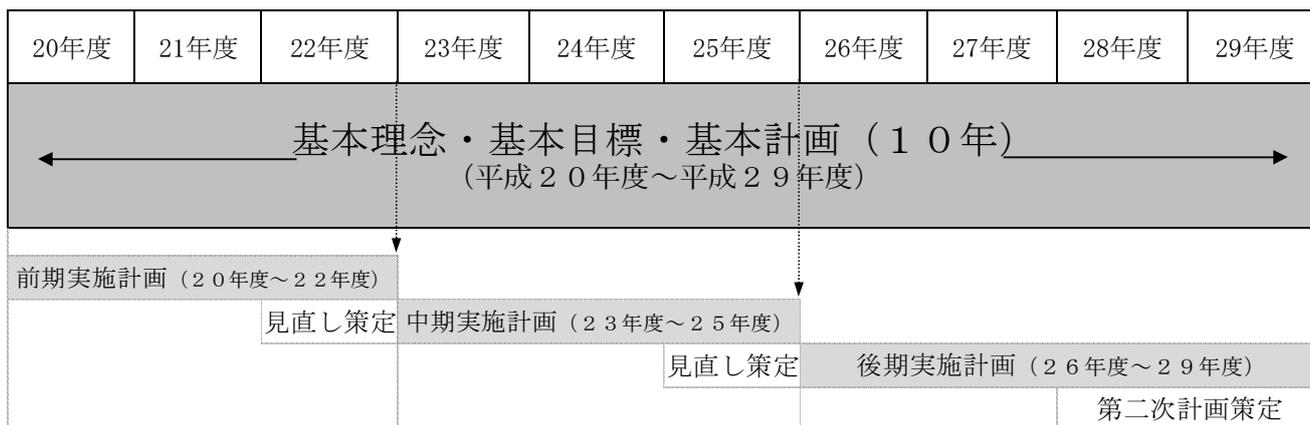
2 鷹乃杜町内会 参加者 45名

3 成田第三町内会 参加者 60名

(2) 策定委員会

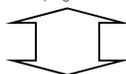
地域福祉活動推進計画の中期実施計画策定に関して、行政計画との整合性や現状の事業の見直しを図る為、策定委員会を設置し、審議及び計画策定を行いました。

富谷町社会福祉協議会 地域福祉活動推進計画



☆基本理念

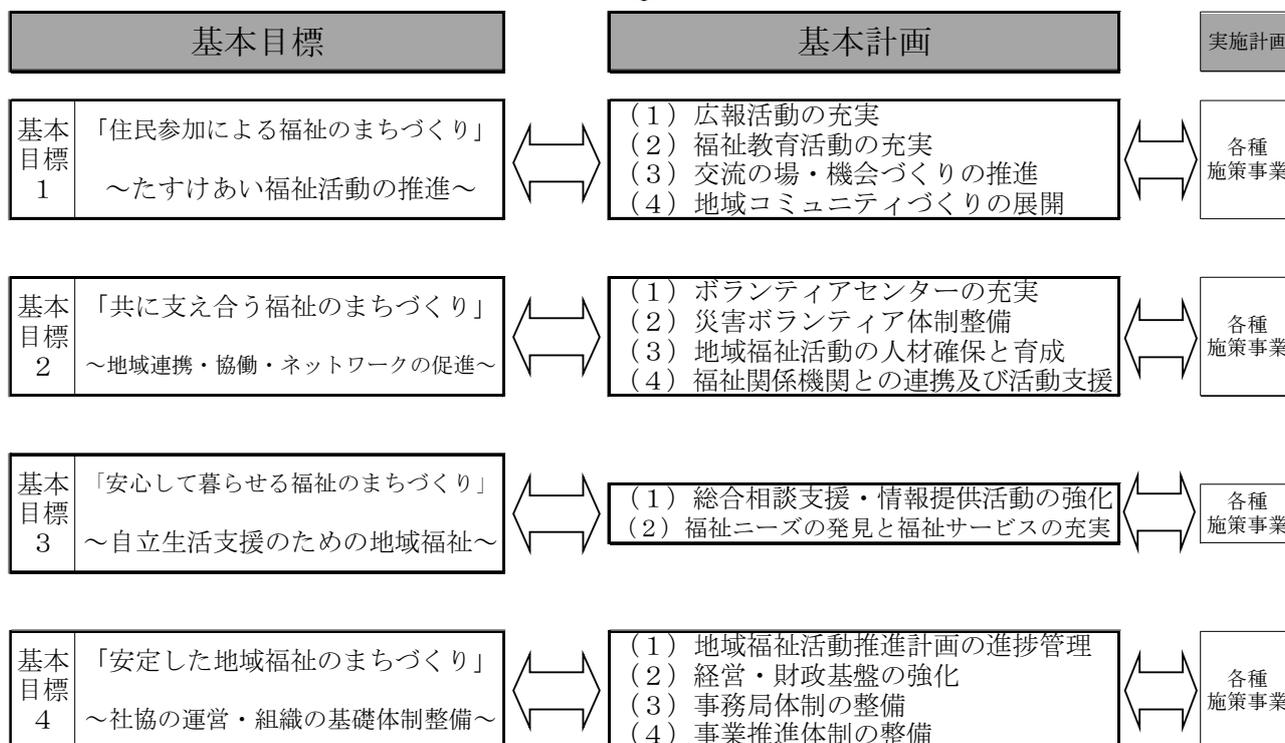
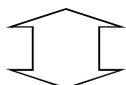
地域福祉活動推進計画は、平成20年度を初年度とし、10年後の平成29年度を目標年次とします。基本理念は、地域福祉推進の指針を明らかにしたものです。



「心ふれあう暮らしやすい福祉のまちづくり」

☆基本目標・基本計画

基本目標・基本計画は、基本理念に定められた将来像を実現する為に、必要な諸施策を体系的に明らかにしたものです。



☆実施計画

実施計画は、基本目標・基本計画の施策を受けて、短期的に実施すべき施策事業等を定めたもので、前期・中期・後期と定期的な見直しを図りながら展開していくものです。

Ⅲ 富谷町社会福祉協議会 地域福祉活動推進計画

基本理念・目標・計画（10年）
（平成20年度～平成29年度）

基本理念

心ふれあう暮らしやすい福祉のまちづくり

助け合いの心

基本目標1 「住民参加による福祉のまちづくり」

～たすけあい福祉活動の推進～

基本計画

- (1) 広報活動の充実
- (2) 福祉教育活動の充実
- (3) 交流の場・機会づくりの推進
- (4) 地域コミュニティづくりの展開

地域ぐるみ

基本目標2 「共に支え合う福祉のまちづくり」

～地域連携・協働・ネットワークの促進～

基本計画

- (1) ボランティアセンターの充実
- (2) 災害ボランティア体制整備
- (3) 地域福祉活動の人材確保と育成
- (4) 福祉関係機関との連携及び活動支援

地域福祉事業

基本目標3 「安心して暮らせる福祉のまちづくり」

～自立生活支援のための地域福祉～

基本計画

- (1) 総合相談支援・情報提供活動の強化
- (2) 福祉ニーズの発見と福祉サービスの充実

礎

基本目標4 「安定した地域福祉のまちづくり」

～社協の運営・組織の基礎体制整備～

基本計画

- (1) 地域福祉活動推進計画の進捗管理
- (2) 経営・財政基盤の強化
- (3) 事務局体制の整備
- (4) 事業推進体制の整備

富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画
基本理念・基本目標・基本計画（10年計画）一覧

基本理念	「心ふれあう暮らしやすい福祉のまちづくり」
------	-----------------------

番 号	種 別	項 目
1	基本目標	「住民参加による福祉のまちづくり」 ～たすけあい福祉活動の推進～
	基本計画	① 広報活動の充実 ② 福祉教育活動の充実 ③ 交流の場・機会づくりの推進 ④ 地域コミュニティづくりの展開
2	基本目標	「共に支え合う福祉のまちづくり」 ～地域連携・協働・ネットワークの促進～
	基本計画	① ボランティアセンターの充実 ② 災害ボランティア体制整備 ③ 地域福祉活動の人材確保と育成 ④ 福祉関係機関との連携及び活動支援
3	基本目標	「安心して暮らせる福祉のまちづくり」 ～自立生活支援のための地域福祉～
	基本計画	① 総合相談支援・情報提供活動の強化 ② 福祉ニーズの発見と福祉サービスの充実
4	基本目標	「安定した地域福祉のまちづくり」 ～社協の運営・組織の基礎体制整備
	基本計画	① 地域福祉活動推進計画の進捗管理 ② 経営・財政基盤の強化 ③ 事務局体制の整備 ④ 事業推進体制の整備

基本目標 1

「住民参加による福祉のまちづくり」 ～たすけあい福祉活動の推進～

現状

- ・住民の助けあいの心に支えられる福祉事業は、近年の地域ニーズや住民の価値観の多様化に対応したふれあい活動が求められている。
- ・地域福祉の中核を担う社協の認知度は、アンケート結果によると「社協の活動内容を知っている」との回答が約4割と低い状況であり、社協の活動に対する理解がまだまだ得られていない状況である。また、「地域生活を送る上で、大切なこと」については、「交流の場、機会」をあげる方が多い状況である。



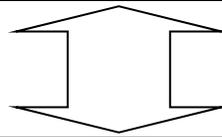
課題

(1) 町民の方が福祉活動に積極的な気持ちを持ち、社協事業の理解を高めるために情報提供や情報の共有が必要である。

(2) 子供たちの高齢者や障害者への思いやりや助け合いの心の育成が必要と考えられる。

(3) 暮らしの中でお互いに知り合い、顔みしりの関係を大切にほどよいコミュニティづくりが求められている。

(4) みんなで地域の課題を考え、共に学びながら協力し合い、よりよい地域づくりのための支援が求められている。



基本計画

(1) 広報活動の充実

- ・社協の事業を知ってもらうために、社協事業や社会資源、福祉活動のノウハウなど、住民が求める情報を、社協だよりやホームページ等で発信し、住民との情報共有に努めます。

(2) 福祉教育活動の充実

- ・児童、生徒が地域福祉に関心を持ち、異世代の理解や障害者への理解など町民総ボランティアの心の育成を図ります。
- ・学校を社会資源（地域福祉の理解者・支援者）として捉え、学校と地域が連携して福祉教育が行えるような環境づくりを支援します。

(3) 交流の場・機会づくりの推進

- ・地域コミュニティの輪が広がるように、ふれあいの場・機会（きっかけづくり）を提供し、住民同士の交流・情報交換が図れるよう支援します。

(4) 地域コミュニティづくりの展開

- ・本町は、人口構成や居住年数等の地区特性が多様な町であります。このため、住民の日常生活エリアごとに住民座談会などを開催し、住民自ら地域ニーズを理解し地域福祉活動が出来るよう支援します。

基本目標2 「共に支え合う福祉のまちづくり」 ～地域連携・協働・ネットワークの促進～

現状

- ・社協活動の中核となるボランティアについては、高齢化や新たな参加が少なくボランティアセンター登録者は、減少傾向にある。
- ・ボランティア活動意識については、アンケートでは「ボランティアに関心がある」が約7割なのに対して、「実際にボランティア活動をしたことがある」は2割弱という状況で意識は高いものの実際の活動にいたっていない状況である。
- ・ボランティア活動や住民の福祉活動を支援するNPOなどの機関が徐々に設立されてきているが、住民ニーズに対応するためには、まだまだ不足の状況である。

課題

(1) 地域ニーズに合ったボランティア養成と共に、ボランティアの派遣要請と活動希望を調整する体制の充実が急務である。

(2) NPOの設立支援と共に、各関係機関の役割を明確にしなが、地域ぐるみの活動が展開するよう時代に対応したボランティアセンター運営が求められている。

(3) 災害ボランティアについては、人材育成と共に町との連携による体制整備が急務である。

(4) 町内会、民生委員児童委員協議会、老人クラブなど各関係機関との連携・ネットワーク促進が求められている。

基本計画

(1) ボランティアセンターの充実

- ・ボランティア活動への参加促進を行うと共に、ボランティアが地域福祉活動に参画できるようなコーディネート・ボランティア活動の基盤整備を行っていきます。
- ・ボランティア活動の法人化育成支援やNPOとの協働によるボランティア活動の充実に努めます。

(2) 災害ボランティア体制整備

- ・災害に備えて、町と連携をしながら自己防災の普及に努めます。
- ・災害ボランティアに対する支援を行う為、地元ボランティアや関連企業等とのネットワークづくり（助けあい）や支援のための整備を進めます。

(3) 地域福祉活動の人材確保と育成

- ・地域協働で福祉活動を進めるために地域福祉を担う人材の養成・育成に取り組んでいきます。

(4) 福祉関係機関との連携及び活動支援

- ・関係機関の機能と役割を考慮しながら連携を密にし、地域福祉サービスの充実に努めます。
- ・福祉関係団体の主体性に配慮しながら、その活動を支援しながら、ネットワーク促進に努めていきます。

基本目標3

「安心して暮らせる福祉のまちづくり」

～自立生活支援のための地域福祉～

現状

- ・ 認知症高齢者や障害者等を支援する日常生活自立支援事業や福祉資金貸付の相談など、住民の抱える生活上の問題や福祉ニーズの増加により、生活相談をはじめとする多種多様な相談が寄せられている。
- ・ 福祉サービスは、安心して自立した生活が出来るよう家族状況の変化に合わせた支援事業の展開が求められてきている。

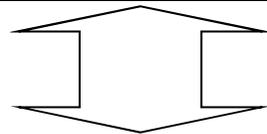


課題

(1) 生活相談後の適切な対応のため、関係機関との調整や連携などネットワークの構築が求められている。さらに、地域における相談の必要な人への働きかけに努めることが必要である。

(2) 福祉サービスの分野においては、介護保険制度などによりサービスの充実が図られてきている中で、制度にはまらないニーズの発見と対応が必要である。

(3) 安心して自立生活ができるよう配食サービスなど町と連携を密にしながら各種サービスの充実が必要である。



基本計画

(1) 総合相談支援・情報提供活動の強化

- ・ 地域で生活する住民が抱える問題に適切に対応出来る様、生活相談事業の機能を強化すると共に県社協と連携を密にしながら日常生活自立支援事業・各種資金貸付事業等の充実を図っていきます。
- ・ 相談で得た地域の福祉問題を解決するための福祉サービスにつなげていきます。
- ・ 権利擁護事業の一環として、成年後見制度の支援を行い、高齢者や障害者の日常生活を支える取り組みを展開します。

(2) 福祉ニーズの発見と福祉サービスの充実

- ・ 町からの委託事業である配食サービスなど高齢者生活支援事業については、町との連携を密にすると共にサービス利用者に直接接する機会を捉え、福祉ニーズの把握に努め福祉事業に活かしていきます。
- ・ 福祉器具貸与事業等については、介護保険サービスの状況を見極めながら、調整及びあり方の検討をしていきます。
- ・ 社会福祉協議会の事業に対する苦情解決制度を確立し、利用者する方に配慮した質の向上に努めます。

基本目標4

「安定した地域福祉のまちづくり」

～社協の運営・組織の基礎体制整備～

現状

・社協を取り巻く運営環境は、会員加入率の漸減やめまぐるしく変化する社会情勢に対応した取り組みが求められるなど、年々厳しい状況にある。

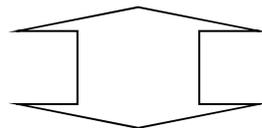


課題

(1) 町民の方々に、社協が地域ニーズに対応した福祉サービスを提供していることを理解して頂き、支援・協力をしてもらうことが必要である。

(2) 地域福祉活動推進計画を着実に実行することが重要である。

(3) 人的強化など事務局体制の充実と共に委員会・理事会・評議員会での事業審議・検討の充実を図り、時代に即した社協運営が必要である。



基本計画

(1) 地域福祉活動推進計画の進捗管理

・計画策定後の進捗状況等についての進行管理について、理事会・委員会等で行います。

(2) 経営・財政基盤の強化

・地域福祉を推進する実施主体としての社協運営を強化する為、安定した自主財源の確保を模索すると共に、社協のPRに努めます。

(3) 事務局体制の整備

・人的強化と共に事務局内研修や外部研修などにより職員の能力向上に努め、町民の生活を支えるサービスの提供に努めます。

(4) 事業推進体制の整備

・役員研修の他、事業企画検討の為の委員会活動や理事会・評議員会の審議の充実により、住民の立場に立った事業の推進に努めます。

IV 富谷町社会福祉協議会 地域福祉活動推進計画

後期実施計画（4年）
（平成26年度～平成29年度）

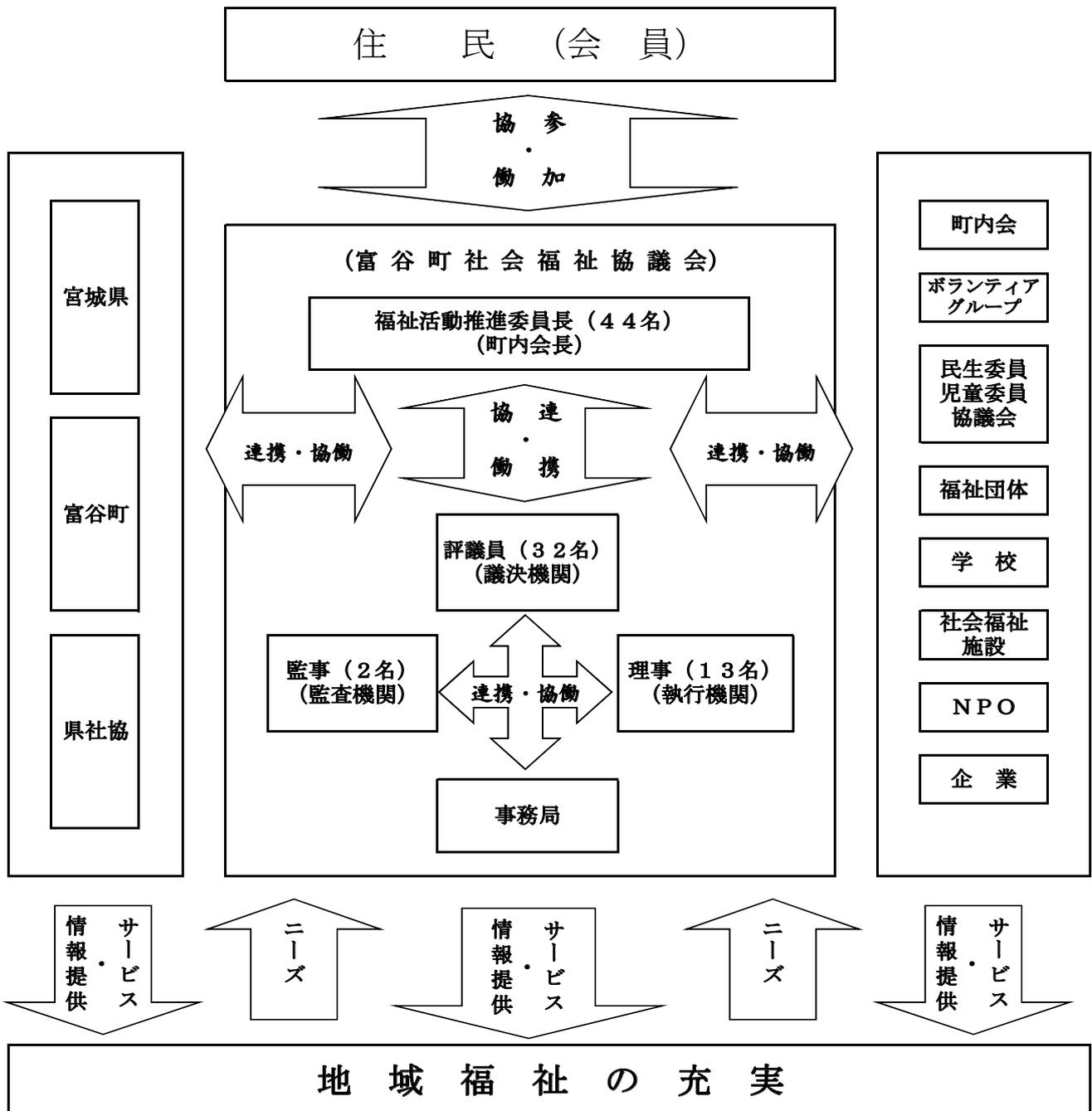
富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画

20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
実施計画（3年） ←（前期）→			実施計画（3年） ←（中期）→			実施計画（4年） ←（後期）→			

☆実施計画

実施計画は、基本目標・基本計画の施策を受けて、向こう3年の実施すべき施策事業等を定めたものであり、前期・中期・後期と定期的な見直しを図りながら展開していくものです。

地域福祉推進体系図



富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画

後期実施計画

基本目標 1	「住民参加による福祉のまちづくり」 ～たすけあい福祉活動の推進～
--------	----------------------------------

後期実施計画（平成26年度～平成29年度）

番 号	種 別	項 目
1	基本計画	(1) 広報活動の充実
	実施計画 (具体的展開)	① 社協だよりやホームページ活用による事業や活動の紹介 ② リーフレット作成による住民活動の発信と情報共有 ③ 地区福祉座談会の継続 ④ 法人化30周年記念式典の開催
2	基本計画	(2) 福祉教育活動の充実
	実施計画 (具体的展開)	① 少子高齢社会の理解と福祉の心の醸成 ② 児童・生徒による地域活動への取り組みの推進
3	基本計画	(3) 交流の場・機会づくりの推進
	実施計画 (具体的展開)	① 高齢者交流事業の支援及び開催 ② 障害者交流事業の支援 ③ 子育て支援事業の促進 ④ 効果的な交流体制の構築
4	基本計画	(4) 地域コミュニティづくりの展開
	実施計画 (具体的展開)	① 地域の社会資源の把握と情報共有 ② ゆとりすとクラブサロンの支援 ③ 地域福祉活動実践者の交流会の実施

富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画

後期実施計画

基本目標 2	「共に支え合う福祉のまちづくり」 ～地域連携・協働・ネットワークの促進～
--------	--------------------------------------

後期実施計画（平成26年度～平成29年度）

番 号	種 別	項 目
1	基本計画	(1) ボランティアセンターの充実
	実施計画 (具体的展開)	① ボランティア情報や活動状況の発信 (受けたいサービス・提供できるサービス) ② ボランティア登録の推進 ③ 相談・コーディネート機能の充実
2	基本計画	(2) 災害ボランティア体制整備
	実施計画 (具体的展開)	① 自助・共助・公助による防災意識の向上 ② 災害ボランティアセンター体制整備 ③ 行政・地域及び関係機関・企業等との連携
3	基本計画	(3) 地域福祉活動の人材確保と育成
	実施計画 (具体的展開)	① ボランティアの育成 ② 地域福祉活動への支援 ③ 地域福祉活動ネットワークの構築
4	基本計画	(4) 福祉関係機関との連携及び活動支援
	実施計画 (具体的展開)	① 福祉関係団体の活動支援 ② 行政との連携・協力 ③ 共同募金事業との連携・協力

富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画

後期実施計画

基本目標 3	「安心して暮らせる福祉のまちづくり」 ～自立生活支援のための地域福祉～
--------	-------------------------------------

後期実施計画（平成26年度～平成29年度）

番 号	種 別	項 目
1	基本計画	(1) 総合相談支援・情報提供活動の強化
	実施計画 (具体的展開)	① 生活相談事業の実施・運営強化 ② 権利擁護センターの充実強化 ③ 各種資金貸付事業の実施（生活福祉資金等）
2	基本計画	(2) 福祉ニーズの発見と福祉サービスの充実
	実施計画 (具体的展開)	① 高齢者生活支援・生きがい健康づくり事業の実施 ② 障害者支援事業の実施 ③ ファミリー・サポート支援事業の実施 ④ 苦情解決第三者委員会の機能強化

富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画

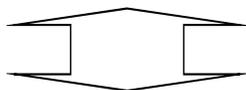
後期実施計画

基本目標 4	「安定した地域福祉のまちづくり」 ～社協の運営・組織の基礎体制整備～
--------	------------------------------------

後期実施計画（平成26年度～平成29年度）

番号	種別	項目
1	基本計画	(1) 地域福祉活動推進計画の進捗管理
	実施計画 (具体的展開)	① 地域福祉活動推進計画の進捗管理及び計画の弾力的な運用
2	基本計画	(2) 経営・財政基盤の強化
	実施計画 (具体的展開)	① 社会福祉協議会会員会費制度への理解協力 ② 収益事業展開への実施に向けての検討
3	基本計画	(3) 事務局体制の整備
	実施計画 (具体的展開)	① コミュニティワーカーの資質向上 ② 職員研修の実施
4	基本計画	(4) 事業推進体制の整備
	実施計画 (具体的展開)	① 総合的な企画運営の推進 ② 理事会・評議員会・監査会等の機能強化 ③ 情報管理体制の整備

基本目標 1	「住民参加による福祉のまちづくり」 ～たすけあい福祉活動の推進～
基本計画	(1) 広報活動の充実 (2) 福祉教育活動の充実 (3) 交流の場・機会づくりの推進 (4) 地域コミュニティづくりの展開



後期実施計画（平成26年度～平成29年度）

(1) 広報活動の充実

① 社協だよりやホームページ活用による事業や活動の紹介

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域性を重視したページや住民参加型のページを設けるなど、親しみやすい内容となるよう工夫します。 ・施設・病院・商店等人が集まる場所で、多くの人に読んでもらえるように配慮します。 	後期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の様々+H18:K42+H18:K42福祉情報が届くよう配慮し、地域生活に密着した広報誌を作ります。 ・住民の方々に新しい情報を届けられるよう心がけ、社協事業や活動紹介等を行います。
------	--	------	---

② リーフレット作成による住民活動の発信と情報共有

中期目標		後期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉情報や活動の様子をリーフレットを作成するなどして、情報の共有を図るとともに、地域で行われている住民活動の情報発信にも努めます。
------	--	------	--

③ 地区福祉座談会の継続

中期目標		後期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の方々が社協に対して、どのような印象や意見を持っているかを把握するために、定期的に福祉座談会を開催します。
------	--	------	--

④ 法人化30周年記念式典の開催

中期目標		後期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・法人化して節目となる30年を迎え、地域に社協の存在をより周知するために、「法人化30周年記念式典」を開催します。
------	--	------	---

(2) 福祉教育活動の充実

① 少子高齢社会の理解と福祉の心の醸成

中期目標		後期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化を迎え、小・中・高等学校と協議・連携し、「福祉の心」を大きく育むことができるよう、社協としての福祉教育メニューの充実を図ります。 ・地域や施設団体等と連携し、実践や体験を通じた福祉教育の展開に取り組みます。
------	--	------	--

② 児童・生徒による地域活動への取り組みの推進

中期目標		後期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・若年層から地域活動に目を向けられるよう、身近にできるボランティア活動や体験の中で取り組みにつなげられるきっかけづくりとなるよう事業展開を図ります。
------	--	------	--

(3) 交流の場・機会づくりの推進

① 高齢者交流事業の支援及び開催

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が地域でいきいきと生活できるよう支援すると共に、関係機関と連携しながら、身近な地域で開催されている交流事業等への周知声かけを行い、仲間づくり(きっかけづくり)を推進しながら、事業を通じて見える地域(生活上)のニーズ把握に努めます。 	後期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が地域でいきいきと生活できるよう支援すると共に、関係機関と連携しながら、社協独自の交流事業等(二人暮らし交流会)への周知声かけを行い、仲間づくりのきっかけとなるよう事業推進に努めます。
-------------	---	-------------	--

② 障害者交流事業の支援

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者団体間や家族間での交流促進と仲間づくりを支援(きっかけづくり)すると共に、福祉関係団体と連携しながら、参加者の地域(生活上)のニーズ把握に努めます。 	後期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者団体間や家族間での交流促進と仲間づくりを支援(きっかけづくり)しながら、福祉関係団体との連携及びニーズの共有に努めます。
-------------	--	-------------	--

③ 子育て支援事業の促進

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサロン「とことこ」のサポーターの自主的な活動の支援を行うよう努めます。 ・地域の施設等を積極的に活用し、子育て世代の方々の交流促進を図ります。 ・社協としての相談支援機能の充実を図ります。 	後期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサロン「とことこ」のサポーターの自主的な活動の支援を行うよう努めます。 ・サポーターの活動の中で、地域の施設等を積極的に活用し、小地域での子育てサロンのコーディネートを図ります。
-------------	--	-------------	--

④ 効果的な交流体制の構築

中期目標		後期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での交流をより一層推進できるよう、関係機関と(公民館等)連携し、お互いに仲間づくりのきっかけとなるよう交流できる場の構築を図ります。
-------------	--	-------------	---

(4) 地域コミュニティづくりの展開

① 地域の社会資源の把握と情報共有

中期目標		後期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティを構成する上で、重要なパートナーとなり得る、社会資源(企業・学校等)の把握に努めます。 ・同じ福祉ニーズは共有するなどしながら、地域での支え合い活動の展開に努めます。
-------------	--	-------------	---

② ゆとりすとクラブサロンの支援

中期目標		後期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で実施しているゆとりすとクラブサロン活動に社協としても支援しながら、メンバー・サポーターの方々と地域課題を共有する場づくりを推進します。 ・社協職員の専門性を活かし、地域福祉の事業展開の支援に努めます。
-------------	--	-------------	---

③ 地域福祉活動実践者の交流会の実施

中期目標		後期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動実践者の交流機会を確保し、情報交換や連携づくりを支援します。 ・同じ福祉ニーズをもつ人たちが相互に連帯しあい、課題解決に向けた検討や行動を共に行えるような場・組織づくりを支援します。
-------------	--	-------------	---

基本目標 2	「共に支え合う福祉のまちづくり」 ～地域連携・協働・ネットワークの促進～
基本計画	(1) ボランティアセンターの充実 (2) 災害ボランティア体制整備 (3) 地域福祉活動の人材確保と育成 (4) 福祉関係機関との連携及び活動支援



後期実施計画（平成26年度～平成29年度）

(1) ボランティアセンターの充実

① ボランティア情報や活動状況の発信（受けたいサービス・提供できるサービス）

中期目標		後期目標	・幅広い住民がボランティア活動に参加できるよう、ボランティアセンターにおいて、活動分野ごとのボランティア情報や活動状況が分かるような情報の収集・提供に努めます。
-------------	--	-------------	--

② ボランティア登録の推進

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・町内で活動するボランティアやNPO等の活動状況を身近に感じられるようなきっかけづくり（広報等で周知）に努めます。 ・ボランティア活動に関する問い合わせや相談、活動の斡旋を行うボランティアセンターの機能強化に努めながら、新しいボランティア登録者の推進に努めます。 ・行政や福祉施設等の関係機関との連携を強化し、地域でのイベント等に積極的に参画できるよう支援します。 	後期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動に関する問い合わせや相談、活動の斡旋を行うボランティアセンターの機能強化に努めながら、新しいボランティア登録者の推進に努めます。 ・登録者を安心してボランティア活動につなげられるようボランティアの基本的な知識や活動の保険のご案内など活動における環境整備を行います。 ・行政や福祉施設等の関係機関との連携を強化し、地域でのイベント等に積極的に参画できるよう支援します。
-------------	--	-------------	--

③ 相談・コーディネート機能の充実

中期目標		後期目標	・ボランティアしたい人、してほしい人双方のニーズを的確に把握し、人材をつなぐことができるような相談・環境づくりに努めます。
-------------	--	-------------	---

(2) 災害ボランティア体制整備

① 自助・共助・公助による防災意識の向上

中期目標		後期目標	・町内会での防災訓練等に参加し、防災・減災に対する取り組みを共有しながら、日頃から災害への意識を高める活動を行い、地域での助け合い・支えあい活動のより一層の支援に努めます。
-------------	--	-------------	--

② 災害ボランティアセンター体制整備

中期目標	・行政や広域社協と連携しながら、災害ボランティアセンターの体制整備に係る事業展開（マニュアル・人材育成）に努めるとともに、住民の方々に対する啓発活動を行います。	後期目標	・富谷町や広域社協と連携しながら、災害ボランティアセンターの体制整備に係る事業展開に努めるとともに、地域住民の方々に対しての災害ボランティアセンターの取り組みを知っていただくような啓発事業を行います。
-------------	--	-------------	--

③ 富谷町・地域及び関係機関・企業等との連携

中期目標	・行政と協力しながら、災害時の事業展開を行いながら、町内の地元企業との連携のあり方について、情報交換を行いながら体制整備を図ります。	後期目標	・富谷町と協力しながら、日常から関係機関・団体と「災害時における助け合い」についての連携のあり方について、情報交換を行い、非常時にお互いに「共助」出来るような環境整備に努めます。
-------------	--	-------------	---

(3) 地域福祉活動の人材確保と育成

① ボランティアの育成

<p>中期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般住民対象のボランティア活動のきっかけづくりを目的とした講座や活動分野別（キャップハンディインストラクターや子育てサポーター等）で行うボランティア講座等を開催しています。 	<p>後期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の福祉課題の解決の為、活動の状況や求められている担い手などに応えられるような専門的・活動分野ごとのボランティアの養成に努めます。 ・ボランティア活動が円滑に進められるよう、専門機関等による研修などにより、ボランティアの能力向上と活動支援に努めます。 ・小・中・高校生が福祉活動やボランティア活動に関心を持ってもらえるような事業展開を行い、社協事業等への協力が図れるよう努めます。
--	---

② 地域福祉活動への支援

<p>中期目標</p>	<p>後期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動において、大切な「共助」の為の取り組みや活動が円滑に進められるよう人と人をつなぐ支援を行います。 ・地域での福祉ニーズを掘り起こしながら、ボランティアが地域を支える仕組みづくりの一助となるよう活動の支援に努めます。
--------------------	--

③ 地域福祉活動ネットワークの構築

<p>中期目標</p>	<p>後期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で行われている福祉活動（ボランティア活動）について、幅広く情報収集・提供を行い、それぞれの活動に「きっかけ」を与えられるよう働きかけます。 ・ボランティアセンター運営委員会の中で活動のネットワークについて協議を進めながら、地域福祉活動が円滑に行えるよう社協がコーディネートを行います。
--------------------	---

(4) 福祉関係機関との連携及び活動支援

① 福祉関係団体の活動支援

<p>中期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内の福祉関係団体（民生委員・児童委員協議会、母子福祉会、遺族会、手をつなぐ育成会、やおき会、身体障害者福祉協会等）との連携を行い、自立的な会運営の一助となるよう活動支援に努めます。 	<p>後期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉関係団体相互の連携づくりや協働のきっかけを作り出すなどして、それぞれが自立的な会運営の一助となるよう活動支援に努めます。
---	--

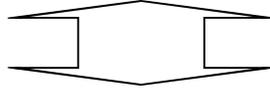
② 富谷町との連携・協力

<p>中期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町関係機関（福祉部等）との連携体制を図り、社協事業に反映させるよう努めます。 	<p>後期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の福祉課題や地域資源情報の共有を進め、共通課題への企画段階からの連携を図りながら、富谷町との協働促進を図ります。
--	--

③ 共同募金事業との連携・協力

<p>中期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内における共同募金活動の推進を行う団体との連携を図り、実情に即した歳末たすけあい募金の配分のあり方について検討を行います。 	<p>後期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内における共同募金活動の推進を行う団体との連携を図ります。 ・今後の配分について、地域の福祉ニーズに合わせた形で、福祉関係者等の意見も取り入れながら、柔軟な配分の形を検討します。
--	---

基本目標 3	「安心して暮らせる福祉のまちづくり」 ～自立生活支援のための地域福祉～
基本計画	(1) 総合相談支援・情報提供活動の強化 (2) 福祉ニーズの発見と福祉サービスの充実



後期実施計画（平成26年度～平成29年度）

(1) 総合相談支援・情報提供活動の強化

① 生活相談事業の実施・運営強化

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> 生活相談の内容が多重債務・借金・相続等専門知識を必要とする為、生活相談員の研修を充実させるなど、地域の方が安心して暮らしていく為の支援が出来るよう機能強化するよう努めます。 行政や県社協との連携を密にしながら、日常生活自立支援事業（まもり一歩）を通して、支援の中で福祉サービスの必要など他のニーズも把握し、関係機関につなぐ役割を担えるよう努めます。 	後期目標	<ul style="list-style-type: none"> 生活相談の内容が多重債務・借金・相続等専門知識を必要とする為、生活相談員の研修を充実させるなど、地域の方が安心して暮らしていく為の支援が出来るよう機能強化するよう努めます。 多様な悩みごと・困りごと相談に対応できるよう、専門家による相談会を開催します。
------	---	------	---

② 権利擁護センターの充実強化

中期目標		後期目標	<ul style="list-style-type: none"> 制度を必要とする方を利用に結びつけていくため、日常生活自立支援事業（まもり一歩事業）の更なる普及・啓発を推進します。 権利擁護事業に関する相談に応じ、判断能力が不十分な方の権利が侵害されないよう、本人の意思を尊重し、問題解決に向けて支援をします。
------	--	------	--

③ 各種資金貸付事業の実施（生活福祉資金等）

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> 生活状況等の実情を把握した上で、行政や保健福祉事務所等関係機関につなぐ役割や在宅福祉の増進及び生活意欲の助長促進を図り、世帯更生及び安定を図るための支援を行うよう努めます。 	後期目標	<ul style="list-style-type: none"> 生活状況等の実情を把握した上で、行政や保健福祉事務所等関係機関につなぐ役割や在宅福祉の増進及び生活意欲の助長促進を図り、世帯更生及び安定を図るための支援を行うよう努めます。 地区の民生委員と連携しながら、借受人の実態把握及び償還についての指導助言を行います。
------	--	------	--



(2) 福祉ニーズの発見と福祉サービスの充実

① 高齢者生活支援・生きがい健康づくり事業の実施

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者の生活の安定を図るための支援を町と連携のもと実施し、新たな福祉ニーズの把握を行い、福祉事業に生かすよう努めます。 	後期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者の生活の安定を図るための支援を町と連携のもと実施し、新たな福祉ニーズの把握（福祉器具貸与等）を行い、福祉事業に生かすよう努めます。 ・行政と連携しながら、適切な福祉サービスの提供に努めます。
-------------	---	-------------	---

② 障害者支援事業の実施

中期目標		後期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者相談支援事業等を通じて、利用者との福祉ニーズの把握に努めます。 ・障害福祉サービスの多様化に伴い、社協としての事業展開の可能性について、理事会で検討します。
-------------	--	-------------	---

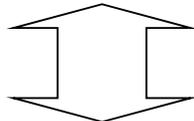
③ ファミリー・サポート支援事業の実施

中期目標		後期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・行政と連携しながら、子育て世代の幅広い支援が出来るよう（育児ヘルプサービス・ファミリーサポートセンター事業）努めます。 ・研修会を通じながら、随時会員数の確保に努めます。
-------------	--	-------------	---

④ 苦情解決第三者委員会の機能強化

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社協が行う事業に対して、苦情の受付・対応の為の体制整備を行い、利用者の方が安心して相談・サービスを受けられるよう努めます。 ・第三者委員の方々への研修会等を通じながら、フォローアップに努めます。 	後期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情の受付・対応の為の相談窓口の体制整備を行い、利用者の方が安心してサービスを受けられるよう努めます。 ・第三者委員の方々に対して、社協の事業情報を定期的に伝える機会を設けます。
-------------	---	-------------	---

基本目標 4	「安定した地域福祉のまちづくり」 ～社協の運営・組織の基礎体制整備～
基本計画	(1) 地域福祉活動推進計画の進捗管理 (2) 経営・財政基盤の強化 (3) 事務局体制の整備 (4) 事業推進体制の整備



後期実施計画（平成26年度～平成29年度）

(1) 地域福祉活動推進計画の進捗管理

① 地域福祉活動推進計画の進捗管理及び計画の弾力的な運用

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> 地域福祉活動推進計画施行後の進捗管理を、理事会・委員会等で実施します。また、今後の社会情勢の変化などに柔軟に対応するため、必要に応じて弾力的な運用を行います。 	後期目標	<ul style="list-style-type: none"> 地域福祉活動推進計画施行後の進捗管理を、活動計画推進委員会（仮称）等で実施します。 計画の進行状況等について、住民の方々へ適宜報告する機会を設けます。
------	---	------	--

(2) 経営・財政基盤の強化

① 社会福祉協議会会員会費制度への理解協力

中期目標		後期目標	<ul style="list-style-type: none"> 住民会員の拡大に努めるとともに、施設や企業等の会員加入についても積極的に働きかけていきます。 地域の福祉関係者（町内会長・民生委員等）を対象として、社協活動における福祉課題に共に向き合えるような研修・情報交換を実施し、会費についての理解を深めます。
------	--	------	---

② 収益事業展開への実施に向けての検討

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> 社協として、補助金や受託金以外の財源確保の可能性について、調査検討を進めます。 他社協との情報交換や意見交換を行うとともに、先進的な取り組みを行っている事例を調査・研究します。 	後期目標	<ul style="list-style-type: none"> 社協として、補助金や受託金以外の財源確保の可能性について、調査検討を進めます。 他社協との情報交換や意見交換を行うとともに、先進的な取り組みを行っている事例について役員研修会にて視察を行います。
------	---	------	--

(3) 事務局体制の整備

① コミュニティワーカーの資質向上

中期目標		後期目標	<ul style="list-style-type: none"> 地域の実態把握や各関係機関との連絡調整、社会資源の開発等により住民が地域の福祉課題に主体的・組織的に取り組むための支援を行う社協職員の専門職としての充実を図ります。
------	--	------	--

② 職員研修の実施

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> 職員に対する社協内部研修や外部研修へ積極的に参加を行い、住民の方々へのより良いサービスに努めます。 	後期目標	<ul style="list-style-type: none"> 富谷町及び仙台地方管内・黒川郡内の社協間の職員研修に参加するなどしながら、職員間のネットワークの構築に努めます。
------	---	------	--



(4) 事業推進体制の整備

① 総合的な企画運営の推進

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・最近の社協を取り巻く環境の変化に対応した組織運営を行う為、社協の使命や役割を再確認し、長期的な運営方針に関する事項について役職員一丸となって推進するよう努めます。 	後期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・行政等では対応できない、制度の狭間に立っている方々の支援や住民の福祉ニーズに即した事業展開が出来るよう役職員一丸となった社協運営に努めます。
-------------	--	-------------	---

② 理事会・評議員会・監事会等の機能強化

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・時代の要請に応じた社協の果たすべき社会的責任を踏まえた上で、円滑で健全な社協事業運営が行えるよう努めます。 ・地域福祉の推進や法人運営のあり方等について、社協としての福祉課題に対するより効果的な事業の実施を図ります。 	後期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会等の機能を十分に発揮できるよう、総務運営委員会及び福祉事業委員会において、理事が積極的に意見交換及び事業提案できるような環境を整えます。 ・地域福祉の推進や法人運営のあり方等について、社協としての福祉課題に対するより効果的な事業の実施を図ります。
-------------	--	-------------	--

③ 情報管理体制の整備

中期目標		後期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護法等の情報管理体制（会員・ボランティア台帳の整備）を遵守し、適正な社協事業展開が出来るよう努めます。
-------------	--	-------------	---

V 資 料 編

地域福祉活動計画後期実施計画策定のための調査報告

(1) 聞き取り調査			
	配布数	回収数	回収率
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者福祉事業関係 「さわやか交流会」 (9月19日) 	87	87	100%
<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者福祉事業関係 「身体障害者福祉協会」 (10月10日～10月25日) 「手をつなぐ育成会」 (10月10日～10月25日) 	80	44	55%
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て支援関係 「子育てサロンとことこ」 (9月6日～10月30日) 	109	109	100%
(2) アンケート調査 (9月10日～10月9日)			
	配布数	回収数	回収率
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域コミュニティ関係 「地域福祉の推進に関するアンケート」 	220	175	80%
<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア関係 「ボランティアに関するアンケート調査」 	220	142	65%
(3) 福祉座談会			
	参加者数		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 町上町内会 (9月10日) ・ 鷹乃杜町内会 (9月29日) ・ 成田第三町内会 (10月5日) 	<ul style="list-style-type: none"> 20 45 60 		

問8 今後の「さわやか交流会」について、あなたのご意見ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

問9 「さわやか交流会」以外にどのような交流の場に参加していますか。(3つまで○)

- | | |
|-------------|------------------|
| 1 ゆとりすとサロン | 2 公民館のサークル活動 |
| 3 老人クラブ活動 | 4 シルバー人材センターでの活動 |
| 5 スポーツクラブ活動 | 6 デイ・サービス |
| 7 その他 () | |

今後の参考にあなたのご意見を伺います

問10 あなたは生活上の悩みがある場合に相談相手はいますか。(3つまで○)

- | | | |
|---------|-------------|------------|
| 1 家族 | 2 近所の人 | 3 知人や友人 |
| 4 医療機関 | 5 福祉サービス事業所 | 6 民生・児童委員 |
| 7 町内会長 | 8 町役場 | 9 社会福祉協議会 |
| 10 福祉施設 | 11 特にいない | 12 その他 () |

問11 あなたが今後、社会福祉協議会に求められるボランティア活動として、重要と考えられる活動はどれですか。(1つに○)

- 1 地域での高齢者交流サロンで活動するボランティア
- 2 在宅でのお話し相手としての活動する傾聴ボランティア
- 3 在宅での家事援助(お買い物)や移動支援(介助)を行うボランティア
- 4 福祉施設(特別養護老人ホーム等)で利用者との交流やお手伝いをするボランティア
- 5 その他 ()

問12 あなたは、今後の生活の上でどのような支援が必要だとお考えですか。(1つに○)

- 1 二人暮らしのため、在宅での定期的なボランティアの支援が必要だと考える
- 2 生きがい健康づくりのきっかけづくりの為、講座や教室の開催が必要だと考える
- 3 仲間づくりのきっかけがほしい為、定期的集える場づくり(サロン)が必要だと考える
- 4 その他 ()

問13 あなたは今後の社会福祉協議会の高齢者支援に何を望みますか。(1つに○)

- 1 ボランティア(高齢者向け)の育成(例:傾聴ボランティア・福祉施設での活動)
- 2 地域高齢者サロン活動の支援(例:地域で自主的に活動しているお茶のみ会の支援)
- 3 権利擁護事業の組織体制整備(例:金銭の管理や福祉サービス利用の困難な方の支援)
- 4 高齢者に関する相談や情報提供の充実(例:日常生活上の福祉の困りごとについて相談)
- 5 その他 ()

ご協力ありがとうございました

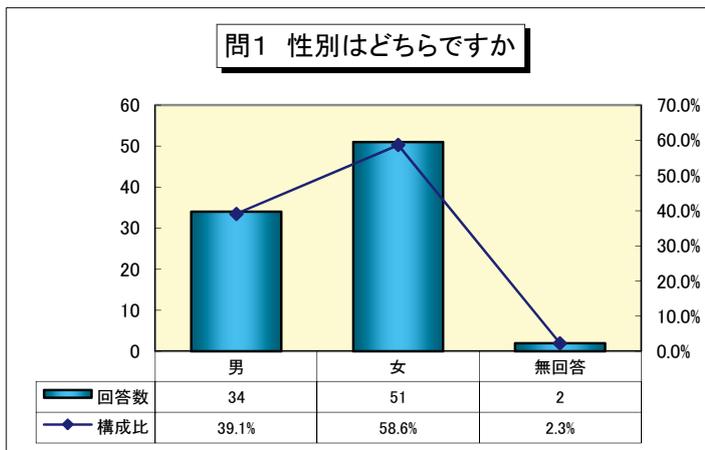
「二人暮らし交流会（さわやか交流会）に関する聞き取り調査」集計表

「あなた」についてお伺いします

問1 性別はどちらですか

	回答数	構成比
男	34	39.1%
女	51	58.6%
無回答	2	2.3%
計	87	100.0%

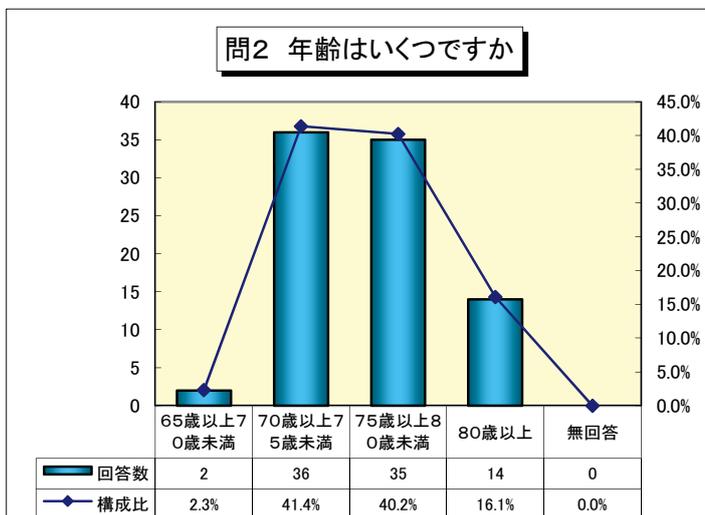
女性の方が参加比率が高くなっています。地域に出向く事業と比例して、社会参加には女性が積極的なのがお伺いします。なお対象となる方は、70歳以上の二人暮らし高齢者となっています。



問2 年齢はいくつですか

	回答数	構成比
65歳以上70歳未満	2	2.3%
70歳以上75歳未満	36	41.4%
75歳以上80歳未満	35	40.2%
80歳以上	14	16.1%
無回答	0	0.0%
計	87	100.0%

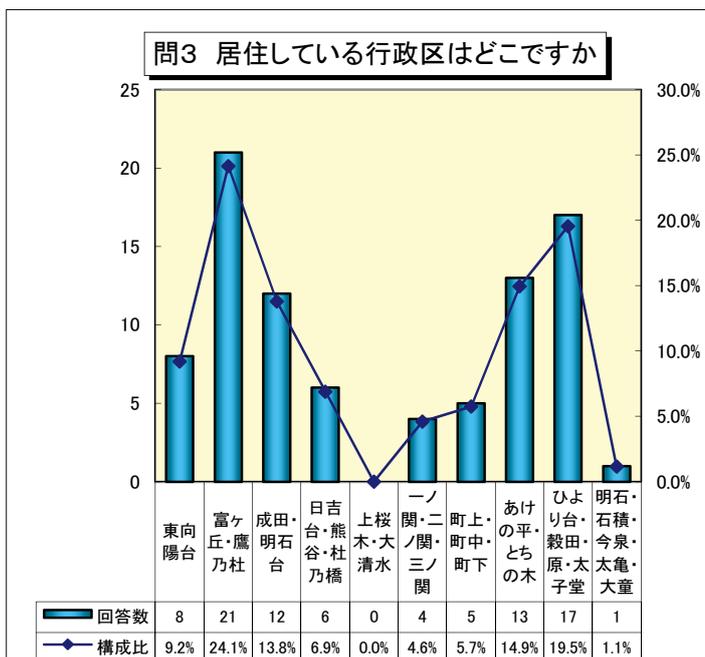
参加対象の年齢を比較してみると、70歳以上～80歳未満の参加者層が約8割となっている。70歳未満の方は、まだ身体的に元気な方が多い為、事業参加の関心が薄い事、80歳以上の方は、高齢の為外出の機会が少ない事が要因として挙げられます。



問3 居住している行政区はどこですか

	回答数	構成比
東向陽台	8	9.2%
富ヶ丘・鷹乃杜	21	24.1%
成田・明石台	12	13.8%
日吉台・熊谷・杜乃橋	6	6.9%
上桜木・大清水	0	0.0%
一ノ関・二ノ関・三ノ関・志戸田	4	4.6%
町上・町中・町下	5	5.7%
あけの平・とちの木	13	14.9%
ひより台・穀田・原・太子堂	17	19.5%
明石・石積・今泉・太魚・大童・西成田	1	1.1%
無回答	0	0.0%
計	87	100.0%

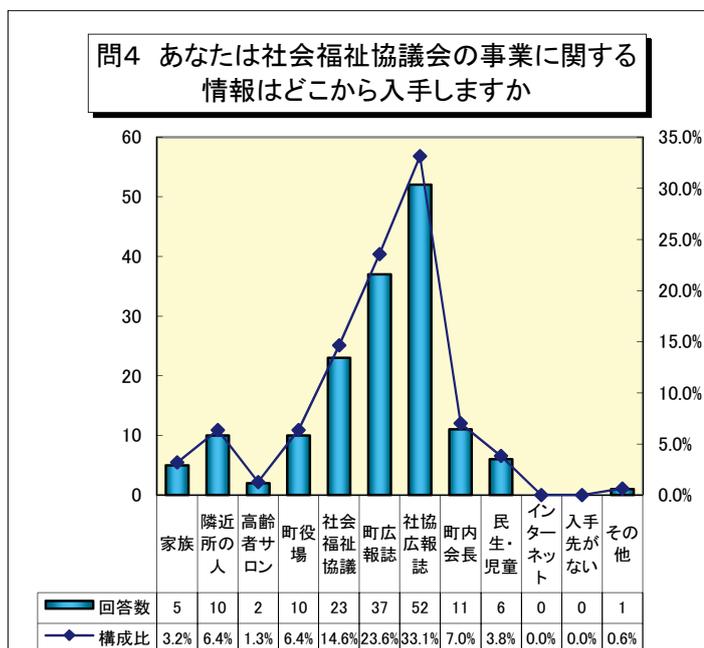
富谷町の地区ごとの高齢化率に概ね比例した参加率となっています。富ヶ丘・鷹乃杜地区が約3割を占め、高い数字を示していますが、本来数値が高いはずの町上・町中・町下（町三区）が低い数字を示した事は意外な部分があります。



問4 あなたは社会福祉協議会の事業に関する情報はどこから入手しますか。(3つまで)

	回答数	構成比
家族	5	3.2%
隣近所の人・知人・友人	10	6.4%
高齢者サロン	2	1.3%
町役場	10	6.4%
社会福祉協議会	23	14.6%
町広報誌	37	23.6%
社協広報誌	52	33.1%
町内会長	11	7.0%
民生・児童委員	6	3.8%
インターネット	0	0.0%
入手先がない	0	0.0%
その他	1	0.6%
無回答	0	0.0%
計	157	100.0%

社協の情報入手先については、町広報誌と社協広報誌で約半分を占めており、広報誌の果たす役割の大きさが伺えます。町内会長や民生・児童委員に関してはいまひとつ値が伸びず、今後は町内会長（福祉活動推進委員長を嘱託している）の役割についても社協として整理すべき点であると考えます。

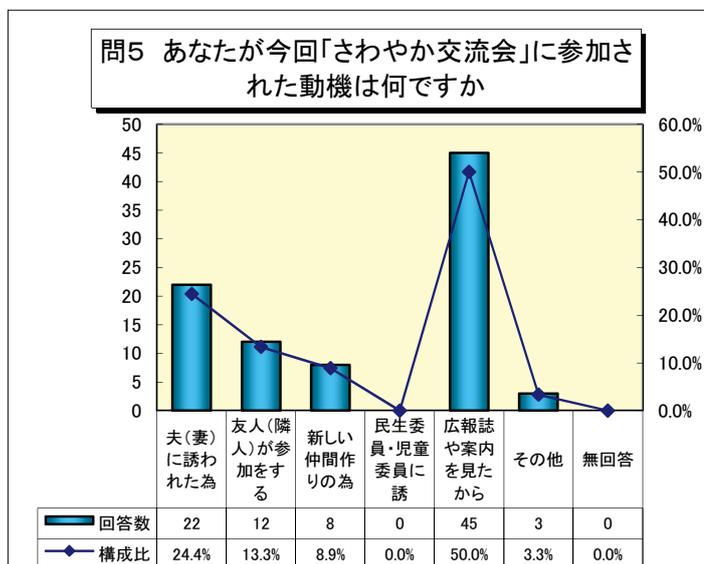


二人暮らし交流会「さわやか交流会」について伺います

問5 あなたが今回「さわやか交流会」に参加された動機は何ですか。

	回答数	構成比
夫(妻)に誘われた為	22	24.4%
友人(隣人)が参加をする為	12	13.3%
新しい仲間作りの為	8	8.9%
民生委員・児童委員に誘われた為	0	0.0%
広報誌や案内を見たから	45	50.0%
その他	3	3.3%
無回答	0	0.0%
計	90	100.0%

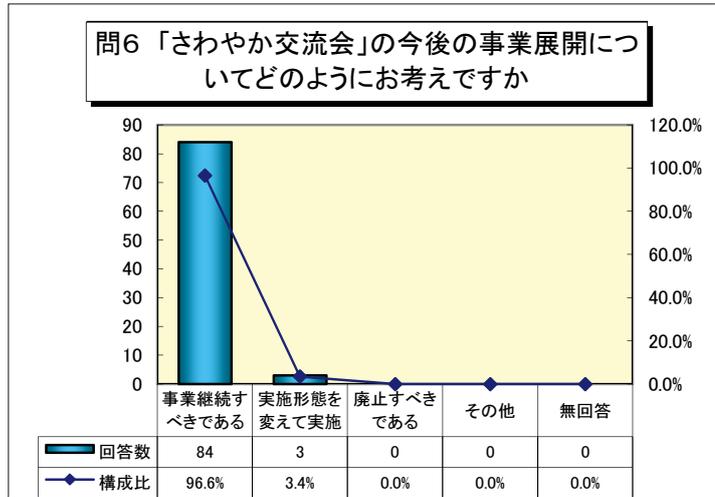
案内を社協広報誌にて、周知徹底を図ったためそれらの値が高くなっています。



問6 「さわやか交流会」の今後の事業展開についてどのようにお考えですか。

	回答数	構成比
事業継続すべきである	84	96.6%
実施形態を変えて実施すべきである	3	3.4%
廃止すべきである	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	87	100.0%

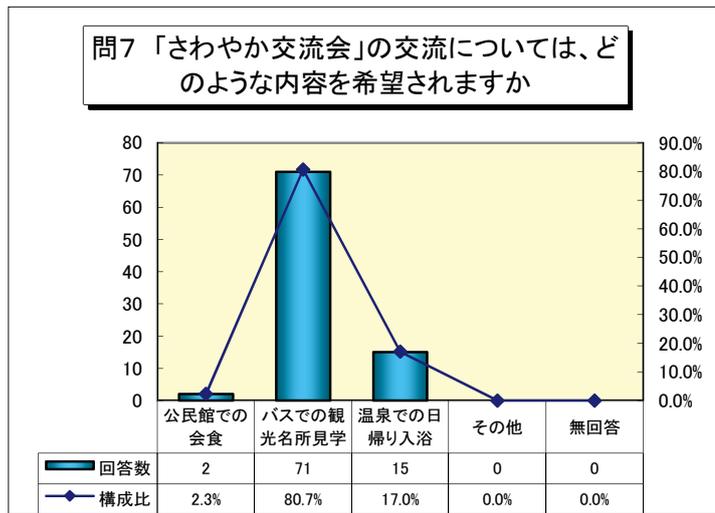
事業展開については、9割の方々が事業継続すべきであるとの意見がありますが、実施形態を変えて実施すべきであるとの意見の中には、町内で一堂に集まった会食交流というような意見も聞かれています。



問7 「さわやか交流会」の交流については、どのような内容を希望されますか

	回答数	構成比
公民館での会食	2	2.3%
バスでの観光名所見学	71	80.7%
温泉での日帰り入浴	15	17.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	88	100.0%

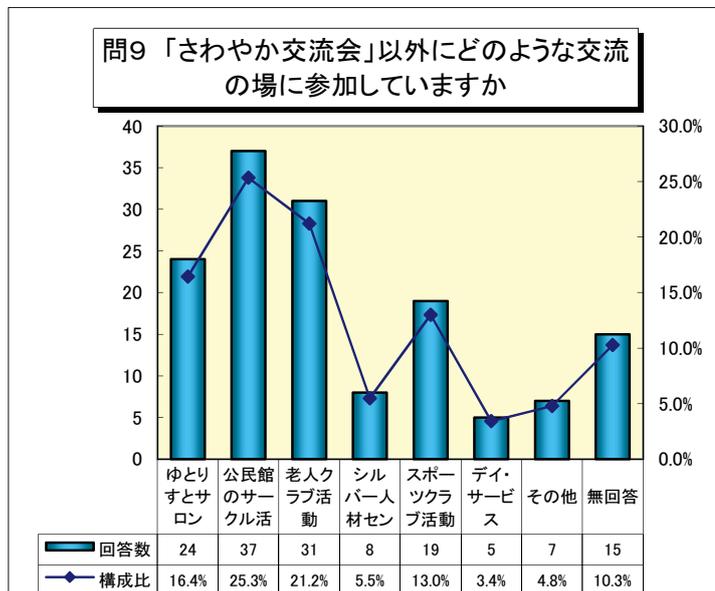
交流内容については、現在実施しているバスでの観光名所見学が8割を占めており、高い値を示しています。参加者からは「外出をしてのお買い物」というのが大変好評であるように感じます。



問9 「さわやか交流会」以外にどのような交流の場に参加していますか。(3つまで)

	回答数	構成比
ゆとりすとサロン	24	16.4%
公民館のサークル活動	37	25.3%
老人クラブ活動	31	21.2%
シルバー人材センターの活動	8	5.5%
スポーツクラブ活動	19	13.0%
デイ・サービス	5	3.4%
その他	7	4.8%
無回答	15	10.3%
計	146	100.0%

日常的な交流の場の活用については、公民館のサークル活動と老人クラブ活動が高い値を示しているように、自分達が日常的に歩いている通える範囲での活動が多いと考えられます。

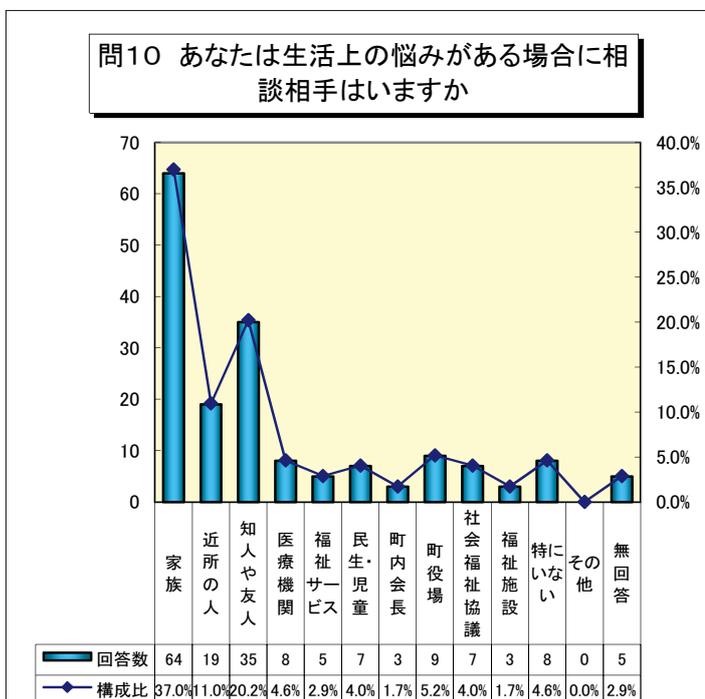


今後の参考にあなたのご意見を伺います

問10 あなたは生活上の悩みがある場合に相談相手はいますか。(3つまで)

	回答数	構成比
家族	64	37.0%
近所の人	19	11.0%
知人や友人	35	20.2%
医療機関	8	4.6%
福祉サービス事業所	5	2.9%
民生・児童委員	7	4.0%
町内会長	3	1.7%
町役場	9	5.2%
社会福祉協議会	7	4.0%
福祉施設	3	1.7%
特にいない	8	4.6%
その他	0	0.0%
無回答	5	2.9%
計	173	100.0%

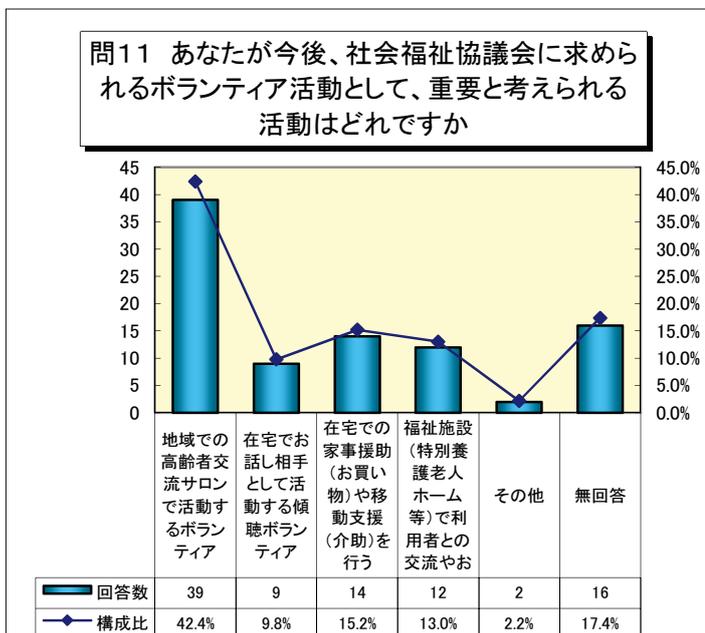
生活上の悩みがある場合の相談相手については、家族及び近所並びに知人や友人の3つで約7割を占めており、日頃からの近所づきあい小地域福祉活動の大切さを改めて認識する結果となっています。



問11 あなたが今後、社会福祉協議会に求められるボランティア活動として、重要と考えられる活動はどれですか。

	回答数	構成比
地域での高齢者交流サロンで活動するボランティア	39	42.4%
在宅でお話し相手として活動する傾聴ボランティア	9	9.8%
在宅での家事援助(お買い物)や移動支援(介助)を行うボランティア	14	15.2%
福祉施設(特別養護老人ホーム等)で利用者との交流やお手伝いをするボランティア	12	13.0%
その他	2	2.2%
無回答	16	17.4%
計	92	100.0%

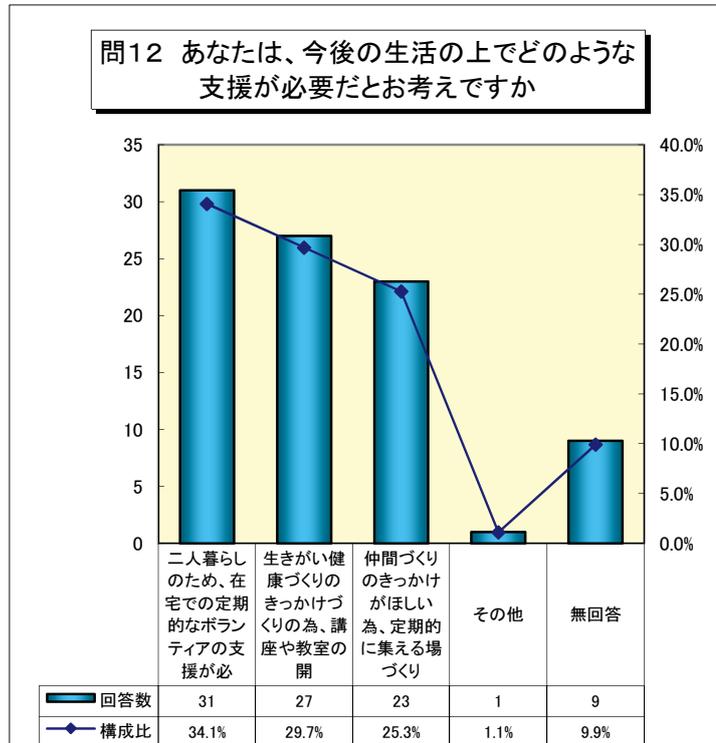
社協に求められるボランティア活動として、地域で高齢者交流サロンで活動するボランティアが約4割を占めており、地域で福祉活動を展開している方々とのつながりを深めていく事が大切であると感じさせられる結果となっています。



問12 あなたは、今後の生活の上でどのような支援が必要だとお考えですか。

	回答数	構成比
二人暮らしのため、在宅での定期的なボランティアの支援が必要だと考える	31	34.1%
生きがい健康づくりのきっかけづくりの為、講座や教室の開催が必要だと考える	27	29.7%
仲間づくりのきっかけがほしい為、定期的集える場づくり(サロン)が必要だと考える	23	25.3%
その他	1	1.1%
無回答	9	9.9%
計	91	100.0%

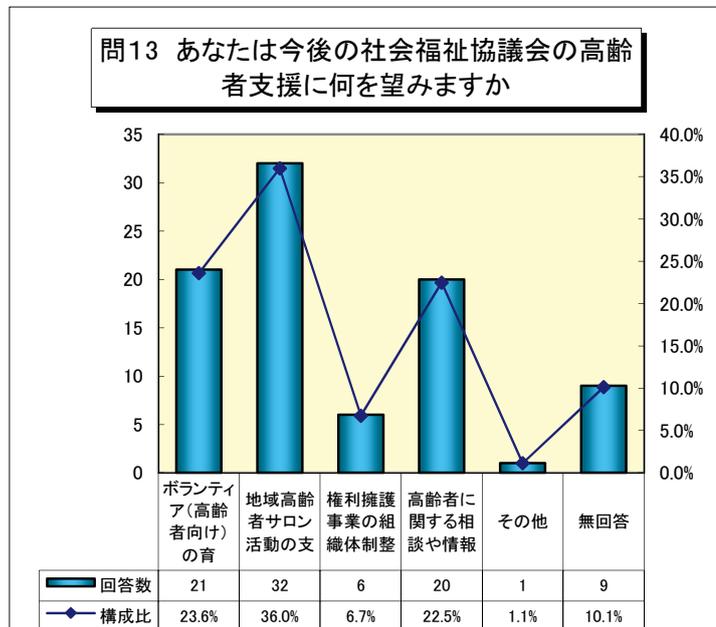
今後の生活の上での支援については、在宅での定期的なボランティアの支援が一番高い割合になっており、町内での家族形態の変化が伺えるデータとなっています。



問13 あなたは今後の社会福祉協議会の高齢者支援に何を望みますか。

	回答数	構成比
ボランティア(高齢者向け)の育成	21	23.6%
地域高齢者サロン活動の支援	32	36.0%
権利擁護事業の組織体制整備	6	6.7%
高齢者に関する相談や情報提供の充実	20	22.5%
その他	1	1.1%
無回答	9	10.1%
計	89	100.0%

社協の今後の高齢者支援については、地域高齢者サロン活動の支援が約4割と多く、2番目に高いボランティアの育成にあるような人材育成を望む声が多い事が確認され、社協の今後の高齢者支援にとって貴重なデータとなっています。



問7 あなたは今後障害者に対する理解を深めるためには、どのようなことが必要とお考えですか。
(1つに○)

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 障害者の各種イベントへの参加・協力 | 2 小中学校における障害者との交流教育 |
| 3 ボランティア活動を通じた交流 | 4 地域住民を対象とした福祉講座の開催 |
| 5 その他 () | |

問8 今後の障害者福祉事業内容について、あなたのご意見ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

今後の参考にあなたのご意見を伺います

問9 あなたは生活上の悩みがある場合に相談相手はいますか。(3つまで○)

- | | | |
|---------|-------------|------------|
| 1 家族 | 2 近所の人 | 3 知人や友人 |
| 4 医療機関 | 5 福祉サービス事業所 | 6 民生・児童委員 |
| 7 町内会長 | 8 町役場 | 9 社会福祉協議会 |
| 10 福祉施設 | 11 特にいない | 12 その他 () |

問10 あなたが今後、社会福祉協議会に求められるボランティア活動として、重要と考えられる活動はどれですか。(1つに○)

- 1 地域での障害者交流サロンで活動するボランティア
- 2 余暇支援(お話し相手)として活動する傾聴ボランティア
- 3 外出する際の移動支援(介助)を行うボランティア
- 4 福祉施設(作業所等)で利用者との交流やお手伝いをするボランティア
- 5 その他 ()

問11 社会福祉協議会では、今後障害のある方が安心して日常生活が送れるよう、成年後見制度の利用支援(一定の要件を満たしている方を対象に社協が後見人になる「法人後見」)を視野に検討をしていますが、それに対してあなたはどのようにお考えですか。(1つに○)

- 1 実施してほしい
- 2 周囲の実施状況を把握した上で、実施を視野に検討してほしい
- 3 実施すべきでない
- 4 その他 ()

問12 あなたは今後の社会福祉協議会の障害者支援に何を望みますか。(3つまで○)

- 1 障害者施設等の管理運営(例:地域活動支援センター・福祉施設等の管理運営)
- 2 成年後見制度の組織体制整備(例:金銭の管理や福祉サービス利用の困難な方の支援)
- 3 障害者に関する相談や情報提供の充実(例:日常生活上の福祉の困りごとについての相談)
- 4 ボランティア(障害者向け)の育成(例:余暇支援ボランティア・福祉施設での活動)
- 5 その他 ()

ご協力ありがとうございました

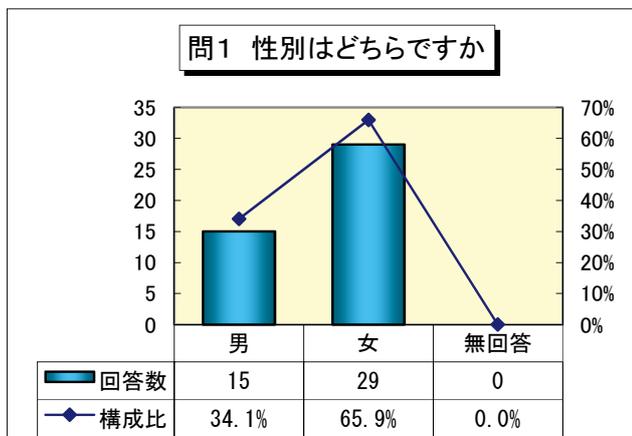
「障害者福祉事業に関する聞き取り調査」集計表

「あなた」についてお伺いします

問1 性別はどちらですか

	回答数	構成比
男	15	34.1%
女	29	65.9%
無回答	0	0.0%
計	44	100.0%

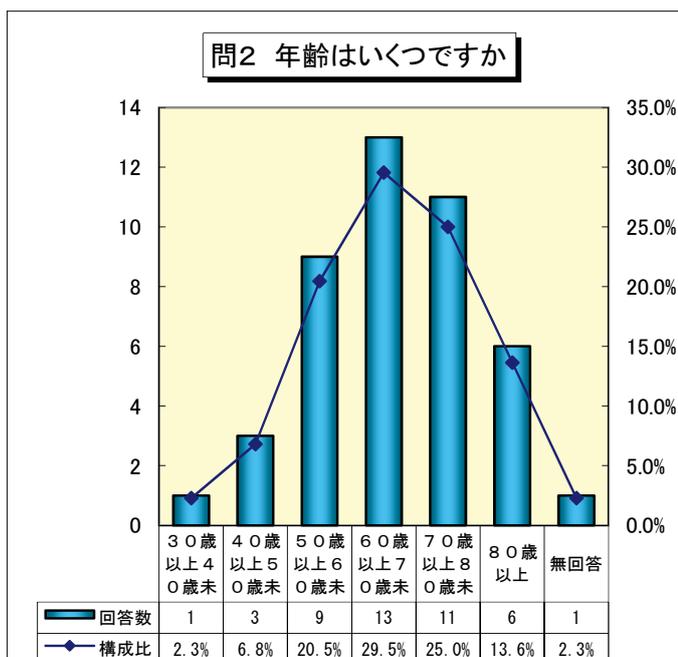
性別については、女性の回答が多い結果となっています。



問2 年齢はいくつですか

	回答数	構成比
30歳以上40歳未満	1	2.3%
40歳以上50歳未満	3	6.8%
50歳以上60歳未満	9	20.5%
60歳以上70歳未満	13	29.5%
70歳以上80歳未満	11	25.0%
80歳以上	6	13.6%
無回答	1	2.3%
計	44	100.0%

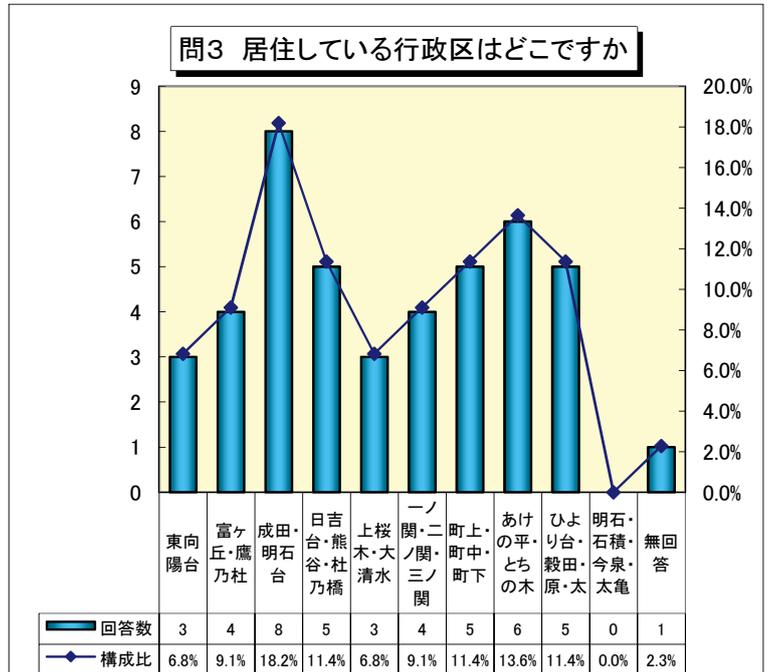
参加対象の年齢を比較してみると、50歳以上～80歳未満の参加者層が約7割となっている。要因としては、それぞれの会の高齢化が進んでいるため、平均年齢が高くなっています。



問3 居住している行政区はどこですか

	回答数	構成比
東向陽台	3	6.8%
富ヶ丘・鷹乃杜	4	9.1%
成田・明石台	8	18.2%
目吉台・熊谷・杜乃橋	5	11.4%
上桜木・大清水	3	6.8%
一ノ関・二ノ関・三ノ関・志戸田	4	9.1%
町上・町中・町下	5	11.4%
あけの平・とちの木	6	13.6%
ひより台・穀田・原・太子堂	5	11.4%
明石・石積・今泉・太	0	0.0%
魚・大童・西成田	0	0.0%
無回答	1	2.3%
計	44	100.0%

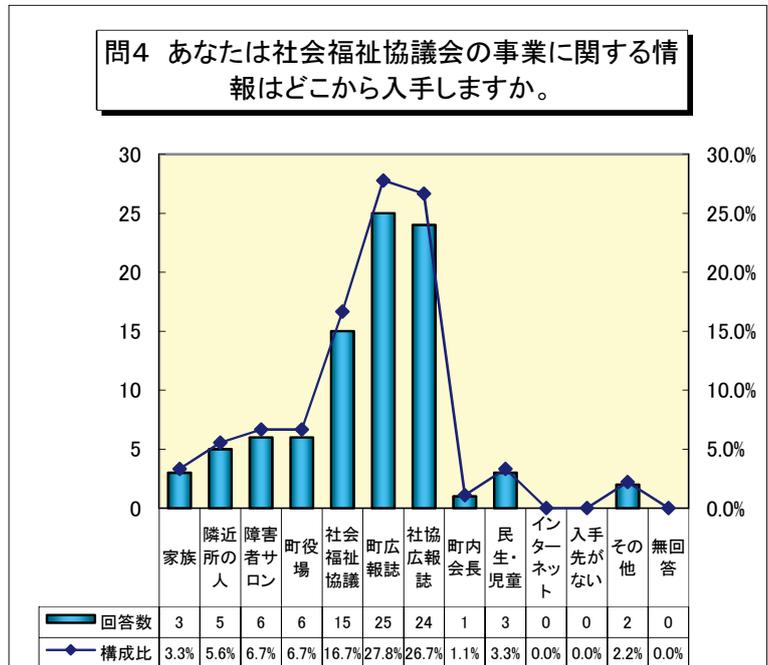
この事業自体が、手をつなぐ育成会及び身体障害者福祉協会の会員を対象とした事業の為、役員の方々に参加の周知をお願いしている実情もあり、参加者は会員の居住している地区に比例しての参加率となっています。



問4 あなたは社会福祉協議会の事業に関する情報はどこから入手しますか。(3つまで)

	回答数	構成比
家族	3	3.3%
隣近所の人・知人・友人	5	5.6%
障害者サロン	6	6.7%
町役場	6	6.7%
社会福祉協議会	15	16.7%
町広報誌	25	27.8%
社協広報誌	24	26.7%
町内会長	1	1.1%
民生・児童委員	3	3.3%
インターネット	0	0.0%
入手先がない	0	0.0%
その他	2	2.2%
無回答	0	0.0%
計	90	100.0%

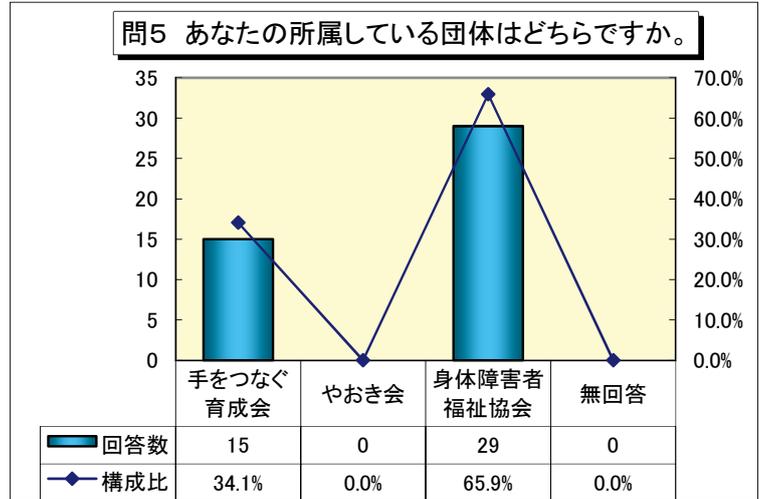
社協の情報入手先については、町広報誌と社協広報誌で約5割を占めており、広報誌の果たす役割の大きさが伺えます。町内会長や民生・児童委員に関してはいまひとつ値が伸びず、今後は町内会長（福祉活動推進委員長を委嘱している）の役割についても社協として整理すべき点であると考えます。



問5 あなたの所属している団体はどちらですか。

	回答数	構成比
手をつなぐ育成会	15	34.1%
やおき会	0	0.0%
身体障害者福祉協会	29	65.9%
無回答	0	0.0%
計	44	100.0%

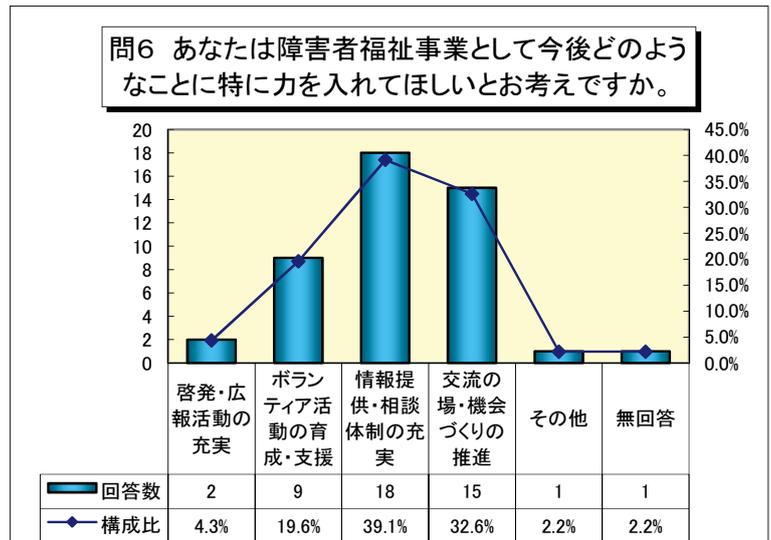
会員の所属している団体ごおりの結果となっています。



問6 あなたは障害者福祉事業として今後どのようなことに特に力を入れてほしいとお考えですか。

	回答数	構成比
啓発・広報活動の充実	2	4.3%
ボランティア活動の育成・支援	9	19.6%
情報提供・相談体制の充実	18	39.1%
交流の場・機会づくりの推進	15	32.6%
その他	1	2.2%
無回答	1	2.2%
計	46	100.0%

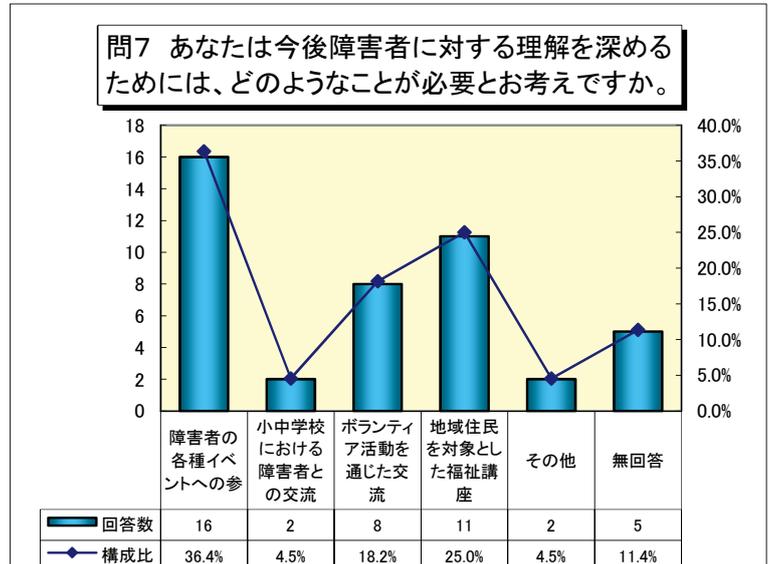
身近に相談できる機関がほしいとの事から、情報提供・相談体制の充実を挙げる声が一番多いようです。町内をはじめ、障害者分野の相談機関の少なさを物語っています。



問7 あなたは今後障害者に対する理解を深めるためには、どのようなことが必要とお考えですか。

	回答数	構成比
障害者の各種イベントへの参加・協力	16	36.4%
小中学校における障害者との交流教育	2	4.5%
ボランティア活動を通じた交流	8	18.2%
地域住民を対象とした福祉講座の開催	11	25.0%
その他	2	4.5%
無回答	5	11.4%
計	44	100.0%

多くの方にもっと障害者の部分について、知ってほしいとのことから、各種イベントへの参加協力を挙げる方が3割を占めている。社協としての関わりについても今後検討する必要があると考えられる。

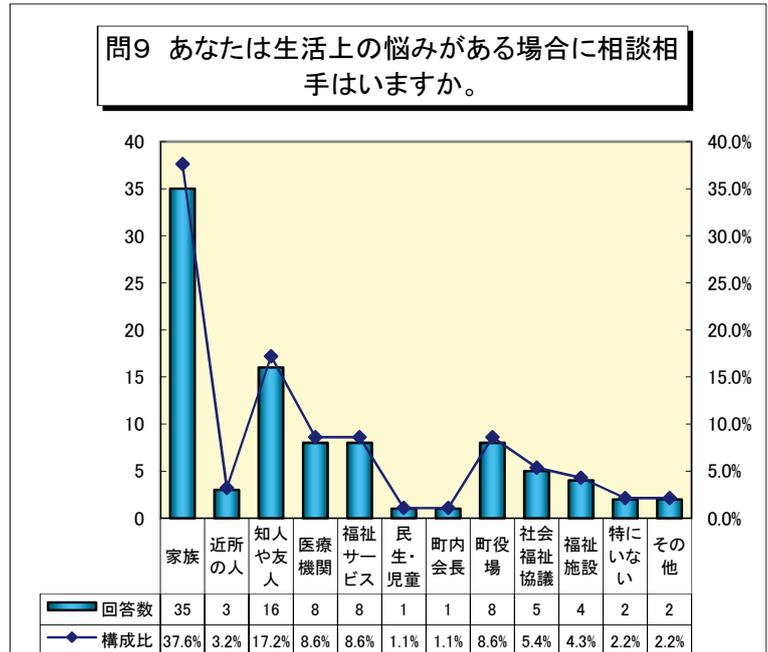


今後の参考にあなたのご意見を伺います

問9 あなたは生活上の悩みがある場合に相談相手はいますか。(3つまで)

	回答数	構成比
家族	35	37.6%
近所の人	3	3.2%
知人や友人	16	17.2%
医療機関	8	8.6%
福祉サービス事業所	8	8.6%
民生・児童委員	1	1.1%
町内会長	4	4.3%
町役場	8	8.6%
社会福祉協議会	5	5.4%
福祉施設	4	4.3%
特にいない	2	2.2%
その他	2	2.2%
無回答	0	0.0%
計	93	100.0%

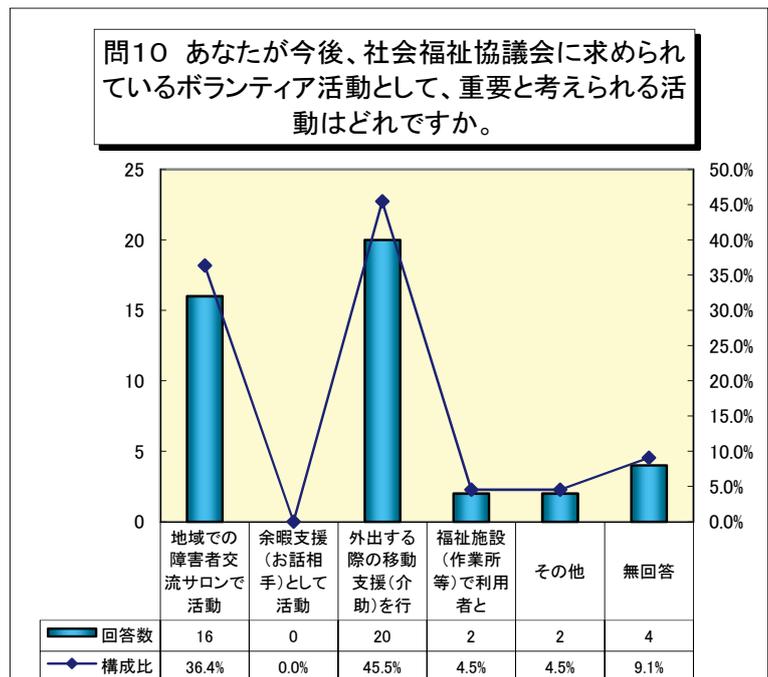
生活上の悩みがある場合の相談相手については、家族や知人・友人の次に値が高かったのが医療機関ということで、障害者の方々に調査したアンケートの中の特色の1つではないかと考えられます。



問10 あなたが今後、社会福祉協議会に求められているボランティア活動として、重要と考えられる活動はどれですか。

	回答数	構成比
地域での障害者交流サロンで活動するボランティア	16	36.4%
余暇支援(お話し相手)として活動する傾聴ボランティア	0	0.0%
外出する際の移動支援(介助)を行うボランティア	20	45.5%
福祉施設(作業所等)で利用者との交流やお手伝いをするボランティア	2	4.5%
その他	2	4.5%
無回答	4	9.1%
計	44	100.0%

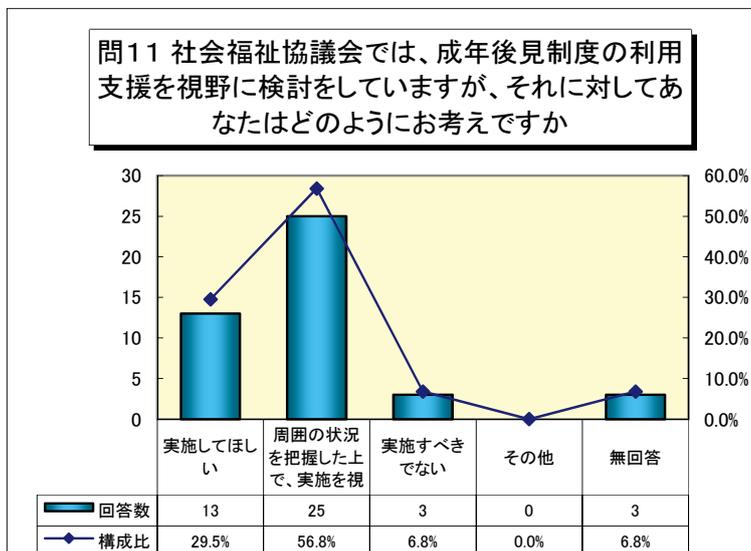
社協に求められるボランティア活動として、外出する際の移動支援ボランティアが高い値を占めています。また、反対に高齢者支援の分野のボランティアとして現在社協が推進している傾聴ボランティアについては、0回答であり、少々意外な数字となった。



問 1 1 社会福祉協議会では、今後障害者のある方が安心して日常生活が送れるよう、成年後見制度の利用支援（一定の要件を満たしている方を対象に社協が後見人になる「法人後見」）を視野に検討をしていますが、それに対してあなたはどのようにお考えですか。

	回答数	構成比
実施してほしい	13	29.5%
周囲の状況を把握した上で、実施を視野に検討してほしい	25	56.8%
実施すべきでない	3	6.8%
その他	0	0.0%
無回答	3	6.8%
計	44	100.0%

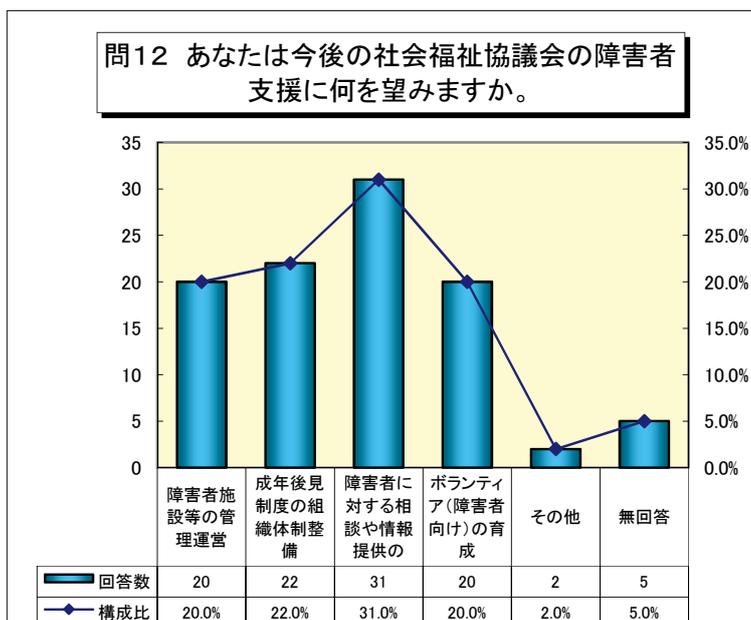
成年後見制度についての利用支援（法人後見）については、実施する及び実施を視野に検討してほしいとの意見が8割であった為、今後の事業展開に向けたきっかけづくりとなる結果となったのではないかと考えられます。



問 1 2 あなたは今後の社会福祉協議会の障害者支援に何を望みますか。

	回答数	構成比
障害者施設等の管理運営	20	20.0%
成年後見制度の組織体制整備	22	22.0%
障害者に対する相談や情報提供の充実	31	31.0%
ボランティア（障害者向け）の育成	20	20.0%
その他	2	2.0%
無回答	5	5.0%
計	100	100.0%

社協の今後の障害者支援については、相談や情報提供を望む声が多く、社協の今後の障害者支援にとって貴重なデータとなっています。



問7 子育てサロン「とことこ」の内容で好きなものは何ですか。(3つまで○)

- | | | |
|------------|------------|-----------|
| 1 紙芝居 | 2 手あそび | 3 フリータイム |
| 4 専門医相談 | 5 うた | 6 体操 |
| 7 絵本 | 8 劇 | 9 パネルシアター |
| 10 おもちゃあそび | 11 その他 () | |

問8 子育てサロン「とことこ」について、今後どのような場所での開催を望まれますか。(1つに○)

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1 富谷町保健福祉総合支援センター | 2 町内の公民館 |
| 3 各地区の町内会館 | 4 富谷町役場(町民交流ホール) |
| 5 イオン富谷ショッピングセンター | 6 その他 () |

問9 今後の子育てサロン「とことこ」について、あなたのご意見ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

問10 子育てサロン「とことこ」に大きくご協力をしている子育てサポーターの方々の今後(将来像)について、期待するものは何ですか。(1つに○)

- | |
|---|
| 1 子育てサポーターの方々が中心となり、地域での子育てサロンを展開してほしい |
| 2 地域での子育ての相談役としての役割を担ってほしい |
| 3 子育てサポーターだけに限らず、幅広い子育てボランティアとして活動してほしい |
| 4 その他 () |

問11 社会福祉協議会では、子育て支援として、地域の自主的なサロン運営の支援や子育ての相談機能(情報提供)の整備について、検討が必要と考えていますが、それに対してあなたはどのようにお考えですか。(1つに○)

- | | |
|---------------|-------------------------|
| 1 必要だと考える | 2 現在は必要ではないが今後必要になると考える |
| 3 今後も必要ないと考える | 4 その他 () |

問12 問11で「1 必要だと考える」「2 現在は必要ではないが今後必要になると考える」と回答した方のみにお聞きします。あなたが、今後の社会福祉協議会の子育て支援の役割として期待するものは何ですか。(1つに○)

- | |
|---|
| 1 地域で運営する子育てサロン(自主的な活動)の活動拠点の支援を増やしてほしい |
| 2 子育てに関する相談や情報提供に対応できるような整備をしてほしい |
| 3 子育ての事業に対して、積極的にボランティアとして参加協力してほしい |
| 4 親同士が気軽に交流でき、情報交換できるような機会を設けてほしい |
| 5 その他 () |

ご協力ありがとうございました

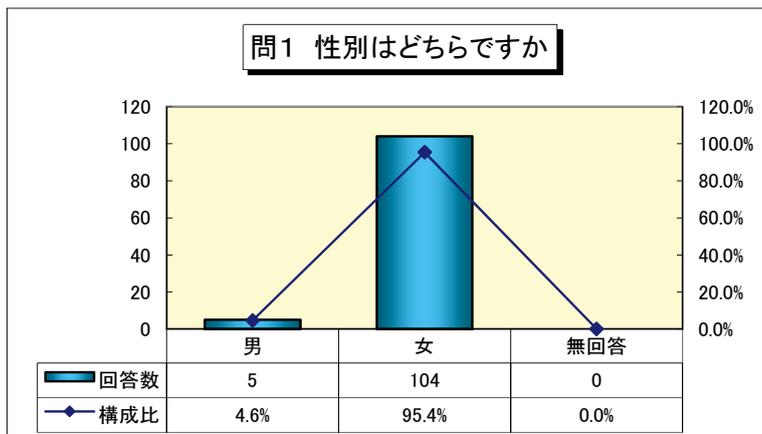
「子育てサロン「とことこ」に関する聞き取り調査」集計表

「あなた」についてお伺いします

問1 性別はどちらですか

	回答数	構成比
男	5	4.6%
女	104	95.4%
無回答	0	0.0%
計	109	100.0%

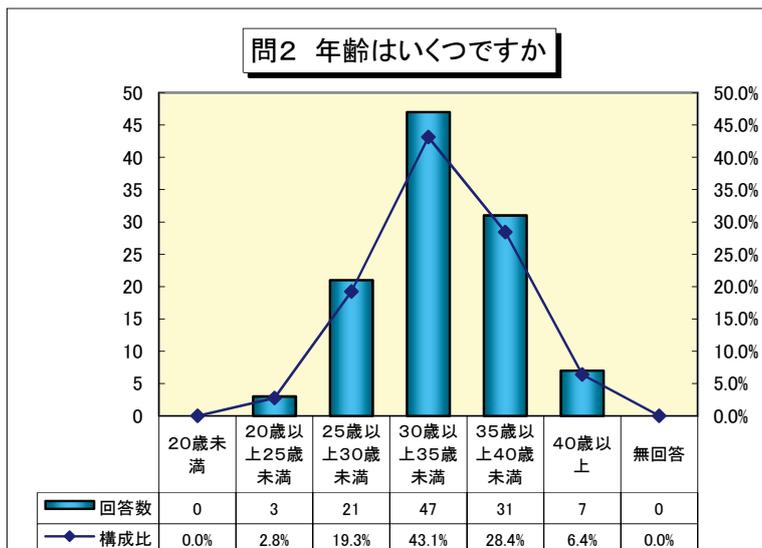
来場者に対するアンケートとなった為、数値どおり、大半が女性比であるという結果となっている。要因としては、平日の日中に開催する事が多い為、女性の来場がどうしても多くなってしまふ事が考えられます。



問2 年齢はいくつですか

	回答数	構成比
20歳未満	0	0.0%
20歳以上25歳未満	3	2.8%
25歳以上30歳未満	21	19.3%
30歳以上35歳未満	47	43.1%
35歳以上40歳未満	31	28.4%
40歳以上	7	6.4%
無回答	0	0.0%
計	109	100.0%

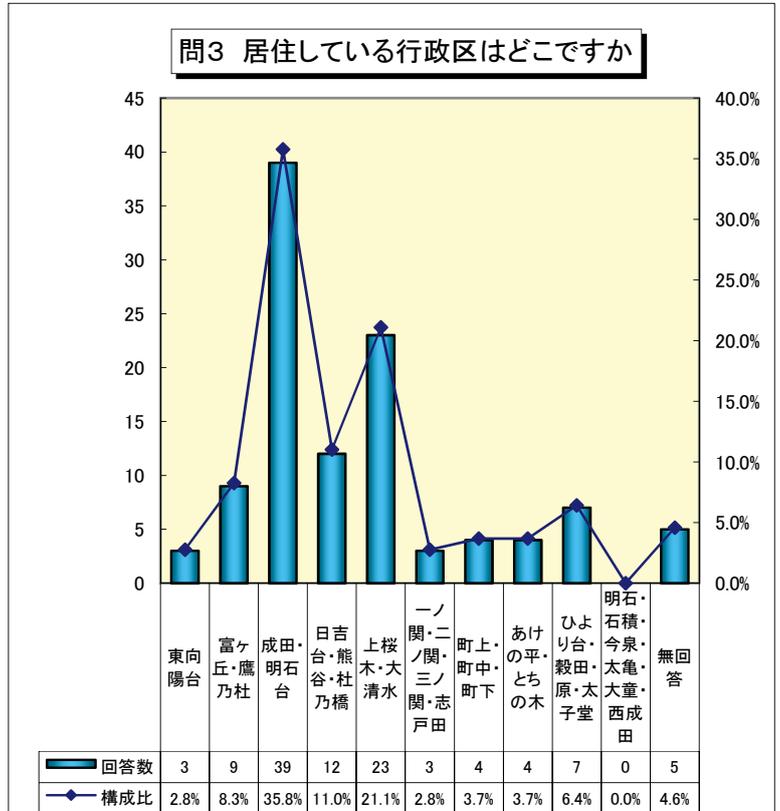
参加対象の年齢を比較してみると、25歳以上～40歳未満の参加者層が約9割となっており、子育てサロンの事業実情に即した値となっている事が考えられます。



問3 居住している行政区はどこですか

	回答数	構成比
東向陽台	3	2.8%
富ヶ丘・鷹乃杜	9	8.3%
成田・明石台	39	35.8%
日吉台・熊谷・杜乃橋	12	11.0%
上桜木・大清水	23	21.1%
一ノ関・二ノ関・三ノ関・志戸田	3	2.8%
町上・町中・町下	4	3.7%
あけの平・とちの木	4	3.7%
ひより台・穀田・原・太子堂	7	6.4%
明石・石積・今泉・太魚・大童・西成田	0	0.0%
無回答	5	4.6%
計	109	100.0%

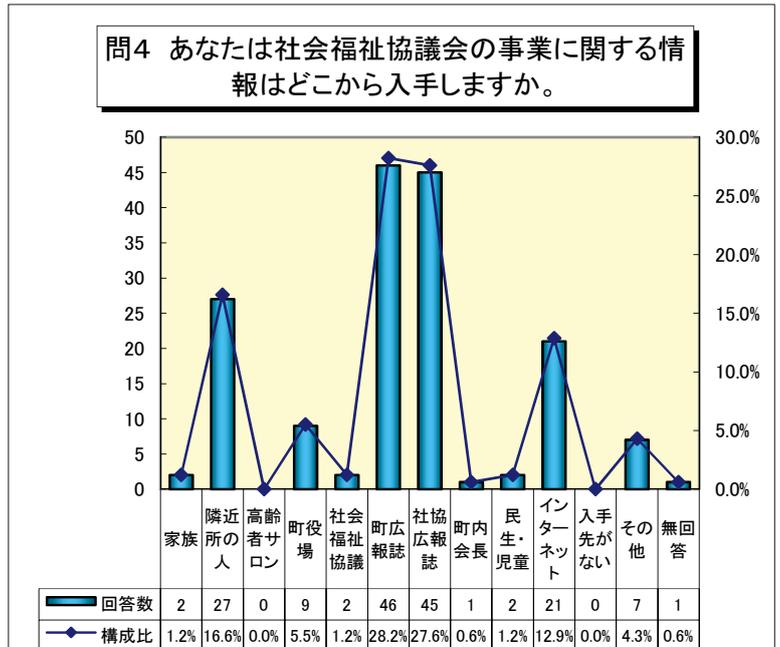
この事業自体が、保健福祉総合支援センターをはじめ、各地区の会館等を会場に開催している実情もあるが、富谷の中でも比較的若い世代が多いとされる成田・明石台・上桜木・大清水・杜乃橋地区で5割の参加率となっている為、実情に比例しての参加率となっています。



問4 あなたは社会福祉協議会の事業に関する情報はどこから入手しますか。(3つまで)

	回答数	構成比
家族	2	1.2%
隣近所の人・知人・友	27	16.6%
高齢者サロン	0	0.0%
町役場	9	5.5%
社会福祉協議会	2	1.2%
町広報誌	46	28.2%
社協広報誌	45	27.6%
町内会長	1	0.6%
民生・児童委員	2	1.2%
インターネット	21	12.9%
入手先がない	0	0.0%
その他	7	4.3%
無回答	1	0.6%
計	163	100.0%

社協の情報入手先については、町広報誌と社協広報誌が高い値となっていますが、若い年代だけにインターネットを活用した情報入手（ホームページ・ブログ）も高齢者・障害者に比べ高い値を示しています。

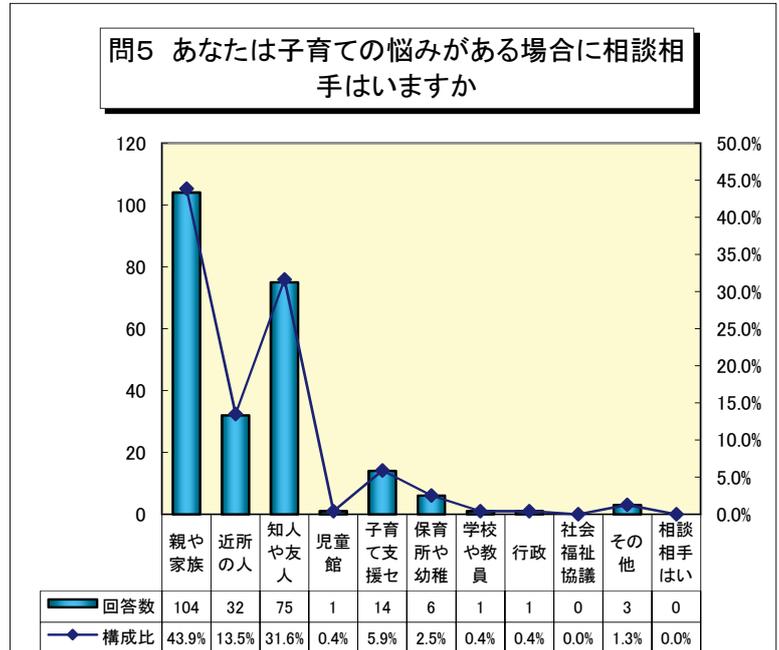


今後の子育てサロン「とことこ」について伺います

問5 あなたは子育ての悩みがある場合に相談相手はいますか。（3つまで）

	回答数	構成比
親や家族	104	43.9%
近所の人	32	13.5%
知人や友人	75	31.6%
児童館	1	0.4%
子育て支援センター	14	5.9%
保育所や幼稚園	6	2.5%
学校や教員	1	0.4%
行政	1	0.4%
社会福祉協議会	0	0.0%
その他	3	1.3%
相談相手はいない	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	237	100.0%

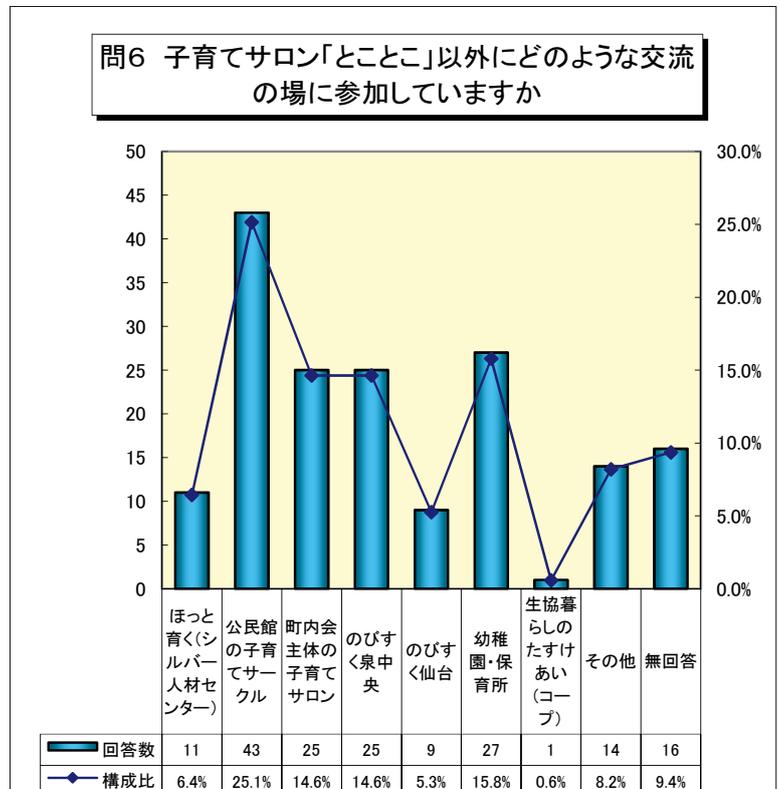
子育ての悩みがある場合の相談相手については、親や家族及び知人・友人で回答の8割を占めている。要因としては、富谷での子育て支援機能が高齢者分野に比べるとこれから整備していく面が考えられる為、回答が少ない影響が考えられます。



問6 子育てサロン「とことこ」以外にどのような交流の場に参加していますか

	回答数	構成比
ほっと育く（シルバー人材センター）	11	6.4%
公民館の子育てサークル	43	25.1%
町内会主体の子育てサロン	25	14.6%
のびすく泉中央	25	14.6%
のびすく仙台	9	5.3%
幼稚園・保育所	27	15.8%
生協暮らしのたすけあい（コープ）	1	0.6%
その他	14	8.2%
無回答	16	9.4%
計	171	100.0%

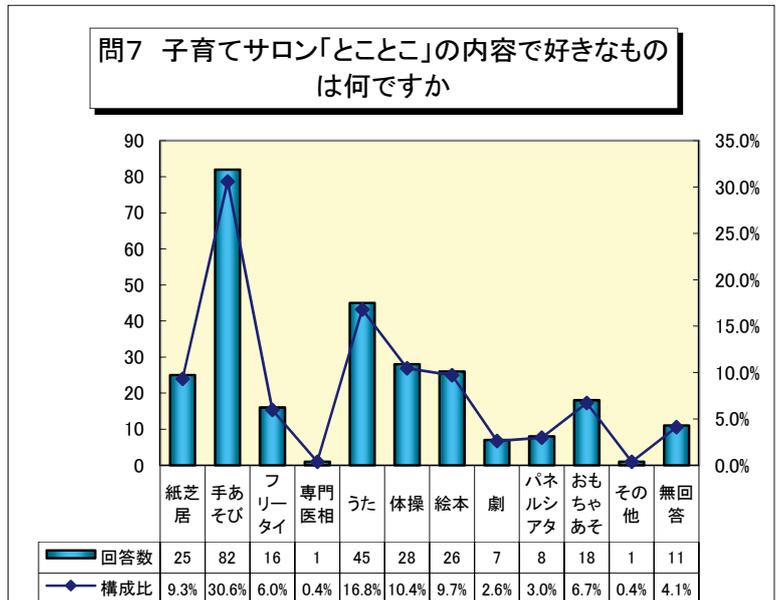
とことこ以外の交流の場としては、近くの公民館の子育てサークルやのびすく泉中央が高い値を示している。意見としては、お母さん方の集える場がほしいとの事で、各自で情報を集めるなどして参加している傾向が伺えます。シルバー人材センターで実施しているほっと育くについては、中程度の値となっている。



問7 子育てサロン「とことこ」の内容で好きなものは何ですか。

	回答数	構成比
紙芝居	25	9.3%
手あそび	82	30.6%
フリータイム	16	6.0%
専門医相談	1	0.4%
うた	45	16.8%
体操	28	10.4%
絵本	26	9.7%
劇	7	2.6%
パネルシアター	8	3.0%
おもちゃあそび	18	6.7%
その他	1	0.4%
無回答	11	4.1%
計	268	100.0%

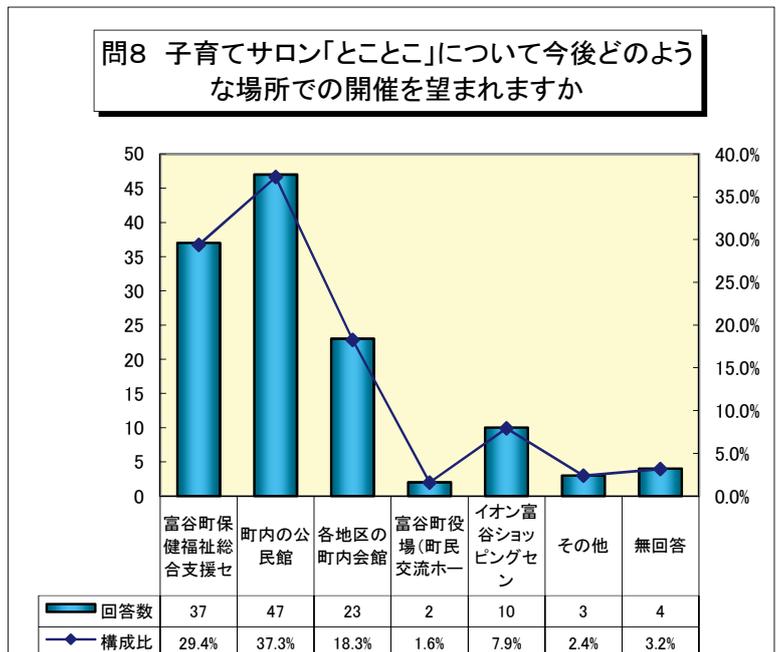
とことこの内容で好きなものに関しては、手遊び及びうたで4割を占めており、定番となっているものが上位に来ている印象が伺える。これらを基に、サポーターのサロン内容の充実の為の貴重な声として反映していきたいと考えます。



問8 子育てサロン「とことこ」について今後どのような場所での開催を望まれますか。

	回答数	構成比
富谷町保健福祉総合支援センター	37	29.4%
町内の公民館	47	37.3%
各地区の町内会館	23	18.3%
富谷町役場（町民交流ホール）	2	1.6%
イオン富谷ショッピングセンター	10	7.9%
その他	3	2.4%
無回答	4	3.2%
計	126	100.0%

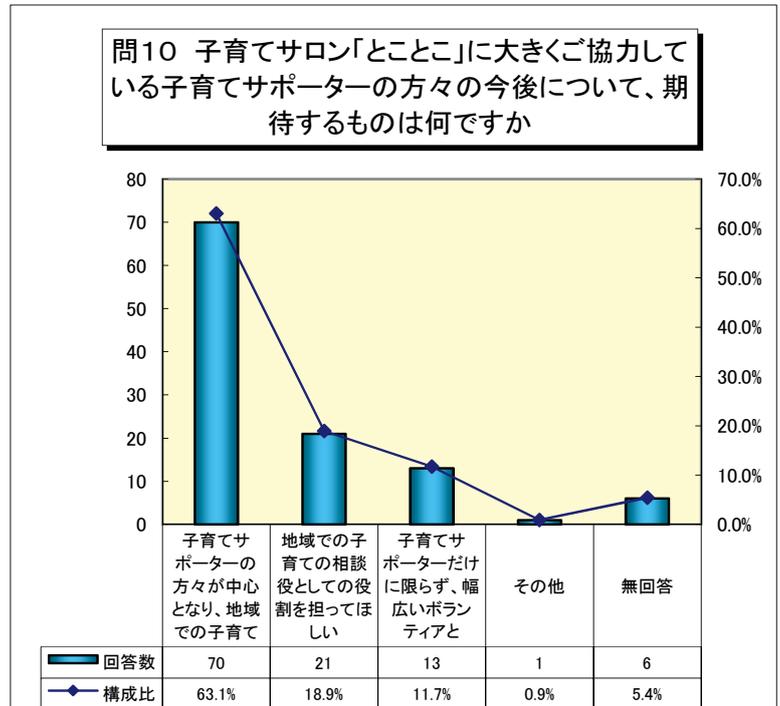
開催場所についての質問については、現在メインで開催している保健福祉総合支援センターは2番目の値で、町内の公民館が一番高い値となっている。要因としては、近くで歩いてこれる場所等、来場者にとって最も適した日時設定が大切ではないかと考えられます。



問10 子育てサロン「とことこ」に大きくご協力している子育てサポーターの方々の今後について、期待するものは何ですか。

	回答数	構成比
子育てサポーターの方々が中心となり、地域での子育てサロンを展開してほしい	70	63.1%
地域での子育ての相談役としての役割を担ってほしい	21	18.9%
子育てサポーターだけに限らず、幅広いボランティアとして活動してほしい	13	11.7%
その他	1	0.9%
無回答	6	5.4%
計	111	100.0%

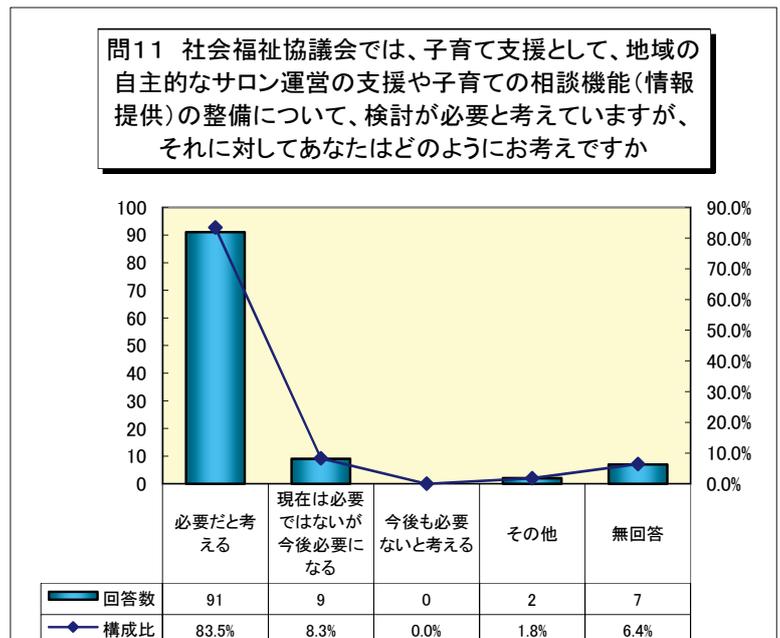
サポーターの今後については、子育てサポーターが中心となり、地域での子育てサロンを展開してほしいとの意見が6割を占めている現状からも見るとおり、地域での集いの場を求めている声というものが高い事が分かります。その実情から、富谷町内でも子育てサポーターが中心となって、自分が住んでいる地域で独自に子育てサロンを立ち上げている実情があることから、社協としても支援のあり方について今後大いに検討すべき点であると考えます。



問11 社会福祉協議会では、子育て支援として、地域の自主的なサロン運営の支援や子育ての相談機能（情報提供）の整備について、検討が必要と考えていますが、それに対してあなたはどのようにお考えですか。

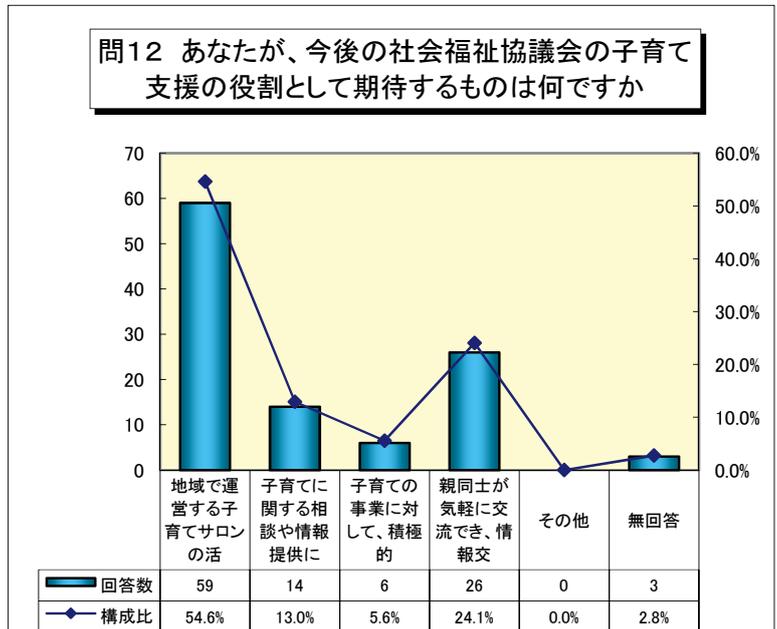
	回答数	構成比
必要だと考える	91	83.5%
現在は必要ではないが今後必要になると考える	9	8.3%
今後必要ないと考える	0	0.0%
その他	2	1.8%
無回答	7	6.4%
計	109	100.0%

社協としての子育て支援機能の整備について、必要だと考えている方が8割と高い値を示している事から、社協だけではなく町全体として、子育て支援機能の整備を進めていく必要がある貴重な声だと考えています。この点については、行政とも連携を取りながら、実施計画に反映させるべき点ではないかと考えられます。



問12 あなたが、今後の社会福祉協議会の子育て支援の役割として期待するものは何ですか。

	回答数	構成比
地域で運営する子育てサロンの活動拠点の支援を増やしてほしい	59	54.6%
子育てに関する相談や情報提供に対応できるような整備をしてほしい	14	13.0%
子育ての事業に対して、積極的にボランティアとして参加協力をしてほしい	6	5.6%
親同士が気軽に交流でき、情報交換できるような機会を設けてほしい	26	24.1%
その他	0	0.0%
無回答	3	2.8%
計	108	100.0%



社協の今後の子育て支援については、問10にもあるとおり、地域での子育てサロンの活動拠点の支援が5割を超えている声として届いている。また、高齢者や障害者にもあったような情報交換（情報提供）できるような場を設ける事も必要との値も高くなっており、今後は社協として出来る子育て支援について検討を進めるべきだと考えます。

地域福祉の推進に関するアンケート調査

社会福祉法人富谷町社会福祉協議会

「あなた」についてお伺いします。

問1 性別はどちらですか。(1つに○)

- 1 男 2 女

問2 年齢はいくつですか。(1つに○)

- 1 20歳未満 2 20歳以上30歳未満
3 30歳以上40歳未満 4 40歳以上50歳未満
5 50歳以上60歳未満 6 60歳以上70歳未満
7 70歳以上

問3 居住している行政区はどこですか。(1つに○)

- 1 東向陽台 2 富ヶ丘・鷹乃杜 3 成田・明石台
4 日吉台・熊谷・杜乃橋 5 上桜木・大清水 6 一ノ関・二ノ関・三ノ関・志戸田
7 町上・町中・町下 8 あけの平・とちの木 9 ひより台・穀田・原・太子堂
10 明石・石積・今泉・大亀・大童・西成田

問4 あなたは社会福祉協議会の事業に関する情報はどこから入手しますか。(3つまで○)

- 1 家族 2 隣近所の人・知人・友人 3 障害者サロン
4 町役場 5 社会福祉協議会 6 町広報誌
7 社協広報誌 8 町内会長 9 民生・児童委員
10 インターネット 11 入手先がない 12 その他 ()

あなたがお住まいの地域で行われている福祉活動について、お考えを伺います。

問5 あなたは今後、地域福祉活動の一員として活動に参加する意思はありますか。(1つに○)

- 1 はい 2 いいえ 3 わからない
(2 いいえの理由)

問6 あなたは、日頃、地域での役割や住民同士のつながりについて、どのようなお考えをお持ちですか。(1つに○)

- 1 日頃から助け合う関係でありたい
2 緊急時や災害時に助け合う関係でありたい
3 わずらわしく積極的には付き合いたくない
4 その他 ()

問7 あなたが、地域のなかで、安心して暮らせるためにできることはありますか。(3つまで○)

- 1 普段のあいさつなど 2 散歩や外出の付き添い
3 声かけ、見守り、話し相手など 4 掃除などの簡単な身の回りの世話
5 支援したいが、自分のことで精一杯 6 地域の方が気軽に集まれる場所の提供
7 できることはない 8 その他 ()
9 青少年の健全育成 10 考えたことがないので分からない

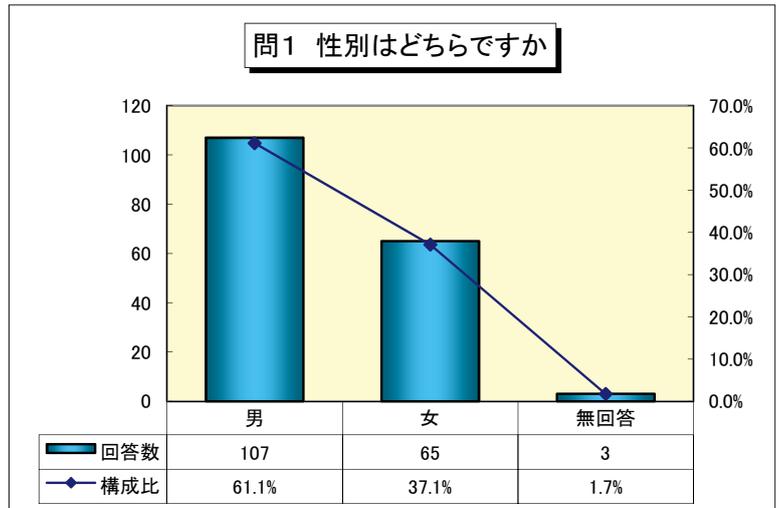
「地域福祉の推進に関するアンケート調査」集計表

「あなた」についてお伺いします

問1 性別はどちらですか

	回答数	構成比
男	107	61.1%
女	65	37.1%
無回答	3	1.7%
計	175	100.0%

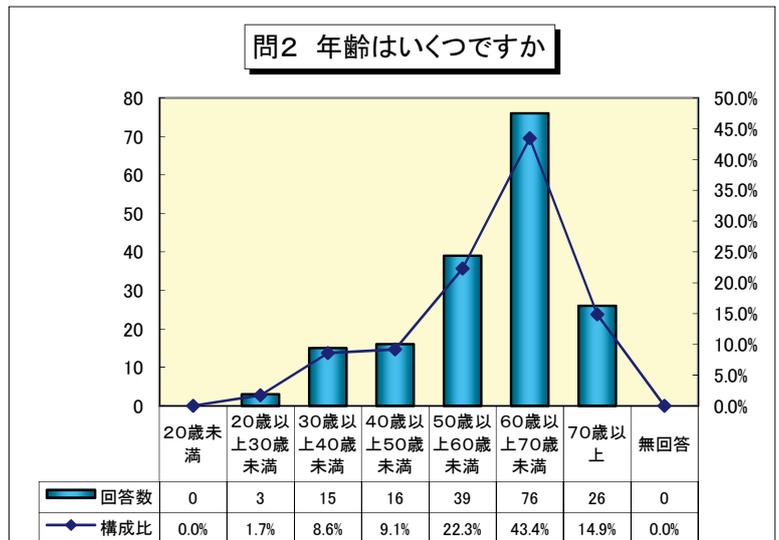
性別については、福祉活動推進委員長（町内会長）を通じて、各地区5名ずつの配布協力をいただいた為、集計結果どおりとなっています。



問2 年齢はいくつですか

	回答数	構成比
20歳未満	0	0.0%
20歳以上30歳未満	3	1.7%
30歳以上40歳未満	15	8.6%
40歳以上50歳未満	16	9.1%
50歳以上60歳未満	39	22.3%
60歳以上70歳未満	76	43.4%
70歳以上	26	14.9%
無回答	0	0.0%
計	175	100.0%

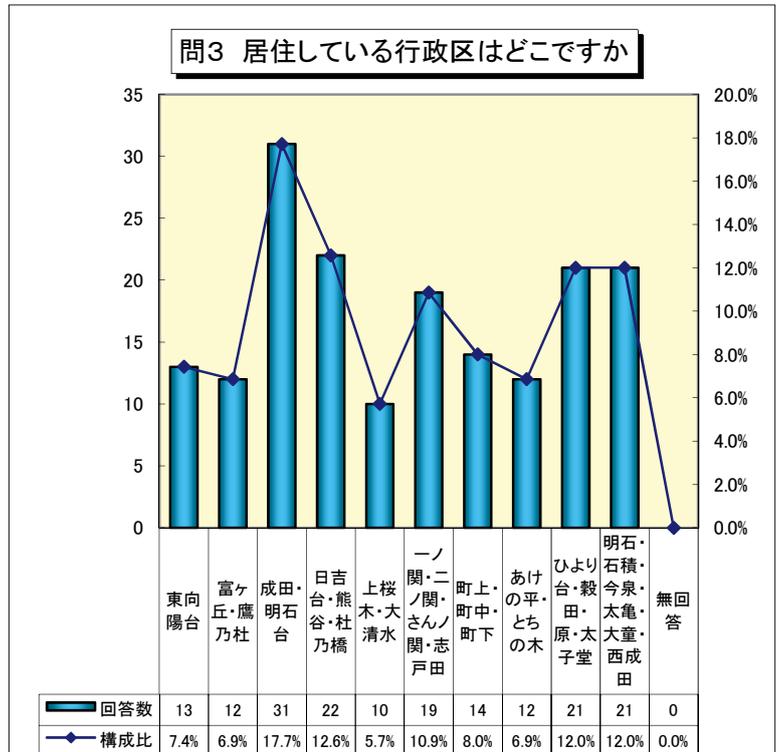
年齢を比較してみると、60歳以上の方々が全体の約6割を占めています。要因としては、地区役員の方々へ回答を求めたケースが多いことや日中在宅の確立が高い方々にアンケート協力いただいたことが考えられます。



問3 居住している行政区はどこですか

	回答数	構成比
東向陽台	13	7.4%
富ヶ丘・鷹乃杜	12	6.9%
成田・明石台	31	17.7%
日吉台・熊谷・杜乃橋	22	12.6%
上桜木・大清水	10	5.7%
一ノ関・二ノ関・さん	19	10.9%
ノ関・志戸田	19	10.9%
町上・町中・町下	14	8.0%
あけの平・とちの木	12	6.9%
ひより台・穀田・原・太子堂	21	12.0%
明石・石積・今泉・太	21	12.0%
魚・大童・西成田	21	12.0%
無回答	0	0.0%
計	175	100.0%

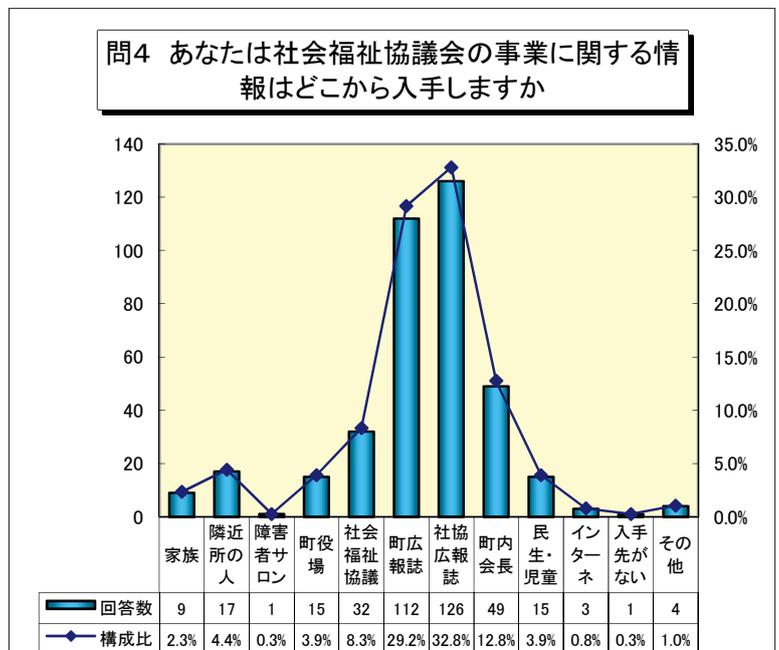
居住している行政区については、各地区5名ずつ配布ということで、おおむねどの地区も均等の回答が得られたと考えられます。



問4 あなたは社会福祉協議会の事業に関する情報はどこから入手しますか。(3つまで)

	回答数	構成比
家族	9	2.3%
隣近所の人・知人・友	17	4.4%
障害者サロン	1	0.3%
町役場	15	3.9%
社会福祉協議会	32	8.3%
町広報誌	112	29.2%
社協広報誌	126	32.8%
町内会長	49	12.8%
民生・児童委員	15	3.9%
インターネット	3	0.8%
入手先がない	1	0.3%
その他	4	1.0%
無回答	0	0.0%
計	384	100.0%

社協の情報入手先については、町広報誌と社協広報誌が高い値となっていますが、次いで高い値を示しているのが、町内会長という結果となった、要因としては社協会費納入の際に町内会長を通じて依頼している点等が挙げられます。(今回のアンケート配布も多少作用している可能性有り。)

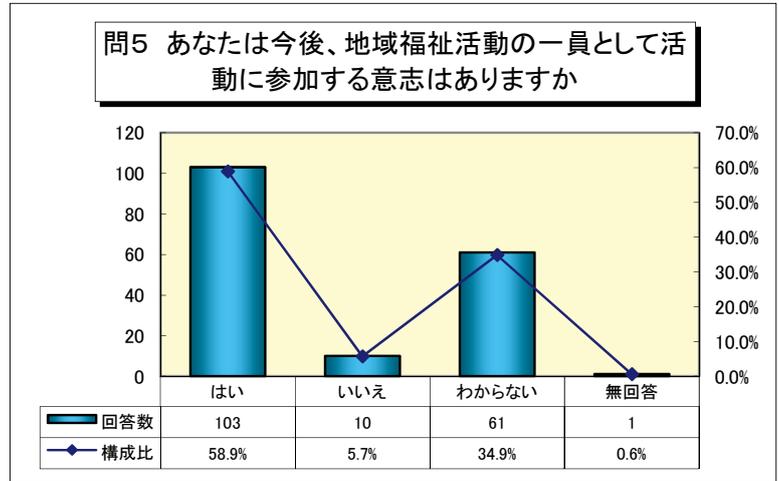


あなたがお住まいの地域の福祉活動の状況について伺います

問5 あなたは今後、地域福祉活動の一員として活動に参加する意志はありますか

	回答数	構成比
はい	103	58.9%
いいえ	10	5.7%
わからない	61	34.9%
無回答	1	0.6%
計	175	100.0%

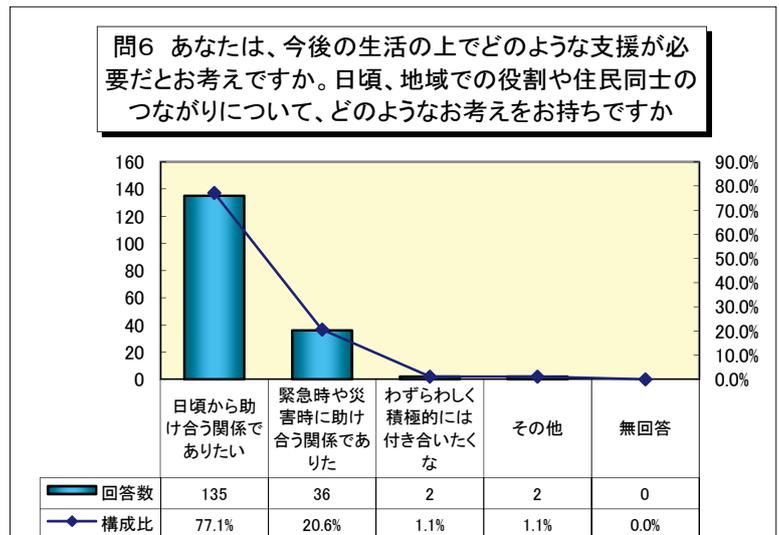
地域福祉活動の一員としての参加意志についての設問だが、はいと答えた方が約5割となっている半面で、分からないと答えている方も3割程度いることが伺えます。要因としては、自分自身何かに関わりたいと思っているが、どのように活動したら良いか分からないという方の回答が分からないに集中したのではないかと考えられます。



問6 あなたは、日頃、地域での役割や住民同士のつながりについて、どのようなお考えをお持ちですか。

	回答数	構成比
日頃から助け合う関係でありたい	135	77.1%
緊急時や災害時に助け合う関係でありたい	36	20.6%
わずらわしく積極的に付き合いたくない	2	1.1%
その他	2	1.1%
無回答	0	0.0%
計	175	100.0%

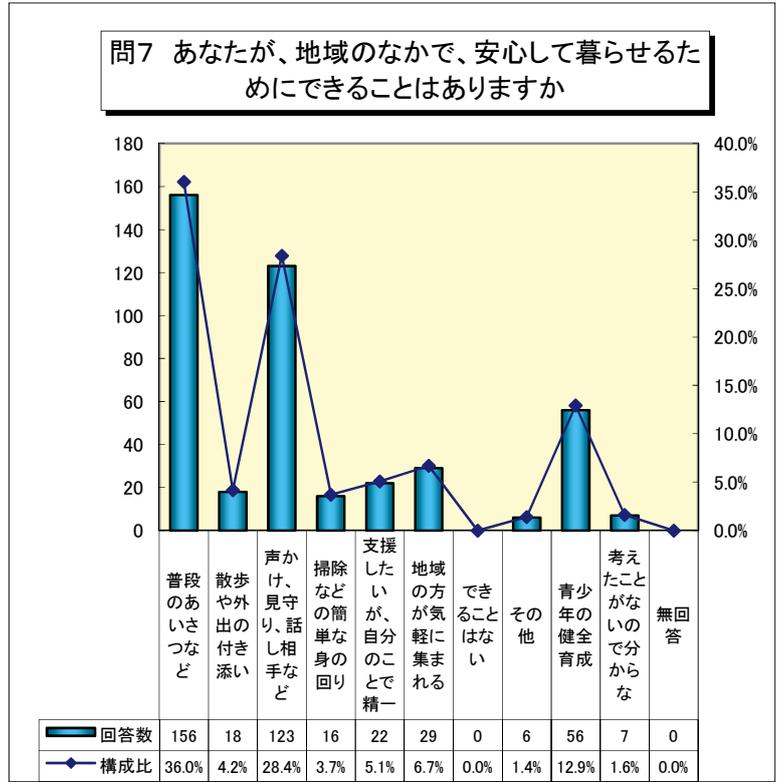
地域での役割や住民同士のつながりについて設問しているが日頃から助け合う関係でありたいと緊急時や災害時に助け合う関係でありたいの2つで、9割超えの回答となっており、何らかの形でつながりは求めている実情が伺えます。



問7 あなたが、地域のなかで、安心して暮らせるためにできることはありますか。（3つまで）

	回答数	構成比
普段のあいさつなど	156	36.0%
散歩や外出の付き添い	18	4.2%
声かけ、見守り、話し相手など	123	28.4%
掃除などの簡単な身の回りの世話	16	3.7%
支援したいが、自分のことで精一杯	22	5.1%
地域の方が気軽に集まれる場所の提供	29	6.7%
できることはない	0	0.0%
その他	6	1.4%
青少年の健全育成	56	12.9%
考えたことがないので分からない	7	1.6%
無回答	0	0.0%
計	433	100.0%

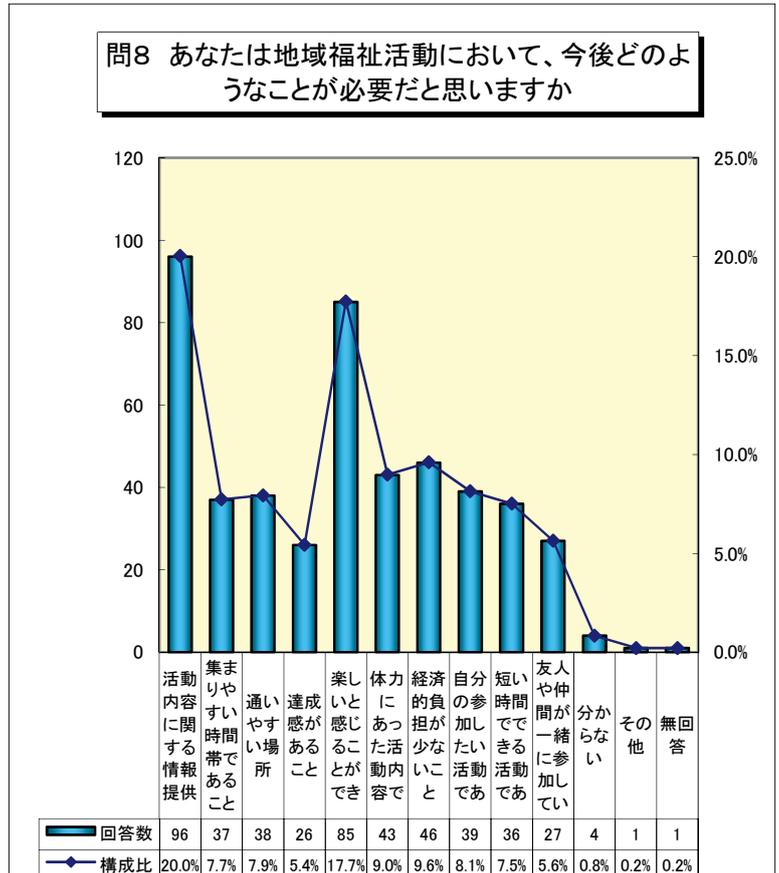
地域の中でできることについてですが、普段のあいさつと声かけ・見守り・話し相手が全体の6割を占める回答となっている。自分自身が少し手を伸ばせば実現できそうな分野だということを想定した回答ではないかと考えています。



問8 あなたは地域福祉活動において、今後どのようなことが必要だと思いますか。（3つまで）

	回答数	構成比
活動内容に関する情報提供	96	20.0%
集まりやすい時間帯であること	37	7.7%
通しやすい場所	38	7.9%
達成感があること	26	5.4%
楽しいと感じることができること	85	17.7%
体力にあった活動内容であること	43	9.0%
経済的負担が少ないこと	46	9.6%
自分の参加したい活動であること	39	8.1%
短い時間でできる活動であること	36	7.5%
友人や仲間と一緒に参加していること	27	5.6%
分からない	4	0.8%
その他	1	0.2%
無回答	1	0.2%
計	479	100.0%

地域福祉活動について、今後どのようなことが必要かについては、活動内容等に関する情報提供及び楽しいと感じる事ができることが、高い割合となっています。問5の分からないに回答された関係性から福祉活動の情報を伝えるということについて、どのような方法が良いのか今後の議論を要する部分だと考えています。

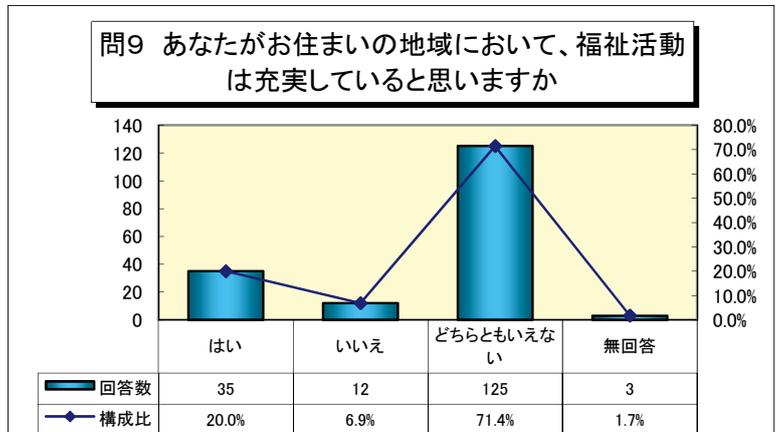


富谷町社会福祉協議会では、地域において、見守り、日常生活の支援、各種サロン活動等、様々な福祉活動を継続的に展開するための“地域コミュニティ”(地域での見守り・助け合い活動)の支援を計画しています。そこで、地域コミュニティについてあなたの考えを伺います。

問9 あなたがお住まいの地域において、福祉活動は充実していると思いますか。

	回答数	構成比
はい	35	20.0%
いいえ	12	6.9%
どちらともいえない	125	71.4%
無回答	3	1.7%
計	175	100.0%

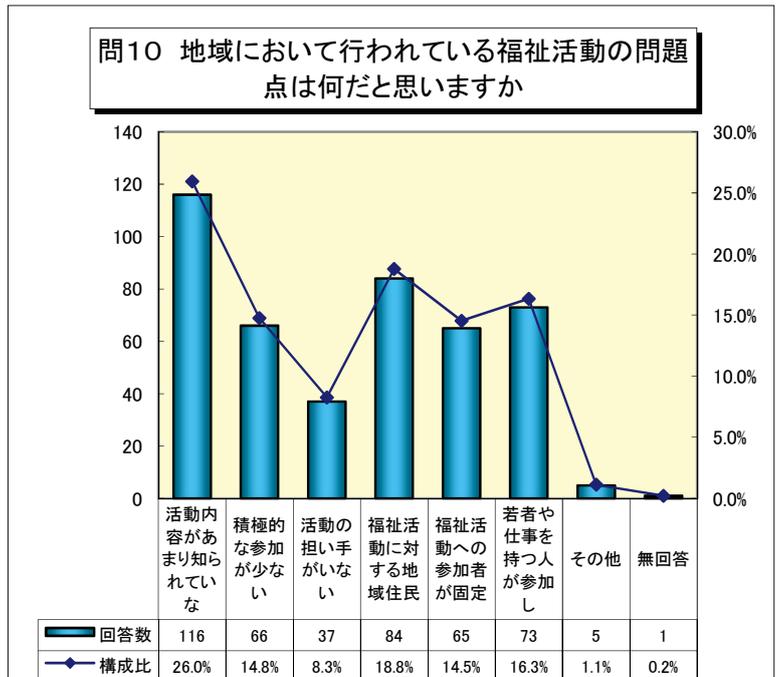
地域における福祉活動の充実についての設問では、一番回答が多かったのがどちらともいえないという方々が7割を超える部分で回答がありました。問5と同じくどのような活動が地域で展開されているのかわからないという方の回答が集中したのではないかと考えられます。



問10 地域において行われている福祉活動の問題点は何だと思えますか。(3つまで)

	回答数	構成比
活動内容があまり知られていない	116	26.0%
積極的な参加が少ない	66	14.8%
活動の担い手がいない	37	8.3%
福祉活動に対する地域住民の関心が低い	84	18.8%
福祉活動への参加者が固定化している	65	14.5%
若者や仕事を持つ人が参加しにくい	73	16.3%
その他	5	1.1%
無回答	1	0.2%
計	447	100.0%

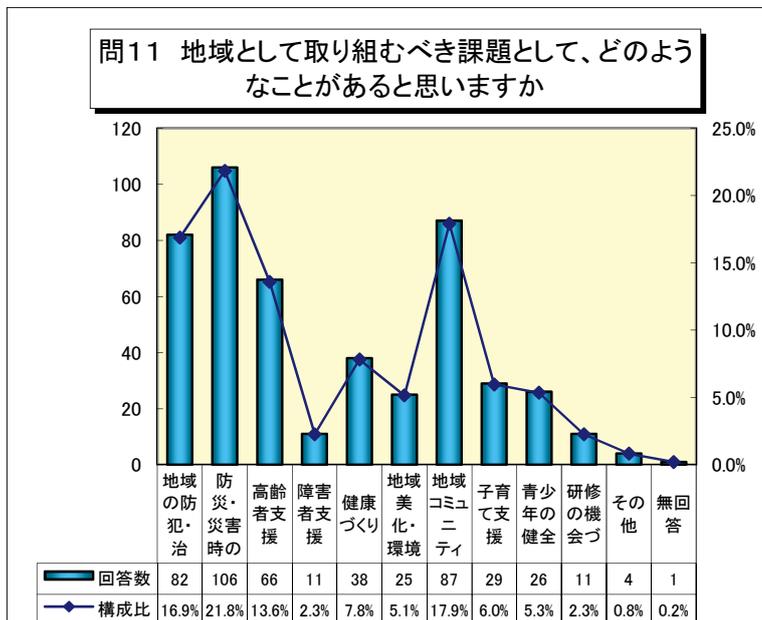
福祉活動の問題点については、地域住民の関心が低いことと活動内容があまり知られていないことが2つで4割程度の回答となっています。この問題点の解決には、社協だけではどうしようもない部分もあるため、意識啓発の事業等について、行政とも連携を図りながら進めていきたいと考えています。



問 1 1 地域として取り組むべき課題として、どのようなことがあると思いますか。（3つまで）

	回答数	構成比
地域の防犯・治安の向	82	16.9%
防災・災害時の対応	106	21.8%
高齢者支援	66	13.6%
障害者支援	11	2.3%
健康づくり	38	7.8%
地域美化・環境活動	25	5.1%
地域コミュニティづく	87	17.9%
子育て支援	29	6.0%
青少年の健全育成	26	5.3%
研修の機会づくり	11	2.3%
その他	4	0.8%
無回答	1	0.2%
計	486	100.0%

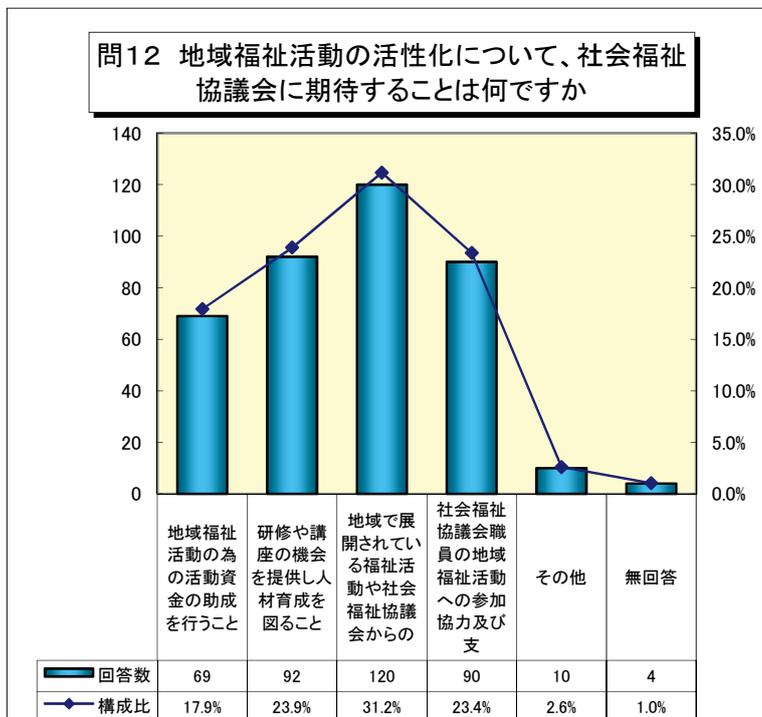
地域として取り組むべき課題としては、防災・災害時の対応と地域コミュニティづくりについての値が上位に位置づけられており、社協の現在の実施計画の中にもある部分の災害ボランティア体制整備と地域コミュニティづくりの部分の推進が改めて大切である事が結果からも分かります。



問 1 2 地域福祉活動の活性化について、社会福祉協議会に期待することは何ですか。（3つまで）

	回答数	構成比
地域福祉活動の為に活動資金の助成を行うこと	69	17.9%
研修や講座の機会を提供し人材育成を図ること（研修機会の提供）	92	23.9%
地域で展開されている福祉活動や社会福祉協議会からの幅広い情報提供を行うこと	120	31.2%
社会福祉協議会職員が地域福祉活動への参加協力及び支援を図ること	90	23.4%
その他	10	2.6%
無回答	4	1.0%
計	385	100.0%

地域福祉活動に対して、社協に期待する部分としては、社協からの情報提供の分野と人材育成の部分についての値が高く、ボランティア関係のアンケートの回答からも類似した傾向の回答が伺えた情報提供及び人材育成については、社協の共通の課題テーマであるといえる部分の為、今後の実施計画の中でしっかりと位置づけていく部分だと考えています。



問7 あなたがボランティア活動を行う上で困っていることは何ですか。(3つまで○)

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1 活動がマンネリ化してきている | 2 支援を必要とする人の情報が得にくい |
| 3 住民に情報発信する場や機会が乏しい | 4 高齢による活動の縮小化 |
| 5 地域のニーズに合った活動ができていない | 6 行政依存の意識がなかなか抜けない |
| 7 他のグループ・団体と交流する機会が乏しい | 8 会議や活動の場所の確保に苦勞する |
| 9 活動資金が足りない | 10 地域(町内会)の理解が乏しい |
| 11 その他 () | 12 特に困ったことはない |

問8 あなたはボランティアセンターをよく利用されますか。(1つに○)

- | | |
|-------------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
| 3 どちらともいえない | |
| (2 いいえの理由 |) |

問9 あなたは現在のボランティアセンターに対して改善すべき点は何だと思われますか。(1つに○)

- 1 地域で活動するボランティアやグループなどの活動を社協だよりまたはホームページ(インターネット等)で取り上げ情報発信に一層努める
- 2 地域でのボランティアニーズの把握及び掘り起こしを行い、活動内容の一層の充実に努める。
- 3 一部のボランティアのみが活動するのではなく、ボランティアセンター登録者に対して情報が提供できるようなシステムを構築するよう努める
- 4 ボランティア同士が気軽に情報交換や集まりを持てるような場所を確保するよう努める
- 5 その他 ()

問10 あなたが今後ボランティアセンターに期待することは何ですか。(3つまで○)

- | | |
|---------------------|--------------|
| 1 ボランティア登録・斡旋業務の効率化 | 2 活動の場の提供や開拓 |
| 3 活動への助言や支援 | 4 情報提供 |
| 5 地域住民の意識啓発 | 6 活動資金の助成 |
| 7 人材育成(研修機会の提供等) | 8 その他 () |

問11 ボランティア活動をさらに活性化させるために、今後ボランティアセンターではどのような取り組みが必要と考えますか。(1つに○)

- 1 個人・ボランティア団体間の交流機会の充実(イベントなど)
- 2 個人・ボランティア団体の人材育成の強化(研修や講座の実施など)
- 3 NPO団体等との連携へ向けた取り組み
- 4 グループ・団体の活動資金確保へ向けた情報提供や支援体制の充実
- 5 その他 ()

問12 その他、ボランティアセンターについて、あなたのお考えを自由にご記入ください。

以上でアンケートは終了です。ご協力誠にありがとうございました。

なお、大変お手数ではありますが、10月9日(水)までに

同封の返信用封筒にてご投函くださいますようお願い申し上げます。

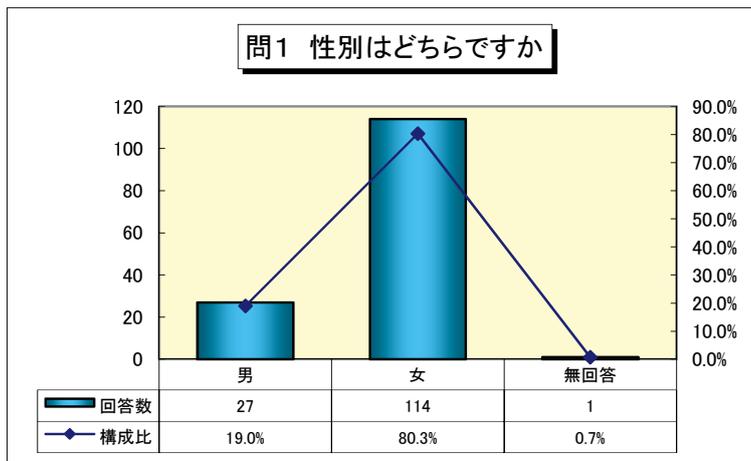
「ボランティアに関するアンケート調査」集計表

「あなた」についてお伺いします

問1 性別はどちらですか

	回答数	構成比
男	27	19.0%
女	114	80.3%
無回答	1	0.7%
計	142	100.0%

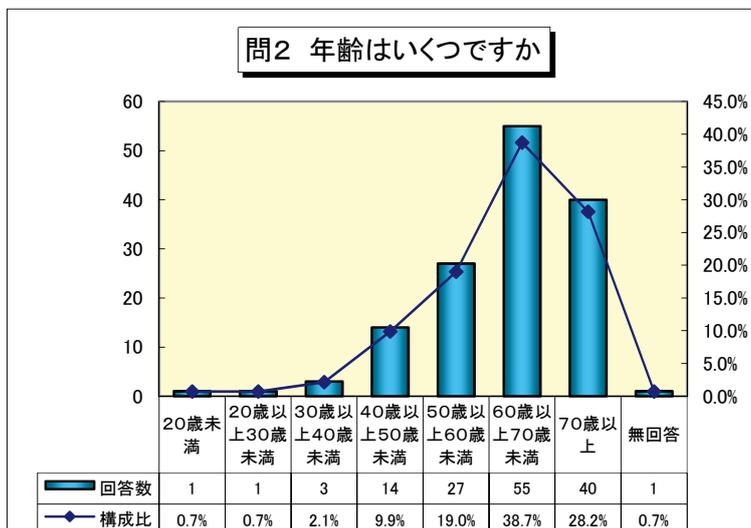
アンケート配布先がボランティアセンター登録者に限定している為、男女比に大きな差が生まれている。活動者として女性のほうが圧倒的に多い事が結果から考えられます。



問2 年齢はいくつですか

	回答数	構成比
20歳未満	1	0.7%
20歳以上30歳未満	1	0.7%
30歳以上40歳未満	3	2.1%
40歳以上50歳未満	14	9.9%
50歳以上60歳未満	27	19.0%
60歳以上70歳未満	55	38.7%
70歳以上	40	28.2%
無回答	1	0.7%
計	142	100.0%

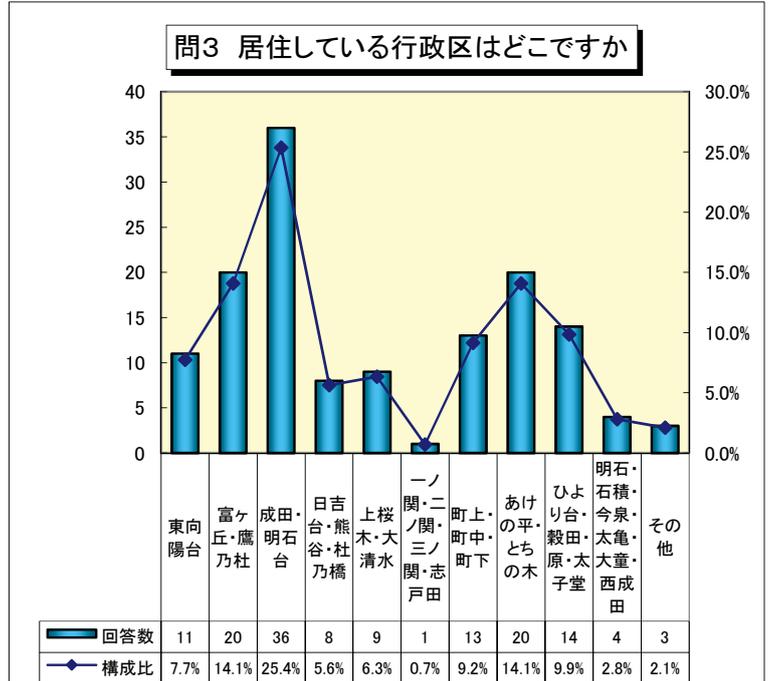
年齢を比較してみると、60歳以上の方々全体約6割を占めているとおおり、若年層のボランティア人材育成（団塊の世代）や掘り起しが急務である事が結果から考えられます。



問3 居住している行政区はどこですか

	回答数	構成比
東向陽台	11	7.7%
富ヶ丘・鷹乃杜	20	14.1%
成田・明石台	36	25.4%
日吉台・熊谷・杜乃橋	8	5.6%
上桜木・大清水	9	6.3%
一ノ関・二ノ関・三ノ関	1	0.7%
志戸田		
町上・町中・町下	13	9.2%
あけの平・とちの木	20	14.1%
ひより台・穀田・原・太子堂	14	9.9%
明石・石積・今泉・太	4	2.8%
魚・大童・西成田		
その他	3	2.1%
無回答	3	2.1%
計	142	100.0%

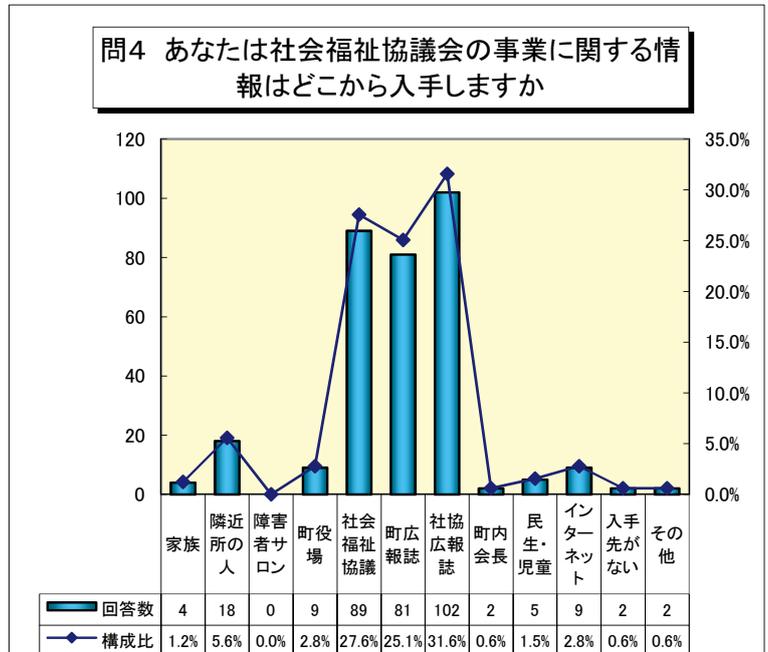
ボランティアセンター登録者に対して、送付しているのでデータ通りの回収となっている。



問4 あなたは社会福祉協議会の事業に関する情報はどこから入手しますか。(3つまで)

	回答数	構成比
家族	4	1.2%
隣近所の人・知人・友	18	5.6%
障害者サロン	0	0.0%
町役場	9	2.8%
社会福祉協議会	89	27.6%
町広報誌	81	25.1%
社協広報誌	102	31.6%
町内会長	2	0.6%
民生・児童委員	5	1.5%
インターネット	9	2.8%
入手先がない	2	0.6%
その他	2	0.6%
無回答	0	0.0%
計	323	100.0%

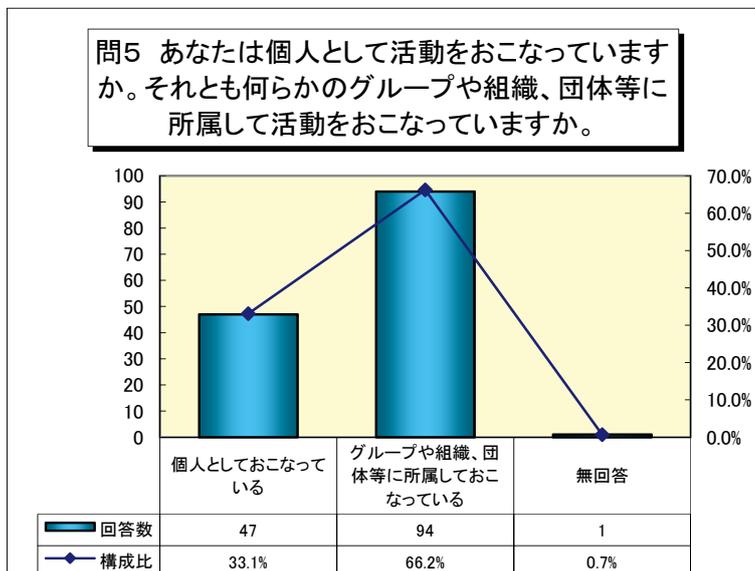
社協の情報入手先については、町広報誌と社協広報誌が高い値となっていますが、社協の窓口で直接情報を入手する値も高く、ボランティアの情報提供の意味合いもあるセンター機能としては多少の周知はあると考えられます。



問5 あなたは個人として活動をおこなっていますか。それとも何らかのグループや組織、団体等に所属して活動をおこなっていますか。

	回答数	構成比
個人としておこなっている	47	33.1%
グループや組織、団体等に所属しておこなっている	94	66.2%
無回答	1	0.7%
計	142	100.0%

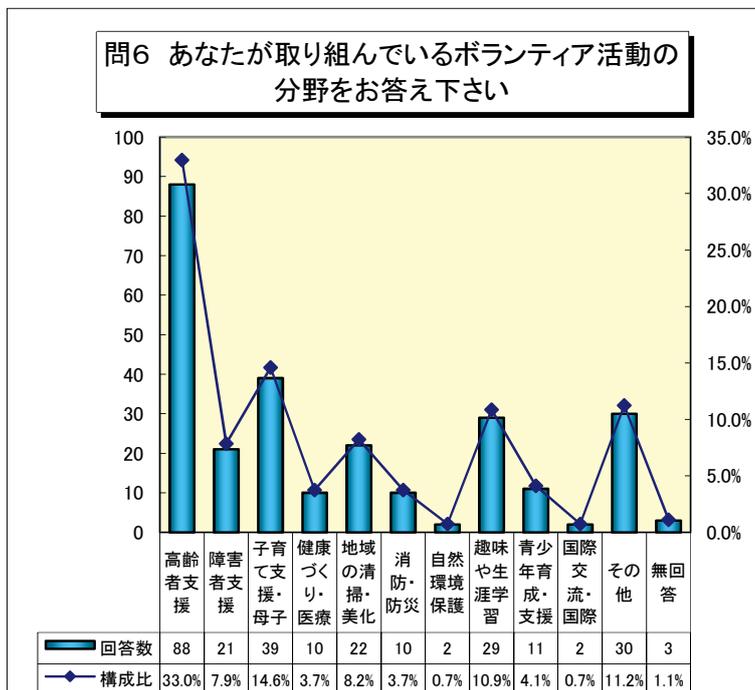
個人・グループの活動の形態については、登録どおりの結果となっています。



問6 あなたが取り組んでいるボランティア活動の分野をお答え下さい。（3つまで）

	回答数	構成比
高齢者支援	88	33.0%
障害者支援	21	7.9%
子育て支援・母子福祉	39	14.6%
健康づくり・医療	10	3.7%
地域の清掃・美化、地域おこし	22	8.2%
消防・防災・防犯・災害支援	10	3.7%
自然環境保護・リサイクル	2	0.7%
趣味や生涯学習、スポーツ指導	29	10.9%
青少年育成・支援	11	4.1%
国際交流・国際協力	2	0.7%
その他	30	11.2%
無回答	3	1.1%
計	267	100.0%

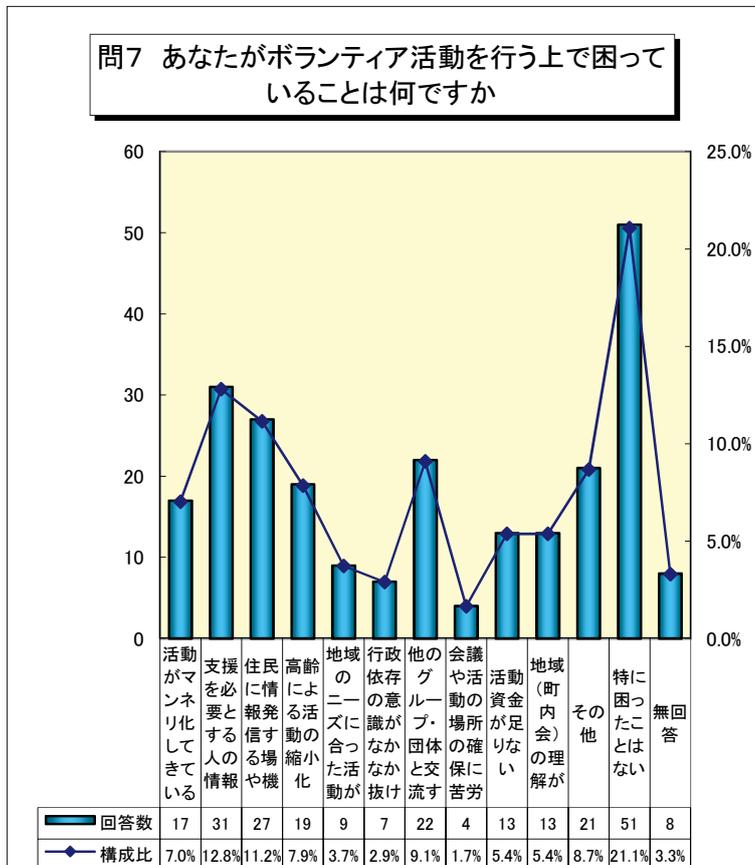
ボランティア活動分野については、登録者の状況と比例しての結果となっており、高齢者支援・子育て支援分野が高い値を示している。しかし、災害体制整備の中の災害ボランティアについては、結果から見るとおり低い値となっており、ニーズに応じた人材育成も必要ではないかと考えられます。



問7 あなたがボランティア活動を行う上で困っていることは何ですか。

	回答数	構成比
活動がマンネリ化してきている	17	7.0%
支援を必要とする人の情報が得にくい	31	12.8%
住民に情報発信する場や機会が乏しい	27	11.2%
高齢による活動の縮小	19	7.9%
地域のニーズに合った活動ができていない	9	3.7%
行政依存の意識がなかなか抜けない	7	2.9%
他のグループ・団体と交流する機会が乏しい	22	9.1%
会議や活動の場所の確保に苦労する	4	1.7%
活動資金が足りない	13	5.4%
地域（町内会）の理解が乏しい	13	5.4%
その他	21	8.7%
特に困ったことはない	51	21.1%
無回答	8	3.3%
計	242	100.0%

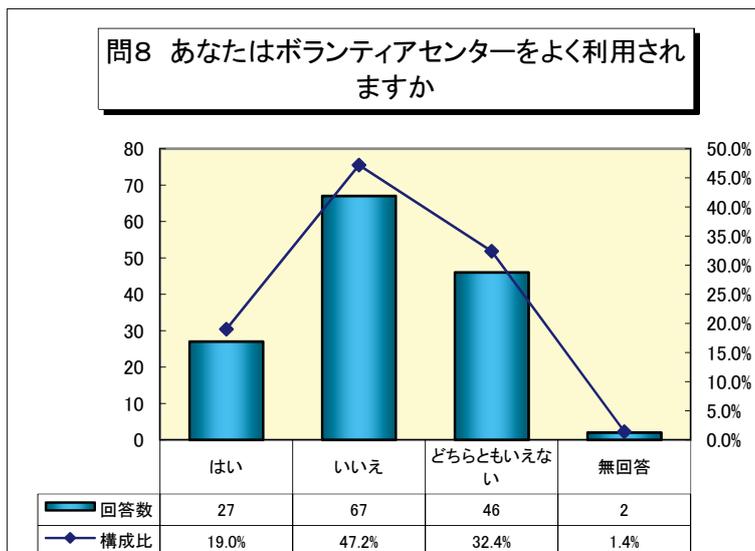
活動を行う上での困りごとですが、一番高い値が特に困ったことはないとの事で、次いで支援を必要とする人の情報が得にくいと続いている。困ったことはないとの要因としては、独自に活動している方が増え、人や情報に頼らないで活動をしているかボランティアセンター機能が認知されていない実情から、この回答に行き着いたのではないかと考えられます。



問8 あなたはボランティアセンターをよく利用されますか

	回答数	構成比
はい	27	19.0%
いいえ	67	47.2%
どちらともいえない	46	32.4%
無回答	2	1.4%
計	142	100.0%

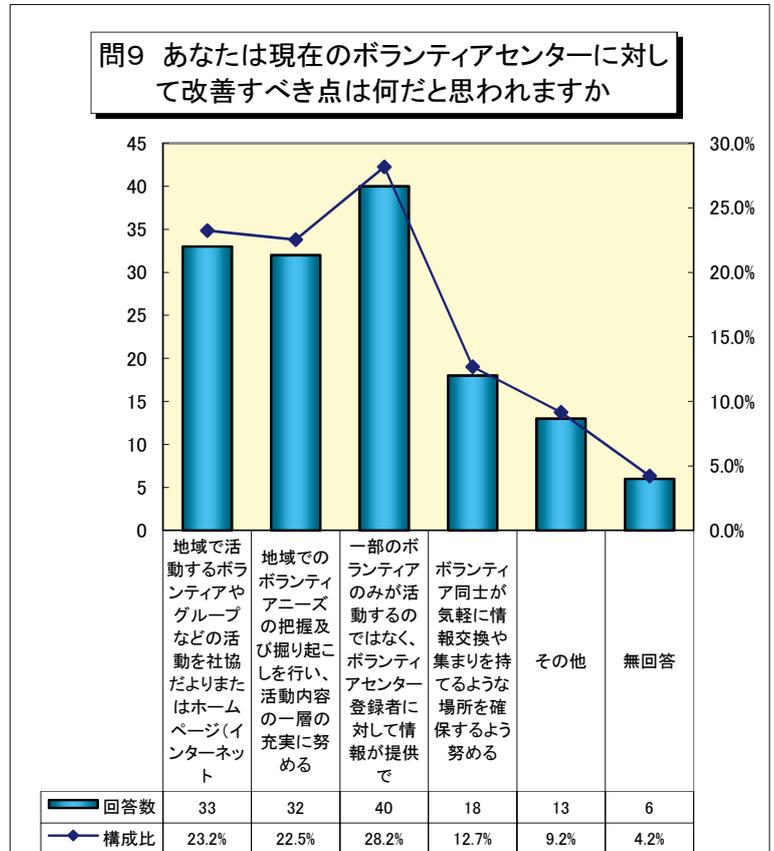
ボランティアセンターの利用有無については、いいえ及びどちらともいえない2つの合計が8割を超えており、センター機能の認識理解不足が結果からも顕著に現れている。急激な改善は難しい為、少しずつであるが、広報や周知徹底及び登録利用する事によってのメリットについて、説明を地道に行っていく事が必要であると考えられます。



問9 あなたは現在のボランティアセンターに対して改善すべき点は何だと思われますか。

	回答数	構成比
地域で活動するボランティアやグループなどの活動を社協だよりまたはホームページ（インターネット等）で取り上げ情報発信に一層地域でのボランティアニーズの把握及び掘り起こしを行い、活動内容の一層の充実に努め一部のボランティアのみが活動するのではなく、ボランティアセンター登録者に対して情報が提供できるようなシステムを構築する上ボランティア同士が気軽に情報交換や集まりを持てるような場所を確保するよう努める	33	23.2%
地域でのボランティアニーズの把握及び掘り起こしを行い、活動内容の一層の充実に努め一部のボランティアのみが活動するのではなく、ボランティアセンター登録者に対して情報が提供できるようなシステムを構築する上ボランティア同士が気軽に情報交換や集まりを持てるような場所を確保するよう努める	32	22.5%
一部のボランティアのみが活動するのではなく、ボランティアセンター登録者に対して情報が提供できるようなシステムを構築する上ボランティア同士が気軽に情報交換や集まりを持てるような場所を確保するよう努める	40	28.2%
ボランティア同士が気軽に情報交換や集まりを持てるような場所を確保するよう努める	18	12.7%
その他	13	9.2%
無回答	6	4.2%
計	142	100.0%

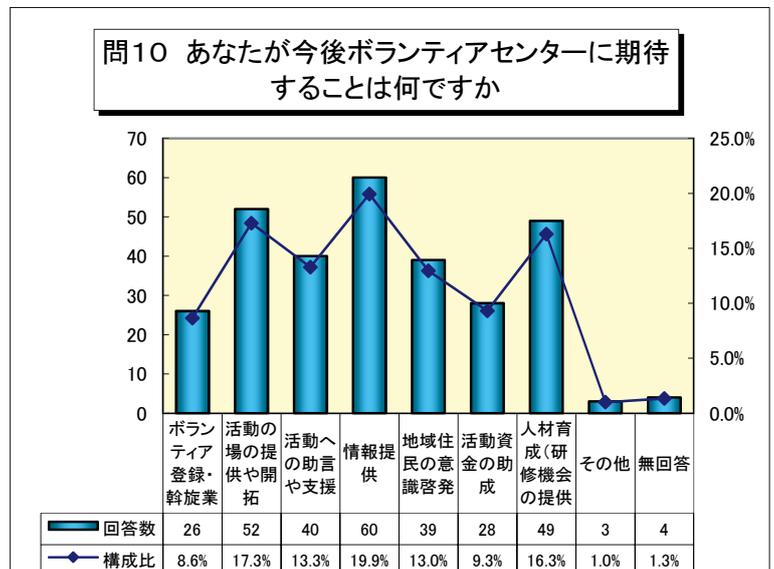
ボランティアセンターの改善点についてですが、一部のボランティアのみが活動するのではなく、ボランティアセンター登録者に対して情報が提供できるようなシステムを構築できるような努めるということで、社協として「地域に向く」という点において、十分ではない点がアンケートの声としてそのまま反映されたと考えられます。今後は地域の社協役員（理事・評議員・推進委員長）の方々とも協議を行いながら、改善点について検討を行っていく必要があります。



問10 あなたが今後ボランティアセンターに期待することは何ですか。

	回答数	構成比
ボランティア登録・幹	26	8.6%
活動の場の提供や開拓	52	17.3%
活動への助言や支援	40	13.3%
情報提供	60	19.9%
地域住民の意識啓発	39	13.0%
活動資金の助成	28	9.3%
人材育成（研修機会の提供等）	49	16.3%
その他	3	1.0%
無回答	4	1.3%
計	301	100.0%

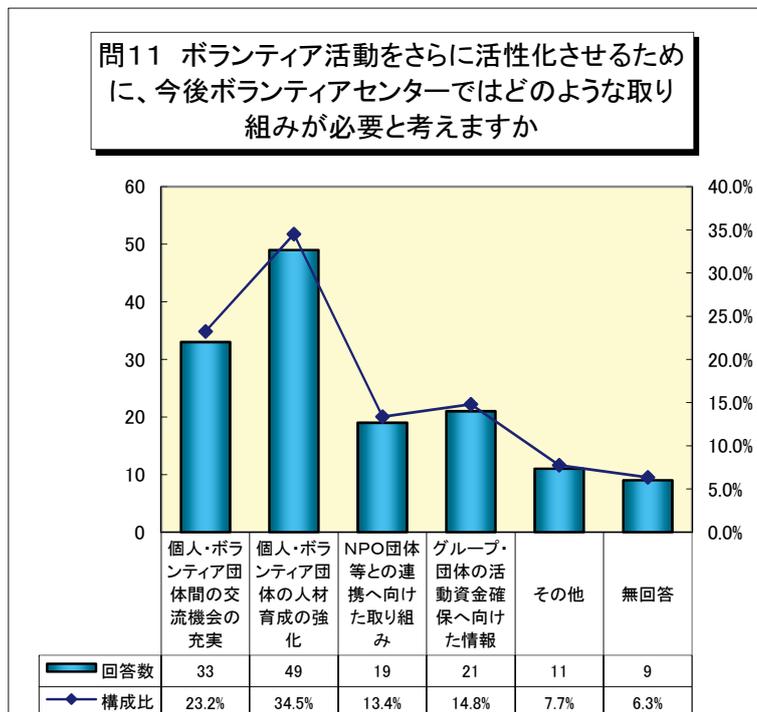
今後ボランティアセンターに期待する事についてですが、情報提供の次に割合として高いのが、活動の場の提供や開拓の結果となりました。活動者自身が現在の活動に対して、どのような課題を抱えているのかを社協として把握しながら、適切な支援を行っていく事が改めて大切であるという結果となっています。



問11 ボランティア活動をさらに活性化させるために、今後ボランティアセンターではどのような取り組みが必要と考えますか。

	回答数	構成比
個人・ボランティア団体間の交流機会の充実	33	23.2%
個人・ボランティア団体の人材育成の強化 (研修や講座の実施など)	49	34.5%
NPO団体等との連携 へ向けた取り組み	19	13.4%
グループ・団体の活動 資金確保へ向けた情報 提供や支援体制の充実	21	14.8%
その他	11	7.7%
無回答	9	6.3%
計	142	100.0%

今後のボランティアセンター活動についての設問ですが、個人・ボランティア団体の人材育成の強化が3割の回答ということで、社協に対するボランティアの育成を求める意見が改めて高い事が結果として現れています。この声を受け止めながら、社協としてニーズに応じたボランティア養成に答える必要があると考えられます。



あなたのお声を聞かせてください！

富谷町社会福祉協議会福祉座談会

日 時 平成25年10月5日（土） 11時00分 ～ 12時30分

場 所 成田七丁目会館

福祉座談会では、こんな話を聞かせて下さい！

☆現在皆さんが参加している社協の福祉サービスを知っていますか？

☆皆さんの地域では、どんな活動を行っていますか？

☆地域の活動で、社会福祉協議会に支援して欲しいことは何ですか？

など福祉に関すること

本日の内容

1. 社会福祉協議会長あいさつ
2. 町内会長あいさつ
3. 社協とは！の説明
4. グループでの座談会
5. 全体のまとめ・閉会のあいさつ

本日はお忙しい中お越しいただき誠にありがとうございます。

〈説明資料①〉

富谷町社会福祉協議会における 地域福祉活動推進計画概要について

地域における「社会福祉」:「地域福祉」とは？

従来の「福祉」は、社会的に弱い立場の人を
行政が支援するものと捉えられていました



- ニーズの多様化(少子高齢化、核家族化等)
- 福祉施設整備から在宅福祉へ
- 向三軒両隣の希薄化、我関せず...

「地域での支え合い・助け合いによる福祉」が
重要になっています。

「地域福祉」の推進にあたってのキーワード

じしょ 自助	個人や家族による支え合い・助け合い 自分でできることは自分でする
まようじょ 共助	地域社会における相互扶助 隣近所や友人・知人とお互いに支え合い・助け合う 地域活動や地域ボランティア、社会福祉法人などによる支え 「地域ぐるみ」で福祉活動に参加し、地域全体で助け合い、支え合う
こうじょ 公助	公的な制度としての保健・福祉・医療その他の 関連施策に基づくサービス提供 行政でなければできないことは、行政がしっかりとる

計画策定の目的

- (1) 長期的展望に立って富谷町社会福祉協議会としての基本理念を示す。
- (2) 当面する課題について段階的な計画の策定と実践活動を進める。
- (3) 住民の福祉ニーズが多様化している中、現状を把握し、体制整備を整える。

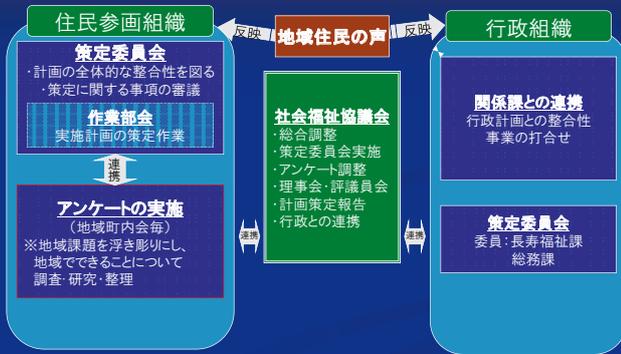
計画の期間

- 検討期間
平成18年12月～平成20年3月(1年4ヶ月)
- 計画期間
平成20年度～平成29年度(10ヶ年)

計画の枠組み

- 基本理念・基本目標・基本計画(10年)
- 実施計画: 3～4年
- 前期: 平成20年度～平成22年度(3年)
- 中期: 平成23年度～平成25年度(3年)
- 後期: 平成26年度～平成29年度(4年)

計画策定組織構図



基本理念

(地域福祉活動推進計画は、平成20年度を初年度とし、10年後の平成29年度を目標年次とします。基本理念は、地域福祉推進の指針を明らかにしたものです。)

心ふれあう暮らしやすい
福祉のまちづくり

基本目標(4つの柱)・基本計画

(基本目標・基本計画は、基本理念に定められた将来像を実現する為に、必要な諸施策を体系的に明らかにしたものです。)

基本目標1(助け合いの心)

「住民参加による福祉のまちづくり」

基本計画

- (1) 広報活動の充実
- (2) 福祉教育活動の充実
- (3) 交流の場・機会づくりの推進
- (4) 地区コミュニティづくりの展開

子育てサロン「とことこ」



対象 - 0歳児～3歳児

概要 - サポーターにより、各自治会館等でサロン活動を行う。

夏休み福祉体験教室



対象 - 町内の小・中学生

概要 - 2日間の開催で、福祉について考え、体験を行う。

基本目標2(地域ぐるみ)

「共に支え合う福祉のまちづくり」

基本計画

- (1) ボランティアセンターの充実
- (2) 災害ボランティア体制整備
- (3) 地域福祉活動の人材確保と育成
- (4) 福祉関係機関との連携および活動支援

ボランティアセンター



対象－ボランティア

概要－活動をしたいまたは必要な方をつなぐ相談機関。

災害体制整備



対象－一般住民

概要－幅広い方々に日頃の備えに対する啓発活動を行う。

基本目標3(地域福祉事業)

「安心して暮らせる福祉のまちづくり」

基本計画

- (1) 相談支援機能の強化
- (2) 福祉ニーズの発見と福祉サービスの充実

給食サービス事業(町受託事業)



対象－65歳以上の一人・二人暮らし高齢者(受託事業)

概要－栄養面・安否確認の観点から、昼食を宅配する。

虹いろ会食サロン(町受託事業)



対象－65歳以上の一人暮らし世帯

概要－公民館単位を会場に月に1回の会食交流。

生活安定資金・生活福祉資金

対象－生活困窮者・高齢者・障害者・低所得世帯

概要－生活安定資金は、富谷町社協自主事業で行っており、貸付限度額は5万円まで、あくまでも小口の貸付となる。生活福祉資金は、市町村社協が受付窓口となり、県社協の貸付審査会にて貸付決定となる。

生活相談

対象－一般住民

概要－月2回(第2・4金曜日)に、役場を会場に相談を行う。行政相談員・人権擁護委員・生活相談員により、家庭問題や借金・詐欺等の相談が寄せられている。

基本目標4(礎)

「安定した地域福祉のまちづくり」

基本計画

- (1) 地域福祉活動推進計画の進行管理
- (2) 経営・財政基盤の強化
- (3) 事務局体制の整備
- (4) 事業推進体制の整備

情報発信(IT活用等)



対象－一般住民

概要－幅広い広報活動の観点から、情報発信を行う。

計画を審議する(策定委員会)

- 策定委員会(14名で構成)

地域福祉活動推進計画の策定に関して、行政計画との整合性や現状の事業の見直しを計る為、策定委員会を設置し、審議及び計画策定を行いました。

5年前初期策定の流れ(概要)

- 策定委員選任
- 計画諮問(会長より)
- アンケート実施
- アンケート集計
- 課題整理・住民ニーズ把握
- 計画の枠組みの作成
- 各部門ごとの計画策定
- 計画調整・答申(委員長より)

2年前見直し策定の流れ(概要)

- 策定委員選任
- 計画諮問(会長より)
- 現状事業評価
- アンケート実施
- アンケート集計
- 課題整理・住民ニーズ把握
- 計画の枠組みの作成
- 実施計画策定
- 計画調整・答申(委員長より)

見直し重点項目は???

- 地域コミュニティづくりの展開
- 地域福祉活動の人材確保と育成
- 相談支援機能の強化

皆さんの声を聞かせてください！

- 目的
 - ①中期実施計画の実施効果の把握
 - ②地域における課題の明確化
 - ③新たな福祉ニーズの把握

皆さんの声を聞かせてください！

- アンケート調査
 - ①地域住民 各町内会5名
 - ②ボランティアセンター登録者
 - ③高齢者福祉事業対象者
 - ④障害者福祉事業対象者
 - ⑤子育て福祉事業対象者

皆さんの声を聞かせてください！

- 福祉座談会
 - ①町上 ②鷹乃杜 ③成田第三テーマ：
 - ・社協の福祉サービスを知っていますか？
 - ・地域でどんな活動を行っていますか？
 - ・社協に支援して欲しいことは？ 等

福祉座談会テーマ1

現在皆さんが参加している社協の福祉サービスを知っていますか？

- 社協の福祉サービスとは・・・
 - 虹いろ会食サロン・さわやか交流会
 - ボランティア活動・資金貸付事業 等

⇒これからどんな福祉サービスが必要となるか
⇒今より強化すべきもの、見直すべきもの
⇒もっと社協が力を入れるべきところは？

福祉座談会テーマ2

地域でどんな活動を行っていますか？

- どのような福祉活動を行っていますか？
 - 特にご近所ではどのような福祉活動を行っていますか？
 - 見守り・パトロール・行事・・・

今後どのような福祉活動が必要ですか？
また行いたいと思いますか？

福祉座談会テーマ3

地域の活動で社協に支援して欲しいことはなんですか？

- 地域の活動を活性化するために社協にバ
支援して欲しいことはありますか？

例えば・・・

催し物(演芸)ボランティアを紹介して欲しい
行事に使う備品を貸してほしい 等

最後に

- 活動計画とは「社協の顔」となるもの
- 時には計画にとらわれない自由さも大切
- 社協は地域のきっかけづくり(仕掛けづくり)
- 常に地域の活動にアンテナを張りながら
(ニーズ把握)

成田第三町内会の皆様
よろしくお願いいたします

〈説明資料②〉

富谷町社会福祉協議会 地域福祉活動推進計画における アンケート結果概要について

5年前初期策定の流れ(概要)

- 策定委員選任
- 計画諮問(会長より)
- アンケート実施
- アンケート集計
- 課題整理・住民ニーズ把握
- 計画の枠組みの作成
- 各部門ごとの計画策定
- 計画調整・答申(委員長より)

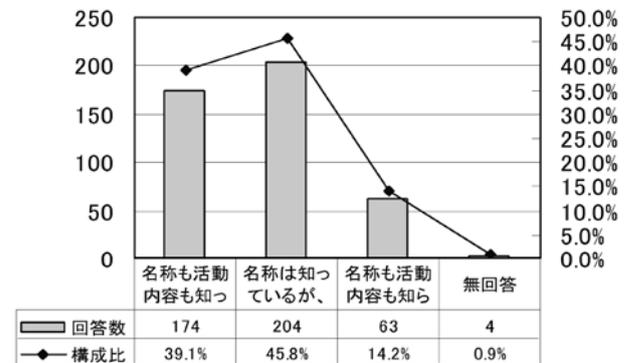
地域の声を聞いてみよう！

- アンケート調査(5年前のアンケートから)
地域福祉活動推進計画の策定に関して、現在の活動状況・事業の現状を把握し、住民の方々から幅広いご意見やご要望を伺うため、社協会員台帳の中から抽出した1割程度の世帯を対象にアンケート調査

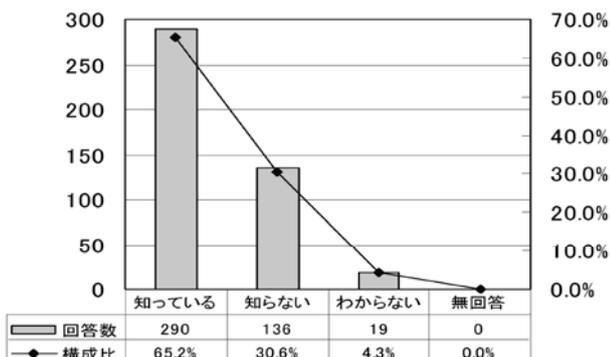
調査期間：平成19年4月23日～5月11日

配布数：1,117人 回収数：445人 39.8%

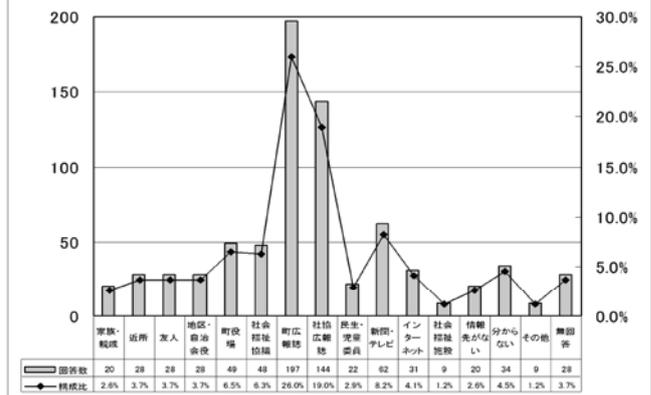
問 8 富谷町社会福祉協議会の名称や活動内容を知っていますか



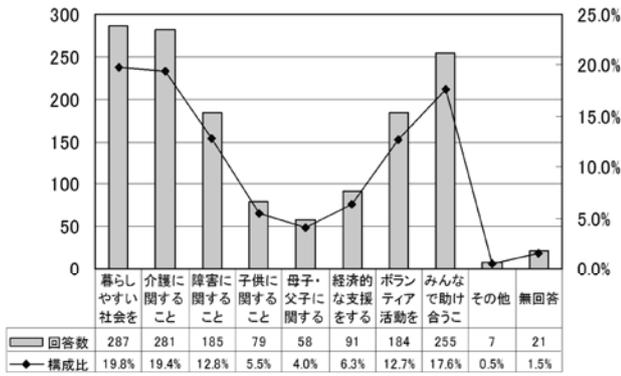
問10 富谷町社会福祉協議会の財源の一部が住民の皆さんの会費で運営されていることを知っていますか



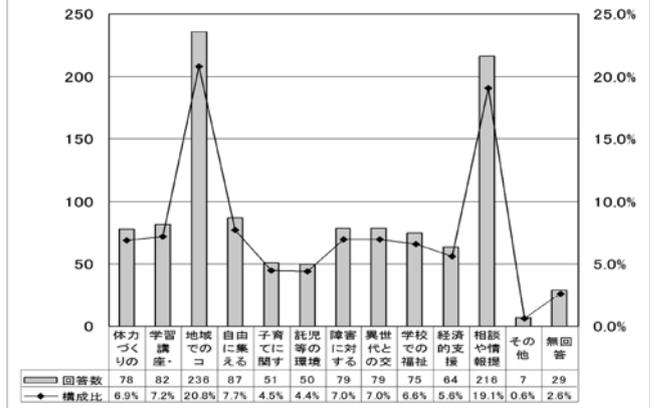
問13 福祉サービスに関する情報を主にどこから得ていますか(2つまで)



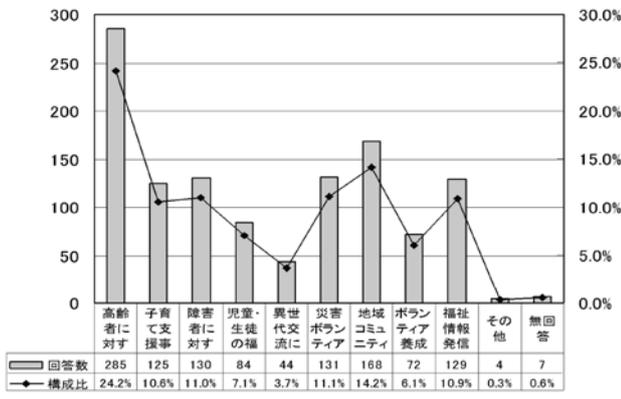
問16 あなたにとって「福祉」という言葉はどのようなイメージですか(該当するもの全て)



問18 みなさんが地域で生活を送るうえで、大切なことはどれですか(3つまで)



問20 あなたが今後富谷町社会福祉協議会に期待する事業はどれですか(3つまで)



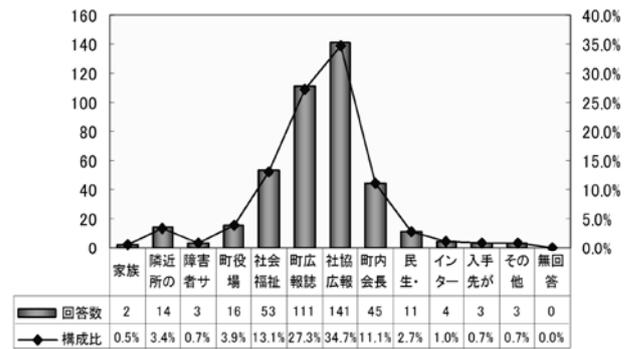
2年前見直し策定の流れ(概要)

- 策定委員選任
- 計画諮問(会長より)
- 現状事業評価
- アンケート実施
- アンケート集計
- 課題整理・住民ニーズ把握
- 計画の枠組みの作成
- 実施計画策定
- 計画調整・答申(委員長より)

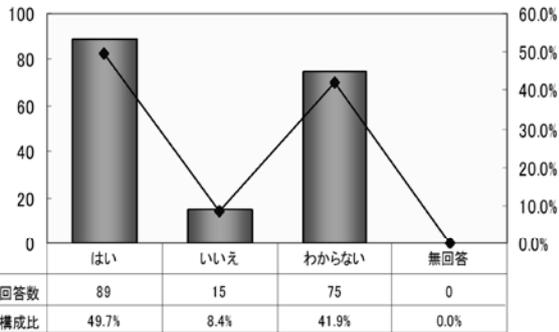
地域の声を聞いてみよう!

- アンケート調査(2年前のアンケートから)
- 今回は、平成20年度策定の推進計画に対して、地域の方々がどのような感想・印象を持ったかなど、多少なりとも総論的な部分で地域の声を集める手法を取ったほうが、今後の実施計画策定にあたっての参考になると考える。また、実施計画の中で重点的に強化すべき項目として、挙げられた地域コミュニティ関係(富谷町総合計画の部分と連携しながら)及びボランティア関係については、事業に関わりのある関係者だけではなく、社協としても大切な地域住民の方々の意見を反映した方が良いとの判断から、アンケート調査に含めたものとして実施する。
- 調査期間:平成22年11月1日~11月22日
配布数:220人 回収数:180人 81.8%

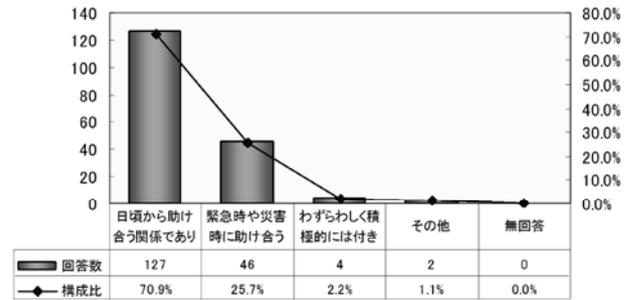
問4 あなたは社会福祉協議会の事業に関する情報はどこから入手しますか



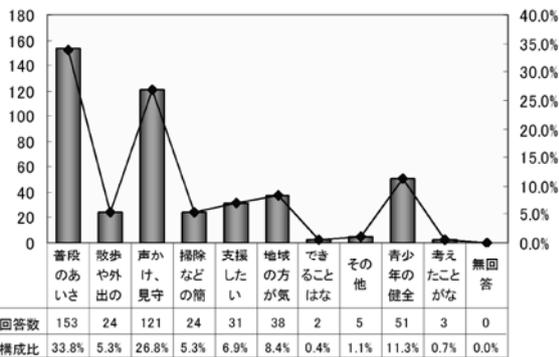
問5 あなたは今後、地域福祉活動の一員として活動に参加する意志はありますか



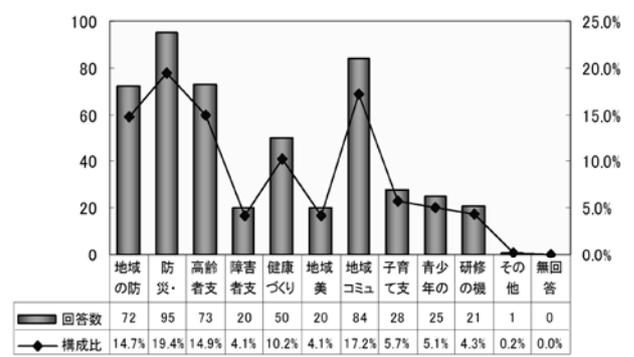
問6 あなたは、今後の生活の上でどのような支援が必要だとお考えですか。日頃、地域での役割や住民同士のつながりについて、どのようなお考えをお持ちですか



問7 あなたが、地域のなかで、安心して暮らせるためにできることはありますか



問11 地域として取り組むべき課題として、どのようなことがあると思いますか



福祉座談会報告書

平成25年9月12日

日時及び場所	平成25年9月10日(火) 15時00分～16時20分 富谷町町上会館
出席者	策定委員会委員：豊田正利・坂内玲子・奥山吉信 富谷町社協：山田吉邦・阿部忠・佐々利春
件名	町上町内会福祉座談会 参加者20名
内 容	
<p><協議内容></p> <p>(1) 社協の福祉サービスを知っていますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社協では具体的に何を行っているのか分からない ・福祉を一つの組織で担うほうが望ましいと思う時がある ・社協で新しい事業を行ってみてはどうか ・社協では受託事業ばかり担っているように見える ・地域コミュニティ作りの展開として、住民の意識が高められるように社協が巡回パトロールすればいいのではないか ・福祉全般を網羅するのではなく、特定の事業を強化した方がいいのではないか ・社協のPRをもっとすべきではないか ・地域に出向いて現状、実態をさらに知りたい <p>(2) 地域でどんな活動を行っていますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登下校時のパトロール ・ゆとりすとサロン ・サークル活動(手芸サークル) ・防災訓練(春、秋) ・旗を使用した安否確認 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>(3) 地域の活動で、社協に支援してほしいことは何ですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動において、各年代の人が動ける体制を作ってほしい ・ゆとりすととの研修の頻度を増やしてほしい ・子どもを預かる事業をしてほしい ・一人暮らし高齢者は手段や体調により参加できないこともあるため、田舎や団地を中心に出席講座を行ってほしい ・田舎の方は交通手段がないため、交通面の支援をしてほしい ・地域主体の行事の際の援助や宣伝を行ってほしい ・若い世代の人が活躍できるシステム作りをしてほしい ・団塊の世代が中心となることができるボランティアを作ってほしい ・町上町内会では会長を中心に活発に動いているので、他地区に紹介(P.R)してほしい ・民生委員の役割が大きすぎる。どこまで関わるべきか、加減が分からないボランティアなので各地域で差が生まれると思う ・資格を持っているのに活かす場がないのでぜひ活動の場づくりを！ ・ボランティアが高齢化しているが、ボランティアをされている方から、若いと言われる。研修には行けてもそのような声があると活動がしにくい ・「社協にバックアップしてほしいこと」を聞かれてもなかなか思いつかないため、「社協ではこれをします、出来ます」ということを逆に教えてほしい 	

福祉座談会報告書

平成25年10月1日

日時及び場所	平成25年9月29日（日）10時00分～11時30分 富谷町鷹乃杜防災センター
出席者	策定委員会委員：門間とも子・大童英雄・岩田士郎・西昌夫 富谷町社協：山田吉邦・佐々利春
件名	鷹乃杜地区福祉座談会 参加者45名
内 容	
<p><協議内容></p> <p>(1) 社協の福祉サービスを知っていますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さわやか交流会・二人暮らし交流会（夫婦だけ） ・配食サービス ・会費徴収のみで、使いみちは知らない（班ごとに徴収方法違う） ・一人暮らし、二人暮らし高齢者事業を別々にやっているのはどうかと思う ・生活福祉資金・生活安定資金貸付は知らない ・子育てサロン「とことこ」は名前だけは良く耳にする ・車椅子貸与事業は知っている ・福祉助成金はあまり知らない ・社協と役場の違いがあまり分からない（守秘義務等はどうなっているのか） ・社協職員の身分（補助金）はどうなのか分からない ・事務所の所在が分からない ・最近まで現役なので、社協という言葉は知っているが、内容は全く知らない ・虹いろ会食サロン（該当していない方は分からない） ・ここまで様々な事業をしているとは知らなかった ・調理ボランティアつくし会の配食サービス ・名前を知っていても、内容は知らなかった ・社協だよりの事業紹介にて知った ・予算が少なく大変だと思った。だからこそボランティアの必要性が大きいことを感じた <p>(2) 地域でどんな活動を行っていますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動 ・パトロール ・一斉清掃・資源回収（毎月） ・夏祭り ・グラウンドゴルフ ・交通安全講習会 ・芋煮会 ・敬老会 ・餅つき ・どんと祭 ・ゆとりすと ・ワンコインのつどい ・防災訓練（11月） ・救命講習 ・虹いろ会食サロン ・傾聴ボランティア ・交通安全指導、学校通学路サポート ・婦人防火クラブ 	

(3) 地域の活動で、社協に支援してほしいことは何ですか？

- ・災害、防災用品の貸出
- ・一人暮らし、二人暮らし高齢者には支援があるが、日中独居、日中高齢夫婦の二人暮らし（籍だけある単身赴任の息子がいる等も含む）の方には支援がないのは不公平ではないか。見守り支援や、年齢で支援するのはどうかと考える。
- ・町内会単位での地域活動の人材の養成
- ・地域と社協の関わりをもっと強く（地域づくり、コミュニケーションづくり）
- ・近所づきあい
- ・男性の地域活動への参画（ゆとりすと・ボランティア）
- ・買い物支援サービス
- ・生活支援 PR
- ・死亡した時の相談（一人暮らし）
- ・情報を知る機会が、民生委員、広報だけではなく考えてほしい
- ・地域のつながり（情報を知るため）
- ・移動支援
- ・社協の中身が分からないので何とも言えない
- ・行政の一環であると思っている人もいるため、広報をもっとしてほしい
- ・民生委員、町内会長との連絡を密にし、町内会の力を活かしてほしい
- ・ショートステイやサービスが利用できるのか、分からない。情報を伝えてほしい
- ・杜の風やいちいの杜等の福祉施設入所要件、費用等の情報がほしい
- ・老人クラブにおける助成を今後も継続してほしい
- ・ベッドの貸し出しを復活してほしい
- ・地区で活発に動いているため、思い浮かばない
- ・会費納入について、地域毎の格差の原因分析を行い、会費納入率を高めてほしい
- ・会費を払いたいが払えない方に対して減免をして会員に入れてほしい
- ・助成について、申請式なのか自動的にもらえるのかがわからないため、情報がほしい
- ・社協だよりの表紙だけでもインパクトのあるものにしたらどうか
- ・さわやか交流会は広報のみの PR となっているが、以前のように個別連絡してほしい
- ・若い人材の協力がほしい
- ・イオン等の地域資源でも交流をし、地域とのコミュニケーションをとっていただきたい
- ・「共助」が大切ということで、納得できないと会費が集まらない
- ・集まった予算で事業をどう展開するかが福祉なのではないか
- ・75歳以上が町内会には260人いる、一人暮らしも増加傾向にあるため、支援が必要
- ・社協は行政の橋渡し役的な役割という認識でいるため、きちんとその役割を果たしてほしい。必要な情報は繋いでいただき、福祉事業に反映させるなど、そのような役割を果たすだけでも私達への社協の伝わり方はだいぶ変わってくると思う。社協は「マッチング」「コーディネート」が一番だと思う。



福祉座談会報告書

平成25年10月1日

日時及び場所	平成25年10月5日（土） 11時00分～12時30分 富谷町成田七丁目会館
出席者	策定委員会委員：内ヶ崎 武・豊田正利・川口清子・西塚國彦 富谷町社協：山田吉邦・佐々利春
件名	成田第三地区福祉座談会 参加者 60名
内 容	
<p><協議内容></p> <p>(1) 社協の福祉サービスを知っていますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練をやりました ・よく分からない ・成田は人口が多いが、隣の人が分からないなどコミュニティがとれているとは言えない ・行政の手の届かない部分のサービスをしている ・成田は若い人が多い→子育て支援 ・給食サービスは知らなかった（周知すべき） ・とことこは知っていた ・周知方法 ・受け身ではなく、訪問して聞き取りすべき ・会費（個別納入） ・直接関わっていないのではないか？ ・高齢者・子供がいないので関係ない ・「福祉」は行政が行うべきではないか？→行政と何が違うのか？ ・高齢者への「福祉サービス」の周知が「IT」ではどうか？ 届かない ・防災訓練の時に知った ・名前は知っていたが具体的活動は不明 ・社協だよりは見てはいたが、関係ないと思った ・ボランティアをやっているのは知っていた ・年会費は払っていたが、子供と老人というイメージが強く、分からない ・役場の仕事と区別がつかない ・独立した機関だとは思わなかった ・役場とごちゃごちゃになる、これからお世話になるんだなあというイメージ ・パンフレットを見て初めて知ったことが多く、分かりやすい ・ボランティア保険の加入で行ったが遠い、近くに窓口があったらと思う ・実際に窓口でお世話になり、介護施設であったり、ケアマネージャーさんの紹介をしていただいた ・民生委員さんのフォロー（年齢的・時間的に大変な所もあるのでは？） ・利用方法が分かりづらい ・何を社協に、何を行政に聞けばいいのか ・町→社協 社協→町への連絡強化 たらい回しにならないように ・困ってもすぐ社協に！というのが頭にない、困ったことで相談できることをはっきり分かるようにしてもらいたい（一目で分かるように） ・役場に出来なくて社協に出来ることは？ 違うことをやってほしい（子供と老人を繋ぐコミュニティとか） ・老人と子供だけではなく、中間層へは？ ・小学校、中学校にも出前講座を！ ・相談窓口があることの周知！ ・HPの拡充 ・小学校、中学校との地域の施設の交流 	

- ・予防接種時に子供を預かってくれないの？
- ・せせらぎ会、ゆとりすと以外に交流する場はないの？
- ・役場付近だけではなく、もっと行きやすい近所で催し物をしてほしい
- ・母子家庭・父子家庭には何かありますか？

(2) 地域でどんな活動を行っていますか？

- ・夏祭り (AM に子供)
- ・防災訓練
- ・芋煮会
- ・防犯パトロール
- ・敬老会
- ・どんと祭
- ・幼稚園が多すぎて、逆に近くのお母さんとコミュニティが作りづらい
- ・公民館→46 団体が活動している
- ・防災訓練
- ・公民館祭り
- ・防犯パトロール
- ・どんと祭
- ・月 1 回の町内会の「清掃活動」
- ・「地域のために！！」という意識は…
- ・町内親睦会

(3) 地域の活動で、社協に支援してほしいことは何ですか？

- ・社協の活動内容がよく分からないので、何をしてほしいか分からない
- ・社協だより→あまり見ない
- ・「社協だより」と書いてあると難しい内容だと思って見ない
→何かテーマ (ex. 子育て支援) を頭に持ってきて最後に～社協と書いた方が良い
- ・社協→子育てと高齢者というイメージ (成田に関係が薄い)
- ・バス路線 (運賃が高い) 本数が少ない
- ・社協の委員に若い人を入れてみては
- ・若い世代が多いので見ない人は見ない
- ・事業の項目が多くなればなる程、事例、何をしているのか分からない (子供・高齢者に訴える)
- ・一つのテーマに絞る (目に引くもの)
- ・子育てサークル
- ・保健師が入って健康相談 (身長・体重)
- ・テーマを絞って啓発
- ・PR 活動
- ・相談の経過が分からない
- ・情報が混乱している (町 or 社協)
- ・役割分担
- ・PTA 行事に！ (役員に)
- ・学校との連携
- ・社協の位置づけ
- ・強みが 1 つ
- ・「成田」に対して社会資源 ビジョン＝シンボル
- ・パチンコ屋がある団地
- ・社協と役場の区別
- ・認知症になったら→「福祉施設」等の資源は必要ではないか
- ・社協に欠けているものがありそう
- ・町との関わりが分からない→しっかり説明すべき
- ・介護の手前をしっかり支援してほしい→サロン活動等で！！
- ・就労 (ボランティア以外) で役割があれば

- ・夏祭りに参加してほしい
- ・ゆるきゃら 社協マンいたら面白いと思う
- ・若いうちからサロンを！
- ・母子・父子家庭への支援もあったらいいのではないか
- ・若い高齢者も参加できる事業を！
- ・場所が「富谷中央公民館」など旧富谷ばかり、成田でもやってほしい
- ・高齢者が増えてきている、ゆとりすと、せせらぎ会以外の機会を！
- ・児童健全育成事業の他に成田の里などに行く「人」との関わりをコーディネートしてほしい
- ・リアルタイムで情報発信してほしい（ホームページ）富谷町ツイッターは見ている！
- ・細かい情報もホームページに！何が必要とか
- ・パワーポイントで書いてある具体例のようなものをパンフレット等にも載せてほしい
- ・学校行事出前でやってほしい
- ・生活相談でつなげてほしい（第2，4金曜日実施）
- ・こういう相談を受けてどう対応したのかを広報に載せるのはどうか
- ・とことこ（子育て事業）と高齢者事業を組み合わせるのはいかがでしょうか
- ・役場に出来ない社協にできる「強み」はあるのか分からない
- ・具体例をパンフレットや社協だよりに書いてほしい（一目で分かるように）
- ・相談、町との連携体制が整っていれば相談しやすい（たらい回しにならないように）
- ・何を相談していいかわからない、どこに相談できるかわからない
- ・サービスの内容を知らない方にもわかるように広報に工夫してほしい
- ・民生委員さんの仕事のフォロー、手助け（住民の方が分かる形で）



地域福祉活動推進計画策定委員会日程（後期実施計画）

日 程	名 称	経 過 内 容
平成25年 7月1日	第1回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○委嘱状交付について ○委員長・副委員長の選出について ○計画策定の経緯及び概要説明について ○今後の委員会スケジュールについて
8月5日	第2回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○社会福祉協議会事業評価について ○調査方法の検討について (アンケート・ヒアリング調査等) ○今後の委員会スケジュールについて
9月～ 10月	アンケート 福祉座談会実施	<ul style="list-style-type: none"> ○住民対象にアンケートを実施 <ul style="list-style-type: none"> (1) 地域福祉に関するアンケート 9月10日～10月9日 (2) ボランティアに関するアンケート 9月10日～10月9日 (3) 高齢者に関するアンケート 9月19日 (4) 障害者に関するアンケート 10月10日～25日 (5) 子育てに関するアンケート 9月6日・12日・24日 10月9日・25日・30日 ○地域での福祉座談会を実施 <ul style="list-style-type: none"> (1) 町上町内会 : 9月10日 (2) 鷹乃杜町内会 : 9月29日 (3) 成田第三町内会 : 10月5日
11月20日	第3回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○アンケート・ヒアリング調査結果報告 ○問題・住民ニーズ把握 ○調査から見える方向性（課題整理等）
12月18日	第4回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○実施計画内容の検討について ・社協の事業計画・課題等を基に、原案を提示
平成26年 2月13日	第5回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○実施計画の策定について ○推進計画内容の最終確認について ・内容構成、配布対象について審議 ○地域福祉活動推進計画答申について
4月	地域福祉活動推進計画後期 実施計画施行	

策 定 委 員 会 報 告 書

平成25年7月11日

日時及び場所	平成25年7月1日（月）午後13時30分～15時30分 富谷町保健福祉総合支援センター 会議室
出席者	千葉芳樹・内ヶ崎武・岩田士郎・大童英雄・西昌夫・井上善行・ 豊田正利・坂内玲子・馬場弘幸・草野昭徳・門間とも子・川口清子・奥山吉信 （策定委員13名） 欠席者：西塚国彦（策定委員1名） 山田吉邦・阿部忠・佐々利春・武田靖子（社協事務局4名）
件名	第1回地域福祉活動推進計画策定委員会 内容
内 容	
<p><協議内容></p> <p>(1) 委員長・副委員長の選出について 策定委員会要綱に基づき、委員長に千葉芳樹氏、副委員長に門間とも子氏がそれぞれ選出される。（事務局案）</p> <p>(2) 地域福祉活動推進計画策定諮問について 富谷町社協山田会長より千葉策定委員会委員長あてに策定諮問がなされる。 ・諮問のポイントは3点 1. 住民の意見を幅広く取り入れる仕組みづくり。 2. 策定の終結時期は平成26年3月。 3. これまでの中期実施計画の福祉課題等の現状分析と課題を明確化し、計画に反映すること</p> <p>(3) 地域福祉活動推進計画策定経緯及び概要説明について 社協事務局より平成20年度より策定の地域福祉活動推進計画の基本理念・基本計画・基本目標を中心に計画の概要説明がなされる。 説明の冒頭に千葉委員長より、富谷町は今後市制に向けて動き出している。それと共に、生活の環境の変化により敏感にならなければならない。この策定委員会も夢のある会議にしたい。今回は企業や学校側からも委員に参画いただき、価値観の多様化により、身近な生の声をきいてやらなければならないと思う。このメンバーで頑張っていきたい。ふだんの暮らしが大事で、ふだんの暮らしを幸せに導くことかなと思う。（ふ・く・し） 事務局よりスライドで計画概要説明を行う。 ポイント・・＜振り返り＞地域福祉は1つのキーワードであり、社会福祉法で規定されている。地域の支え合いが、3・11の震災以降、大切になっている。自助、共助、公助で、特に共助をいかに高めていくかが社協としての重要なカギとなってくる。さらに、見直し重点項目としては、地域コミュニティづくりの展開・地域福祉活動の人材確保と育成・相談支援機能の強化の3点を軸に見直しの方向性になる旨の説明を行う。</p> <p>委員から出た主な意見は以下のとおり。</p> <p>豊田：アンケート内容は35市町村、美里町社協の3回目の見直し作業では、富谷町社協の前回見直し時のアンケートをモデルにしている。アンケートではなく、直接、顔のみえるニーズの集約も今回は必要があるかと思う。千葉委員長にお伺いしたい。一般的な市町村の推進は地域福祉計画が一方の両輪で、もう1つは、行政計画との違いをはっきりさせるため、社協の活動計画は車の両輪のかたちで推進している。行政計画はどのような状況になっていますか。</p>	

奥山：（委員長に代わり）富谷町の場合は、地域福祉計画に代わって、健康福祉「あつたか富谷」・富谷町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画・富谷町障がい者計画・障がい福祉計画・富谷町次世代育成支援行動計画がありそれらが計画の役割を果たしています。

西：概要説明の中で、社協の内容がわからないという声があった。不特定多数で、イオンは催事場をもっているのので、PR活動でイオン富谷を使って、認知していただくこともできるので、アンケート調査等でご検討いただきたい。

井上：プラン・ドゥ・チェックをやってみて、住民の意識が高まった。結果を図って次の計画に活かすことが大切だと考えます。

馬場：社協活動は解りにくいところがある。共助が重要だと思う。住民からの相談が来るのではなく、出ていく。PRの場所として相談の拠点等があれば、住民と近くなるのではないかと思う。

坂内：3. 11の震災で中学生が地域の人を引っばった。子どもたちも、地域のために役に立つと思う。今後は、中学生の組織的活動が大事。部活の子の活動やその辺の誘導も必要かなと思う。中学生をいかに活用するかが、将来の福祉につながると思う。

草野：役員会で社協の話題に触れると、以前は無反応だったが、最近は、変わった。子育て家族は増えてるが、65歳以上高齢者も増加傾向にある中で、自分たちの出来る範囲で段階的に何が出来るか意見交換する場も必要かと考える。

川口：新しい富谷町を感じる。地域のニーズが多様化してくる。この計画も行政との両輪で取り組まなければならない。地域コミュニティも取り組まなければならない。相談支援や細かく実施している事業の拠点づくりから考えていかなければならない。社協の事業の一員としてやっていけたらと思います。

大童：この計画策定は大変な苦勞された部分があると思う。前期、中期を踏まえてどうあるべきか。シルバー人材センターの考え方は関係機関の連携の強化がキーポイントで、協力をどうやっていくべきかを具体的に考える。数字的目標で、計画を数字で現わすなどどのようにふくらませていくか、検討することも必要と考える。

門間：3. 11の震災以降、町内会に新たに転居してきている人を見かけるといきいきしているように感じる。歳ではなく、コミュニティづくり、隣の人と挨拶できる町に向けて楽しい策定委員会になると思う。毎日、買い物をするということは、生きるため、出ていくための生きがいになる。隣の家でお茶を飲んでいたのが、イオンの店や広場で飲んいたら、イオンが集う場のきっかけになる。策定委員会は企業の方も入って一緒に話し合いができる。このような雰囲気基礎をつくっていきいたいと思う。自助、共助、公助は縦の関係ではなく、もっと包括的な関係ではないか。

委員長：調査方法には、座談会形式も必要ではないか。手法はこれから、検討してもいいですか。（異議なしの声あり）

西：チラシは月1回発行しています。社協さんは私どもをぜひ活用して活用して下さい。協力はできると思います。例えば、アンケート調査は来店者を使ってもやっていただければ、回収もふくめても、PRができるのではないか。

委員長：その点については、今後の策定委員会で慎重に議論していきたいと思っています。

大童：アンケート調査はヒアリングが一番大事ではないか。事業に行って直接ヒアリングをとる。町内会あたりの単位で町内会長を通じて、2～3か月の回答でヒアリング調査があってもいいのではないか。

委員長：なかなか集まっての座談会形式は難しい部分も想定されるため、実現可能な範囲で、次回委員会にお示しできればと考えます

(4) 今後の委員会のスケジュールについて

今後の予定案について、お示しを行う。おおむね来年2月を目途に6回程度の策定委員会及び作業部会で答申に運んでいくことを確認する。

(5) その他

次回の委員会日程について

第2回策定委員会

日時：8月5日（月） 13：30～ 場所：富谷町保健福祉総合支援センター

○協議事項（予定）

- ・ 社会福祉協議会事業評価について
- ・ 調査方法の検討について
- ・ 今後の委員会スケジュールについて

策 定 委 員 会 報 告 書

平成25年8月5日

日時及び場所	平成25年8月5日（月）午後13時30分～15時30分 富谷町保健福祉総合支援センター 会議室
出席者	千葉芳樹・内ヶ崎武・大童英雄・西昌夫・西塚国彦・豊田正利・馬場弘幸・草野昭徳・門間とも子・奥山吉信（策定委員10名） 欠席者：岩田士郎・井上善行・坂内玲子・川口靖子（策定委員4名） 山田吉邦・佐々利春・武田靖子（社協事務局3名）
件名	第2回地域福祉活動推進計画策定委員会 内容
内 容	
<p><協議内容></p> <p>(1) 社会福祉協議会事業評価について 資料No. 1を読み上げる。富谷町社協事務局より実施計画の方向性について説明がなされる。 (事務局案)</p> <p>委員から出た主な意見は以下のとおり。</p> <p>豊田：共同募金事業が現状維持となっているが、富谷町には自主財源がないので重要な資金源になるのではないか。</p> <p>門間：町内で共同募金を集めていると富谷町の長寿福祉課と社会福祉協議会の関わりがわからなくて混乱する。一か所にしていきたい。</p> <p>事務局：共同募金に関しては、目標に達している。社会福祉協議会ではなく富谷町の長寿福祉課に共同募金の事務局があるので、強化することは、難しい。</p> <p>委員長：町の方にもお願いして、前向きに検討していただきましょう。</p> <p>大童：情報の管理が廃止となっているが、IT時代であるのにばっさりきってしまうのか。手抜きのように思えるが、どういう意味合いなのだろうか。</p> <p>事務局：情報処理ネットワーク機能は、3年間で達成しています。個人情報があるので、やめるわけではなく進めていく。</p> <p>西：ニーズの把握というのは、聞こえは良いが質の良い意見だけでなく、悪い意見も出てくる。</p> <p>委員長：ニーズの把握については、適切なるご助言をいただきながらレベルアップを図っていくということよろしいでしょうか。（異議なしの声あり）</p> <p>西塚：小地域福祉活動は、本来一番大切なことであるが新しく引っ越してきた方に対応する新規事業も必要なのではないか。富谷市になることを見据えて生活保護等生活困窮者に対する事業も必要なのではないか。</p> <p>委員長：町に慣れていない住民への対応と福祉基盤にした市作りを目指していくということよろしいでしょうか。（異議なしの声あり）</p> <p>委員長：施設関係の領域で何かありませんか。</p>	

馬場：高齢者交流事業についてですが、要支援1，2の方に対する支援は、公民館等の施設中心で交流事業を行っている。民間の施設も使って、細分化した形で事業を行ってほしい。マンパワーとして期待したい。

委員長：場所、人、環境の整備を行っていきましょう。

草野：今回の夏祭りでボランティアを募った。どのくらい手を挙げるかと思ったが3名だけだった。災害関係のボランティアであれば手を挙げる人が多いが、地域の行事のボランティアには、手を挙げる人は少ない。意識の低い人をどうやってあげていけばよいのだろうか。

委員長：私たちが若者を導いていかなければならない。若者を育てていきましょう。

豊田：第三者評価とは、本来ならば外部の人材による評価ではないか。次回は、事務局の方と外部の方に入ってもらえるよう事務局での配慮をお願いしたい。

門間：資料No.1のような形でもこれはこれで自己評価になるので、いいと思った。

(2) 調査方法の検討について

資料No.2・3を富谷町社協事務局より読み上げる。地域福祉活動計画策定のためのアンケート実施方法、福祉座談会の実施方法の説明がなされる。(事務局案)

委員から出た主な意見は以下のとおり

大童：座談会については、私は現在町内会長ではないので先に社協から区長の方に通していただきたい。

草野：座談会は、どのようなメンバーを想定しているのか教えて頂きたい。

事務局：9月～10月の間に役員会等での集会にお邪魔して意見交換をしていただきたいと考えている。新たにこの座談会だけのために集まってもらうのは想定していません。

門間：私は、逆に会議は必要である会議なので座談会を実施することは、難しいと思う。さかんに行われている虹色会食サロンの会員さんや女川や石巻から来ている災害ボランティアの方も混ぜて、ざっくばらんに行った方が良いのではないか。わたしの地区ではそのような方に声掛けを行っていきたいと考えています。

委員長：では、地域の実情に合わせて企画していきましょう。(委員一同異議なし)

(3) 今後の委員会スケジュールについて

富谷町社協事務局より地域福祉活動推進計画策定委員会日程を読み上げる。(事務局案)
今後の予定案についてお示しを行う。2ヶ月間アンケート調査期間に入る。8月20日までにアンケート案と座談会の骨子案を策定委員に郵送し、意見を伺うこととする。

(4) その他

次回の委員会日程について
第3回策定委員会
日時：11月上旬

○協議事項（予定）

- ・アンケート・ヒアリング調査結果報告
- ・問題・住民ニーズ把握
- ・調査から見える方向性（課題整理等）

策 定 委 員 会 報 告 書

平成25年11月28日

日時及び場所	平成25年11月20日（水）午後13時30分～15時30分 富谷町保健福祉総合支援センター 研修室
出席者	千葉芳樹・内ヶ崎武・岩田士郎・大童英雄・西昌夫・西塚国彦・豊田正利 坂内玲子・草野昭徳・門間とも子・川口清子・奥山吉信（策定委員12名） 欠席者：井上善行・馬場弘幸（策定委員2名） 山田吉邦・佐々利春（事務局2名）
件名	第3回地域福祉活動推進計画策定委員会 内容
内 容	
<p><協議内容></p> <p>(1) 調査アンケート・座談会調査報告について 9～10月にかけて行われたアンケート結果及び座談会調査報告についてパワーポイントにて説明を行う。詳細は以下のとおり。</p> <p>●アンケート調査</p> <p>①高齢者支援関係（事業名：さわやか交流会）回収率100% 70歳以上の二人暮らしの交流会での調査となったが、社協に求められるボランティア活動として、地域で高齢者交流サロンで活動するボランティアが約4割を占めており、地域で福祉活動を展開している方々とのつながりを深めていく事が大切であると感じさせられる結果となっています。今後の高齢者支援については、地域高齢者サロン活動の支援を望む声が4割と多く、社協の今後の高齢者支援にとって貴重なデータとなっています。</p> <p>②障害者支援関係（対象名：身体障害者福祉協会・手をつなぐ育成会）回収率55% 富谷町の手をつなぐ育成会及び身体障害者福祉協会会員の方々を対象としての調査となったが、今後の事業展開については、情報提供・相談体制の充実が4割の方々強化すべきであるとの意見がある他、障害者の各種イベントへの参加や今後のボランティア活動として、外出する際の移動支援（介助）を要するボランティアが上位を占めています。また、社協の今後の障害者支援については、障害者に対する相談や情報提供の充実とあるように社協の総合相談の窓口部分の強化も検討材料とするデータとなりました。成年後見制度についての利用支援（法人後見）については、実施する及び実施を視野に検討してほしいとの意見がすべてであった為、現在の権利擁護事業をより一層強化していく結果となったのではないかと考えられます。</p> <p>③子育て支援関係（事業名：子育てサロンとことこ）回収率100% 子育てサロンに参加したの方々を対象として約1～2ヶ月間に5度実施した中での調査となったが、富谷町の中でも比較的若い世代が多いとされる成田・明石台・上桜木・大清水・杜乃橋地区で約6割の参加率となっている為、実情に比例しての参加率となっています。社協の情報入手先については、町広報誌と社協広報誌が高い値となっていますが、社協の子育てサロンで知り合った知人・友人や町役場が実施する定期健診での情報入手というのもついで高い値となっている。また、若い年代だけにインターネットを活用した情報入手（ホームページ・ブログ）も高齢者・障害者に比べ高い値を示しています。また、開催場所としては、3年前の支援センターよりも身近な公民館での開催を望む声がある事からその点を重視した事業展開が必要となる。また、サポーターの今後については、子育てサポーターが中心となり、地域での子育てサロンを展開してほしいとの意見が6割を占めている現状からも見えており、地域での集いの場を求めている声というものが高い事が分かります。その実情から、富谷内でも子育てサポーターが中心となって、自分が住んでいる地域で独自に子育てサロンを立ち上げている実情があることから、社協としても支援のあり方について今後大いに検討すべき点であると考えます。</p>	

④ボランティア関係「ボランティアに関するアンケート調査」回収率65%

ボランティアセンター登録者を対象としての調査となったが、年齢を比較してみると、60歳以上の方々が全体の約6割を占めているとおり、若年層のボランティア人材育成（団塊の世代）や掘り起しが急務である事が結果から考えられます。また、情報入手先についても、社協広報誌の次に社協事務局が来るなど、3年前とは異なる値を示している。さらにはボランティア活動上の困りごとについては、特にないとの回答が一番高くなっており、その原因はなぜか詳細を知る必要性を感じた。ボランティアセンターの利用有無については、いいえ及びどちらともいえない2つの合計が8割を超えており、センター機能の認識理解不足が結果からも顕著に現れている。今後ボランティアセンターに期待する事についてですが、活動の場の提供や開拓と情報提供が割合として高い結果となりました。活動者自身が現在の活動に対して、どのような課題を抱えているのかを社協として把握しながら、適切な支援を行っていく事が改めて大切であるという結果となっています。今後のボランティアセンター活動についての設問では、個人・ボランティア団体の人材育成の強化が3割の回答ということで、社協に対するボランティアの育成を求める意見が改めて高い事が結果として現れています。この声を受け止めながら、社協としてニーズに応じたボランティア養成に答える必要があると考えられます。

⑤地域コミュニティ関係「地域福祉の推進に関するアンケート」回収率80%

福祉活動推進委員長（町内会長）を通じ、各地区5名ずつでの調査となったが、福祉活動の充実度を図る設問については、どちらともいえないが7割そして、福祉活動の問題点については、地域住民の関心が低いことと活動内容があまり知られていないことが2つで4割程度の回答となっています。この問題点の解決には、社協だけではなく意識啓発の事業等について、行政とも連携を図りながら進めていきたいと考えています。地域として取り組むべき課題としては、防災・災害時の対応と地域コミュニティづくりについての値が上位に位置づけられており、社協の現在の実施計画の中にもある部分の災害ボランティア体制整備と地域コミュニティづくりの部分の推進が改めて大切である事が結果からも分かります。

●富谷町社会福祉協議会福祉座談会 ～あなたのお声を聞かせてください！～
地域福祉活動推進計画の見直し作業の過程の中で、町内会での福祉座談会を今回初めて、3地区で開催させていただき、社協としても大変有意義な時間となりました。座談会で気づいたことは、地域の福祉課題の中には、制度や公的な福祉サービスだけでは対応が難しい課題や、福祉サービスだけでは上手く解決に至らない課題もあるということです。それこそが地域での支え合い、地域福祉活動において社協が特に大切にしていかなければいけない部分ではないかと感じました。
また、地域の福祉課題を探ることと並行して、これまで取り組んできている社協の地域福祉活動の課題を探ることも必要だと感じました。ボランティアの人材育成や、サロン活動における開催場所がなかなか見当たらない、といった活動の内容や方法に関する課題についてもう一度考えてみる必要性をいただきました。

委員から出た意見は以下のとおり

- ・地域福祉のコーディネートが社協であることが再認識できた
- ・座談会を通じて、情報を肌で感じる事が出来た
- ・社協のみが努力してもだめで、関係機関との連携が大切
- ・会費の啓発は必要だと感じた
- ・行政区長への啓発（研修等にて）も必要ではないか
- ・子供やお年寄り支援の手があっても中間層の支援が薄い
- ・町内会長、民生委員の関わりは社協は不可欠であると感じた
- ・公民館との連携（生涯学習課との連携）

参加者からの主な意見として・・・

- ・社協の情報啓発の必要性
- ・地域コミュニティづくりの充実
- ・ボランティアの人材育成
- ・若年層の福祉活動への参画
- ・相談窓口の確立
- ・学校との連携 等々

(2) 問題・住民ニーズ把握について

アンケート及び福祉座談会より見えてきた方向性について共有を図りながら、意見の集約を行う。

アンケートでは

- ・地域活動（サロン）ボランティアの養成
- ・情報提供、相談体制の充実
- ・交流の場、機会づくりの推進
- ・外出（移動支援）を行うボランティア
- ・ボランティア情報の提供
- ・福祉活動参画への啓発
- ・相談窓口としての機能の充実
- ・社協独自事業の開拓
- ・各種ボランティア（専門的）の育成

座談会では

- ・社協の情報啓発（PR活動）の必要性
- ・行政と社協の位置づけ
- ・地域コミュニティづくりの充実
- ・ボランティアの人材育成
- ・社協の独自性の向上
- ・地域に出向くきっかけづくり
- ・若年層の福祉活動への参画
- ・安心して相談できる機関としての確立
- ・学校との連携

(3) 推進計画課題整理について

(2)の問題・住民ニーズ把握より、現在の基本計画の4つのカテゴリーに、意見を当てはめた部分に関して、事務局より説明を行い、委員の方々よりご意見をいただくこととする。

- ・公民館との連携
- ・若年層の福祉活動の参画
- ・社会資源（企業等）との連携
- ・活動の場の提供

これらを課題に追加することとする。

(4) 今後の委員会スケジュールについて

12月に今回の方向性をベースに実施計画内容の検討を行い、1月～2月に答申に向けての委員会（答申・配布対象・内容構成）とする事を確認する。

(5) その他について

次回の第4回策定委員会の日程については、12月19日（木）とする事を確認する。

→変更になり12月18日（水）とする。

会議の1週間前をベースに資料を事前配布することとする。

策 定 委 員 会 報 告 書

平成25年12月25日

日時及び場所	平成25年12月18日（水）午後13時30分～15時30分 富谷町保健福祉総合支援センター 研修室
出席者	千葉芳樹・内ヶ崎武・岩田士郎・西昌夫・西塚国彦・豊田正利・馬場弘幸 坂内玲子・草野昭徳・門間とも子・川口清子・奥山吉信（策定委員12名） 欠席者：大童英雄・井上善行（策定委員2名） 山田吉邦・佐々利春（事務局2名）
件名	第4回地域福祉活動推進計画策定委員会 内容
内 容	
<p><協議内容></p> <p>（1）問題・住民ニーズ把握について（グループワーク）</p> <p>前回の委員会で、住民の方々より様々な意見をいただき、委員会として方向性を出した部分に策定委員としての意見を加えていただくために、グループを2つに分けての意見交換を行うこととする。</p> <p>グループワークで主に聞き取りをしたテーマは以下の2つ。</p> <p>☆福祉アンケート・福祉座談会結果から</p> <p>☆社協の後期実施計画に取り入れるべき項目はありますか？</p> <p>以下のグループ分けにて、意見交換を行う。</p> <p>グループ1（委員：門間・西・豊田・川口・馬場）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社協が地域に出向く、積極的に介入していく必要性を感じる⇒PR ・住民への情報提供の充実（ホームページ内容の充実） ・人口増加に伴う地域性を考慮した福祉事業の展開（年齢格差） ・交流の機会の提供 ・社会資源（施設・企業・学校）との連携 ・福祉教育の充実（学年・発達段階に応じた教育） ・ボランティアセンターの運営強化（限定されたボランティアではなく、活動の場の開拓） ・今後の策定委員会としての活動（評価委員会等への展開） <p>グループ2（委員：内ヶ崎・岩田・西塚・草野・坂内）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉への意識向上（民生委員、町内会長の交流・研修会の必要性） ・情報の共有（社協⇒町内会・学校・行政） ・総合相談の窓口（相談の受け皿としてどこまで応じるのか？社協の覚悟が今後問われる！） ・福祉教育の大切さ ・地域で生活する弱者への対策⇒地域で支える仕組みが足りない ・中学生、高校生の活用（自主防災、夏祭りのボランティア） ・行政との連携 <p>（2）実施計画内容の検討について</p> <p>後期の実施計画については、今回グループワークでいただいた意見及び9月～10月の福祉アンケート・福祉座談会の結果を踏まえて、事務局で整理した部分を1月中旬に策定委員の方々に事前送付することとする。</p> <p>（3）今後の委員会スケジュールについて</p> <p>今後については、年明け2月上旬の答申を目指して1月中の後期実施計画素案を作成し、策定委員会については、年明け残り1回での答申を目指すことを確認する。</p> <p>（4）その他について</p> <p>策定委員の方々を対象として、最終の委員会終了後に、懇親会を開催する方向で、策定委員会日程も調整することとする。</p>	

策 定 委 員 会 報 告 書

平成26年2月20日

日時及び場所	平成26年2月13日(木)午後13時30分～15時30分 富谷町寿松庵本店
出席者	千葉芳樹・内ヶ崎武・岩田士郎・西昌夫・豊田正利・大童英雄・井上善行 坂内玲子・草野昭徳・門間とも子・川口清子(策定委員11名) 欠席者:西塚国彦・馬場弘幸・奥山吉信(策定委員3名) 山田吉邦・佐々利春(事務局2名)
件名	第5回地域福祉活動推進計画策定委員会 内容
内 容	
<p><協議内容></p> <p>(1) 実施計画の確認について</p> <p>前回の委員会、後期の実施計画については、福祉アンケート・福祉座談会の結果を踏まえて、事務局で整理した部分を策定委員の方々に事前送付することとしていたため、今回は計画の確認から行う。</p> <p>策定委員から出た主な意見としては、</p> <p>基本目標1「住民参加による福祉のまちづくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施計画「地区福祉座談会の継続」について 次年度より社協で継続的に取り組まれることを期待する意見が多く寄せられる。町内会に出向く際には、テーマ(災害・子育て)を絞って、いろんな世代(世代別)から意見を聞いて、社協事業を発展させてほしいとの意見があった。また、座談会の結果については、広報や直接住民の方々にフィードバックして欲しいとの期待の声も上がった。 ・実施計画「地域支援サポーターの養成」 このサポーターについては、福祉教育だけではなく、地域に根差した福祉活動を自主的に行なう人材の育成にも関係しているため、災害時や地域活動に協力できる幅広い形での養成を期待するとの意見をいただく。 <p>基本目標2「共に支え合う福祉のまちづくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施計画「行政・地域及び関係機関・企業等との連携」 ・実施計画「行政との連携・協力」 計画の中の「行政」という言葉について、富谷町を想定していると思うが、国や県とも取れるような広い意味合いが感じられるため、文言の修正を検討していただきたい。 ・実施計画「地域福祉活動への支援」 地域では、ボランティア活動以外にも様々な地域活動が行われていることを福祉座談会等で委員の皆さんも実感されたと思うので、それを今度は計画に反映させながら、社協としての積極的な地域支援を期待します。 ・実施計画「地域福祉活動ネットワークの構築」 ネットワークの構築とは、ボランティア活動の部分を主体に考えているとは思いますが、今後は、その部分だけではなく、町内会長や民生委員の方々を巻き込んでの、幅広いネットワークづくりを主に前進して欲しいと考えます。 <p>基本目標3「安心して暮らせる福祉のまちづくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施計画「ファミリー・サポート支援事業の実施」 ファミリー・サポートセンターに見られる子育て支援事業は、富谷町の場合は、ますます今後福祉ニーズが増大するものと考えます。その場合は、PR活動が不可欠だと考えられるため、イオン富谷の活用や社協広報誌や町と連携しての取り組みを考えてください。 	

基本目標4「安定した地域福祉のまちづくり」

・実施計画「地域福祉活動推進計画の進捗管理及び計画の弾力的な運用」

この策定委員会の関わりを次年度以降も何らかの形で継続させていく取り組みが必要ではないでしょうか。今回は、アンケートだけではなく直接意見を伺う地区福祉座談会の実施により社協がより住民に近くなった部分も多少はあると考えますので、評価委員会（仮称）などの名称で次年度以降の社協の取り組みに是非加えていただきたい。

なお、本日の策定委員会でご意見をいただいた部分で修正が必要な部分については、3月に策定委員あて最終案を資料送付することとする。また、後期実施計画を具体的な目標として定める後期目標も合わせて3月に送付することとする。

(2) 推進計画の掲載内容について

策定委員に対して、計画書の素案を提示する。冊子については、500部の印刷予定に加えて、全世帯配布のダイジェスト版を作成して、周知を図りたいということを伝える。

委員からは、冊子の部分について、資料編（アンケート・座談会集計）がかなり多い意見があり、要約版にして伝えた方がよいとの事で、そのように対応することとする。

(3) 地域福祉活動推進計画答申について

代表して、千葉芳樹策定委員長より、山田吉邦会長に対して、後期実施計画が答申される。

(4) その他について

委員会終了後の交流会内容について、事務局より説明を行う。

社会福祉法人富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画策定委員会 設置要綱

(目 的)

第1条 この委員会は、富谷町社会福祉協議会長の諮問に応じ、地域福祉活動推進計画の策定に関して、行政計画との整合性や現状の事業等の見直しを図るため、富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置し、その組織及び運営について必要な事項を定めるものとする。

(組 織)

第2条 委員会は、14人の委員をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、社協会長が委嘱する。

- | | |
|---------------------------|----|
| (1) 社会福祉協議会理事 | 2名 |
| (2) 社会福祉協議会評議員 | 2名 |
| (3) 地域福祉活動者 | 1名 |
| (4) 学識経験者 | 1名 |
| (5) 社会福祉施設 | 2名 |
| (6) 行政区長 | 2名 |
| (7) 民生委員・児童委員 | 2名 |
| (8) 行政担当職員（総務部及び福祉部の関係課等） | 2名 |

3 委員の任期は、富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画策定終了時までとする。

(委員長及び副委員長)

第3条 委員会に委員長1名、副委員長1名を置き、委員の互選によって選任する。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会 議)

第4条 委員会の会議は、委員長が召集し、委員長が議長となる。

(費用弁償)

第5条 委員会には費用弁償として、別に定める規定により支給する。

(委員会以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、社協において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成18年7月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成22年6月1日から施行する。

社会福祉法人富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画策定委員会委員名簿(第三次)

NO	名称	氏名	選出基準
1	委員長	千葉芳樹	社会福祉協議会理事(社協副会長:総務運営委員長)
2	副委員長	門間とも子	行政区長(鷹乃杜町内会)
3	委員	内ヶ崎武	社会福祉協議会理事(社協副会長:福祉事業委員長)
4	委員	岩田士郎	社会福祉協議会評議員(行政区長)
5	委員	大童英雄	地域福祉活動者(富谷町シルバー人材センター理事長)
6	委員	西昌夫	地域福祉活動者(イオン富谷SCモールマネージャー)
7	委員	井上善行	地域福祉活動者(カルラ株式会社代表取締役社長)
8	委員	豊田正利	学識経験者(東北文化学園大学教授)
9	委員	坂内玲子	学識経験者(富谷町立富谷中学校校長)
10	委員	西塚国彦	社会福祉施設(宮城県社協地域福祉課長)
11	委員	馬場弘幸	社会福祉施設(ドリームライトひかりの里・代表取締役)
12	委員	草野昭徳	行政区長(成田第三町内会)
13	委員	川口清子	民生委員・児童委員(東向陽台二丁目)
14	委員	奥山吉信	行政担当職員(富谷町福祉部長)



社会福祉法人富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画見直し策定について

答 申

平成25年7月1日付け、富社協第200号にて諮問された方針に基づき、社会福祉法人富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画見直し策定事項について、慎重に調査及び検討を重ねた結果、別紙のとおり結論を得たので答申いたします。

平成26年2月13日

社会福祉法人富谷町社会福祉協議会
会 長 山 田 吉 邦

社会福祉法人富谷町社会福祉協議会
地域福祉活動推進計画策定委員会
委員長 千 葉 芳 樹

副委員長	門 間 とも子	委 員	内ヶ崎 武
委 員	岩 田 士 郎	委 員	大 童 英 雄
委 員	西 昌 夫	委 員	豊 田 正 利
委 員	井 上 善 行	委 員	馬 場 弘 幸
委 員	坂 内 玲 子	委 員	西 塚 国 彦
委 員	草 野 昭 徳	委 員	川 口 清 子
委 員	奥 山 吉 信		

富社協第200号
平成25年7月1日

社会福祉法人富谷町社会福祉協議会
地域福祉活動推進計画策定委員長 殿

社会福祉法人富谷町社会福祉協議会
会 長 山 田 吉 邦

社会福祉法人富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画実施計画の見直し策定諮問

社会福祉法人富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画策定委員会設置要綱第1条の規程により、平成20年度～平成29年度の計画期間で策定された社会福祉法人富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画の実施計画は、基本理念・基本目標・基本計画は10年間を目標年次としており、実施計画は前期（3年）・中期（3年）・後期（4年）ごとの区切りの期間として、計画見直しについては行政計画との整合性を図り、次の諮問に基づき策定をお願いいたします。

- 1 策定は、中期実施計画の見直しを行うものとし、平成26年度～平成29年度までの後期実施計画期間（4ケ年）の策定をお願いいたします。
実施計画期間 前期：平成20年度～平成22年度（3ケ年）
中期：平成23年度～平成25年度（3ケ年）
後期：平成26年度～平成29年度（4ケ年）
- 2 中期：平成23年度～平成25年度（3ケ年）の実施計画による事業の実施の評価を行うとともに、福祉課題等の現状分析と課題を明確化し、後期：平成26～29年度（4ケ年）の実施計画に反映するようお願いいたします。
- 3 計画には、広く地域住民の意見を取り入れたものが望ましいため、策定時にはその点も視野に入れながら行ってください。
- 4 計画を具現化する場合、財政的裏付けをよく考慮しながら策定作業を進めてください。
- 5 後期：平成26～29年度（4ケ年）の実施計画の策定は、平成26年3月を目標に完了するようお願いいたします。

以上

富谷町社会福祉協議会のあゆみ

年 月 日	事 業 名
昭和35年12月 1日	任意団体としての富谷村社会福祉協議会が設立される
昭和59年 4月 2日	法人格を取得し社会福祉法人富谷町社会福祉協議会となる 初代社会福祉協議会会長に安藤春吉氏が就任する 事務所を富谷町役場内に置き職員3名体制でスタート (事務局長1(町民福祉課長兼務)、専門員1、職員1)
7月	身体障害児(者)の家族交流会・レクリエーション実施
11月15日	法人設立記念第1回富谷町福祉大会
12月末日	(富谷町の人口 17,519人 4,555世帯)
60年 1月	社協だよりを発行開始(B5版4ページ)
4月 1日	富谷町より一般職員1名派遣受入れ
5月	訪問入浴サービス事業実施(於 大衡村七峰荘)
61年 2月	在宅寝たきり介護者激励会の実施
5月	2代目社会福祉協議会会長に若生正男氏が就任する
6月	独居老人世帯への会食交流会 春 各公民館で花植え交流会 秋 町内合同のもみじ狩り(日帰り旅行)
62年 4月	在宅寝たきり老人に対する紙・布おむつ支給事業及び斡旋事業
6月	ボランティア菜園づくり事業の実施
63年 4月 1日	事務所を役場から健康センターへ移転
平成 元年 4月	福祉教育活動推進事業の実施 (ボランティア協力指定校・町内全校との連絡会設立)
5月	富谷町ボランティア友の会設立
6月	特殊寝台(ベッド)・車椅子・エアーマットの貸与事業の実施
12月末日	(富谷町の人口 22,871人 6,179世帯)
平成 3年 4月	布団乾燥事業の実施 老人昼食宅配サービス事業の実施 特別会員制度の導入(一口10,000円)
5月	社協だよりをA4版化
平成 4年 3月	町民福祉意識調査の実施 3代目社会福祉協議会会長に内ヶ崎民平氏が就任する
6月	お年寄りもしもし電話相談事業の実施
平成 5年 5月	4代目社会福祉協議会会長に佐藤富蔵氏が就任する
平成 6年 7月	ボランティアセンター運営事業の開始
10月	ボランティアコーディネーターを増員(4名体制となる) (事務局長1(福祉課長兼務)、専門員1、職員1(役場派遣)、 ボランティアコーディネーター1(臨時職員))
12月末日	(富谷町の人口 29,931人 8,538世帯)
平成 7年 4月	富谷町からホームヘルプ事業の受託・実施
平成 8年 6月 1日	臨時職員を増員 事務局長1(福祉課長兼務)、専門員1、職員1(役場派遣)、 ボランティアコーディネーター1、臨時職員1)

年 月 日	事 業 名
平成 9年 4月 1日	富谷町よりの派遣職員を事務局長とし福祉課長兼務を廃止 (事務局長1 (役場派遣)、専門員1、ボランティアコーディネーター1、臨時職員1)
平成10年10月18日	富谷町社会福祉協議会法人化15周年記念大会開催
平成11年 4月 12月末日	ホームヘルプ事業を社協から民間業者に移行 (富谷町の人口 35,617人 10,817世帯)
平成12年 4月	介護保険法施行 経理方式を複式簿記の企業会計方式へ変更
平成13年 4月	老人昼食宅配サービス事業を週1回から週5回へ拡大 ゆうゆうともとの送迎事業受託
平成15年11月 1日 12月	福祉サービス利用援助事業(まもり一ぶ)を県社協から受託 15年度をもってボランティア菜園づくり事業の終了
平成16年 3月 4月 10月 9日 12月 1日 同 日	15年度をもってお年寄りもしもし電話相談事業を終了 5代目社会福祉協議会会長に葛西啓藏氏が就任する 富谷町トーチランに社協として参加 事務所を健康センターから保健福祉総合支援センターへ移転 宮城県、富谷町及び富谷町社会福祉協議会の三者間において 「大規模災害時における災害ボランティアセンターの設置・運営に関する覚書」を締結
12月 4日 12月末日	富谷町社会福祉協議会法人化20周年記念大会開催 (富谷町の人口 41,246人 13,212世帯)
平成17年 3月 4月	16年度をもって、ともともゆうゆうの送迎事業受託終了 社協一般会費を1200円から1000円へ引き下げ
平成18年 1月 2月19日 4月 5月 6月18日 9月 10月 12月	社協だよりを8ページのカラー版化 富谷町災害ボランティアフォーラムを開催 障害者自立支援法施行 社協のホームページ開設 富谷町総合防災訓練に災害ボランティアセンター設置訓練の 為、社協として初参加 子育てサロン「とことこ」事業開始 社協のホームページ内にブログ開設 地域福祉活動推進計画策定委員会の初会合
平成19年 5月末日 10月 12月末日	社協に関する意識調査アンケートの実施 子育てサロン月2回実施へ (富谷町の人口 44,877人 14,854世帯)
平成20年 4月 4月	地域福祉活動推進計画施行 富谷町よりの派遣職員を事務局次長とし体制スタート配置 (事務局長1、事務局次長(役場派遣)1、専門員1、ボランティアコーディネーター1、事務職員1) 委員会制度を改称し、総務運営委員会・福祉事業委員会とする

年 月 日	事 業 名
平成21年 7月	福祉活動専門員を1名増員 (事務局長1、事務局次長(役場派遣)1、専門員2、ボランティアコーディネーター1、事務職員1)
10月	歳末たすけあい募金の配分が申請方式に改正される
平成22年 4月	ふるさと雇用再生特別基金事業にて職員を2名採用し、会食交流事業及び福祉関係団体事務局(3団体)を町より受託する (事務局長1、事務局次長(役場派遣)1、専門員2、ボランティアコーディネーター1、嘱託職員3)
	地域サポーター養成研修事業を町より受託する
10月	二人暮らし高齢者交流会「さわやか交流会」の実施
12月末日	(富谷町の人口 47,924人 16,228世帯)
平成23年 2月	傾聴ボランティア養成講座の実施
3月	東日本大震災発生 町内の災害ニーズ(後片付け等)に対応した災害ボランティア活動や安否確認をボランティアの協力と共に実施
4月	地域福祉活動推進計画中期実施計画施行 東日本大震災における特例資金貸付事業の実施
平成24年 2月	富谷町ボランティア友の会による東日本大震災による転入・避難者支援の「あったか富谷へようこそ」の実施
4月	6代目社会福祉協議会会長に山田吉邦氏が就任する 町からの派遣職員が満了となり、社協体制が7名となる (事務局長1、事務局次長1、専門員2、保健師1、嘱託職員2)
6月	生活福祉資金貸付事業にて職員として、相談員1名を採用する
12月	富谷町の人口が5万人を突破する
平成25年 3月	手づくり食事サービスの会「つくし会」の活動が終了
5月	子育て支援事業の新たな町からの受託事業により、アドバイザー1名を増員 (事務局長1、事務局次長1、専門員2、保健師1、アドバイザー1、嘱託職員3)
8月	とみや育児ヘルプサービス事業の実施(町受託事業)
9月	富谷町社会福祉協議会福祉座談会を開催
10月	とみや子育てファミリー・サポートセンター事業の実施(町受託事業)
12月	富谷町社会福祉協議会権利擁護センター開設
平成26年 3月末日	(富谷町の人口 51,313人 17,816世帯)
4月	地域福祉活動推進計画後期実施計画施行 子育てサロン「とことこ」来場者1万人突破

用語解説

あ行

■NPO（民間非営利組織・民間営利団体）

政府・自治体や私企業とは独立した存在として、町民・民間支援のもとで社会的な公益活動を行う組織・団体。

か行

■苦情解決制度

福祉サービスの利用者等からの苦情を解決するために整備を行う制度。苦情解決の責任者及び受付担当者を置き、中立・公正な第三者委員とともに苦情の適正な解決に努めることとされている。

■協働

行政や民間の異なる機関・団体等が、それぞれの得意分野や特徴を活かし、役割分担を行いつつ連携し、地域の様々な課題を解決したり、新たな仕組みや事業をつくること。

■権利擁護（アドボカシー）

人間としての権利を擁護すること。高齢者や障害のある人の権利侵害（財産侵害や虐待等）が起きないようにすることや、自らの権利やニーズを表明することが困難な人に代わって援助者が代理として権利やニーズ表明を行うこと（代弁）をいう。

さ行

■災害ボランティアセンター

主に災害発生時のボランティア活動を効率よく推進するための組織である。センターにもいくつかの役割があり、各地で研修等が行われている。

■サロン活動

地域の集会場などを拠点に、高齢者や障害者、子育て中の親子等の外出の機会の少ない人たちなど、地域のだれもが気軽に集まる仲間づくりや交流の場。

■小地域福祉活動

小地域（行政区・学校区）を単位に、地域での見守りや支援を必要とする方を対象に、近隣の人々が見守りや援助活動を展開するもの。

■スキルアップ（フォローアップ）

技量・技能向上のこと。

■成年後見制度

認知症や知的障害、精神障害の方など、判断能力が十分でない方の財産管理や身上監護を、代理権・同意権・取消権が付与された成年後見人等が行う制度。本人の判断能力に応じて、補助・保佐・後見の3タイプがある。

た行

■地域コミュニティ

住民が主体となり、お互いに支え合い、共に地域で幸せに暮らすことができるような地域社会の実現を目指し取り組んでいる活動を指す。

■地域福祉活動計画

富谷町における住民主体の地域福祉活動やボランティア活動、さまざまな団体・グループによる地域福祉活動などをふまえて、今後の活動の理念、方向性と活動の内容、方法などを示す計画である。

な行

■日常生活自立支援事業

認知症や知的障害、精神障害の方など、判断能力が十分でない方の福祉サービス利用援助や日常金銭管理サービス、書類等の預りサービスを行い、地域生活を支援する事業。

また、本事業のサービスを越える支援を必要とする方については、成年後見制度の利用が必要となり、両制度間の連携促進が求められている。

は行

■福祉座談会

同じ地域に住む住民同士が地域の課題や解決策を話し合う取り組みを指す。

■ボランティアコーディネーター

ボランティア活動をしたい人と必要とする人をつなぐ調整役のことを指す。

■ボランティアセンター

ボランティアセンターとは、社会福祉協議会内に設置されており、ボランティアの活性化を図る組織である。ボランティア情報の収集と発信、ボランティアコーディネーター業務、ボランティアに関する研修の場や情報交換の場として機能している。



社会福祉法人
富谷町社会福祉協議会
富谷町ボランティアセンター

〒981-3311

宮城県黒川郡富谷町富谷字桜田1-1
(富谷町保健福祉総合支援センター内)

TEL 022-358-3981 FAX 022-358-3512

URL <http://www.tomiya-shakyo.or.jp/>

E-mail tomiya-shakyo@cap.ocn.ne.jp

発行：平成26年6月

編集：富谷町社会福祉協議会